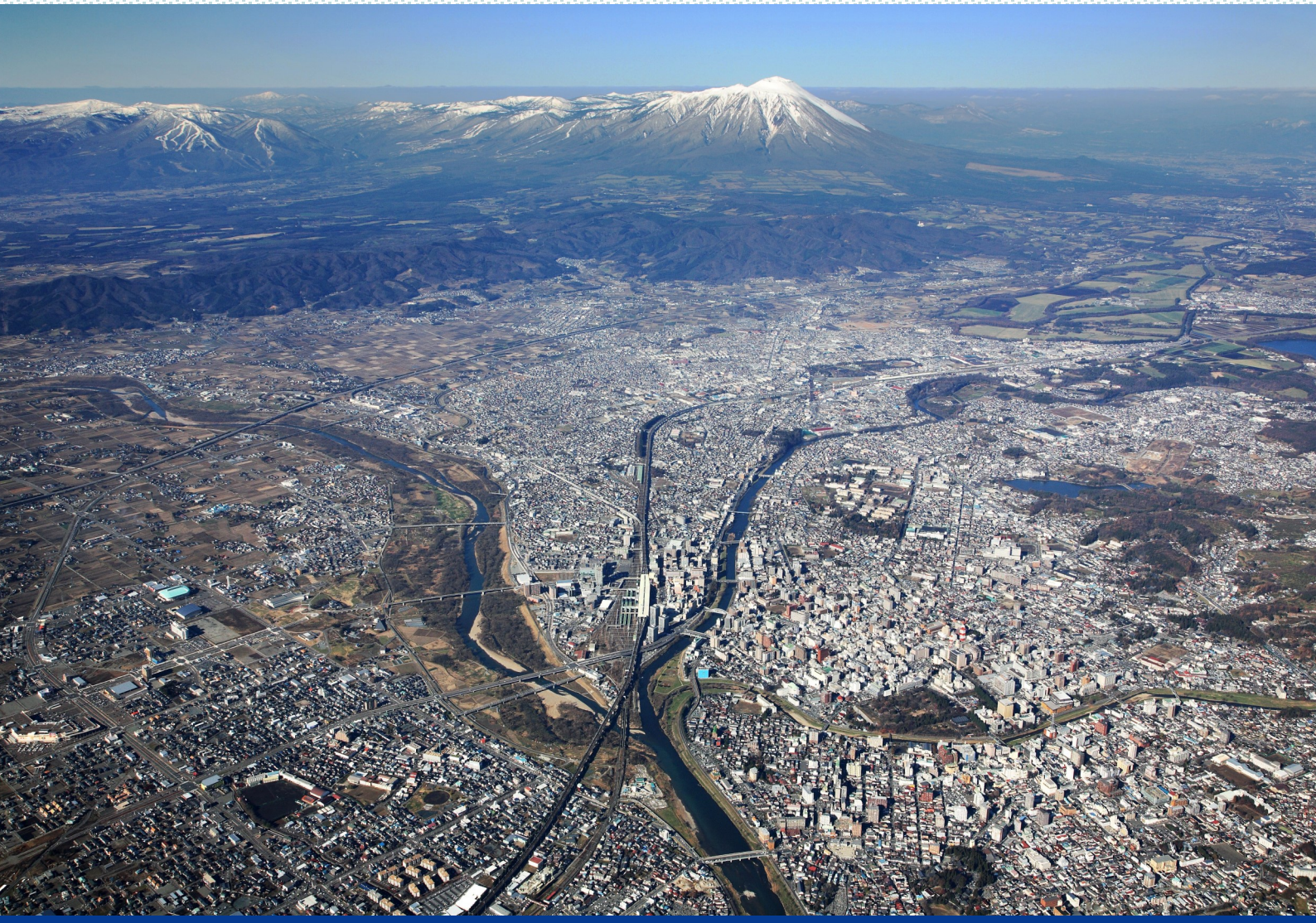
令和元年度

北上川『流域圏』推進交流会議

～多様な交流と連携によるネットワークづくり～

報　告　書



北上川「流域圏」フォーラム実行委員会

本事業は（一社）東北地域づくり協会の公益事業の支援により実施しています。

北上川流域において、川をテーマに活動をしているＮＰＯや行政などが集い、相互の交流と連携を深める機会として、本交流会議を開催しました。

顔の見える関係づくりを進めることにより、活気ある流域社会を目指していきます。

目　次

令和元年度　北上川「流域圏」推進交流会議

（１）挨　拶 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

主催者挨拶　平山 健一 実行委員長 ------------------------------ 1

来賓挨拶①　東北地方整備局河川部 河川環境課長　齋藤 茂則 氏 ---------- 2

来賓挨拶②　北上市企画部政策企画課 課長　斎藤 昌彦 氏 ------------- 3

（２）流域活動発表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

①「故郷の川を愛する子どもの育成を目指して～自然体験の中から学ぶこと」（石巻市立湊小学校） ---- 5

②「胆沢ダムを活用した広域による体験型観光の推進」（奥州市商工観光部商業観光課） ------ 15

③「サマーチャレンジ奥州 2019　つぶ沼キャンプ場カヌー体験」（(公社)水沢青年会議所） ------ 21

④「私は如何にしてお金の心配をするのをやめて西和賀を愛するようになったか」（ネビラキ） ---- 25

⑤「石巻市・旧北上川における『かわまちづくり』の展望」（(株)街づくりまんぼう） -------------- 32

⑥「木伏緑地整備と今後について」（盛岡市都市整備部公園みどり課） -------------------- 38

（３）河川行政の取組報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46

①「令和元年台風第19号の被害状況とその対応状況」（岩手県県土整備部河川課） ---------- 46

②「令和元年台風第 19 号について」（北上川下流河川事務所） ------------------------ 56

③「盛岡地区かわまちづくりについて」（岩手河川国道事務所） -------------------------- 63

④「北上川5大ダムの最近の話題」（北上川ダム統合管理事務所） ---------------------- 70

（４）意見交換　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79

～ 発表・報告を受けて ～

（５）表彰式　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90

～ 奨励賞、特別賞 ～

参 考 資 料

（１）実行委員会規約　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 92

（２）実行委員会名簿　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94

協 賛 企 業

プログラム

□ 13:00　開 会

主催者挨拶　平山 健一　実行委員長

来賓挨拶　東北地方整備局河川部　河川環境課長　齋藤 茂則 氏

北上市企画部政策企画課　課長　斎藤 昌彦 氏

□ 13:15　流域活動発表

① 「故郷の川を愛する子どもの育成を目指して～自然体験の中から学ぶこと」

石巻市立湊小学校　校長　坂本 忠厚 氏

② 「胆沢ダムを活用した広域による体験型観光の推進」

奥州市商工観光部商業観光課　課長補佐　小山 和彦 氏

③ 「サマーチャレンジ奥州 2019　つぶ沼キャンプ場カヌー体験」

(公社)水沢青年会議所　副理事長　浅利 祐輔 氏

④ 「私は如何にしてお金の心配をするのをやめて西和賀を愛するようになったか」

ネビラキ　瀬川 瑛子 氏

⑤「石巻市・旧北上川における『かわまちづくり』の展望」

(株)街づくりまんぼう　課長　苅谷 智大 氏

⑥ 「木伏緑地整備と今後について」

盛岡市都市整備部公園みどり課　課長　森　勝利 氏

～ 休憩 ～

□ 15:00　河川行政の取組報告

① 「令和元年台風第 19 号の被害状況とその対応状況」

岩手県県土整備部河川課　総括課長　幸野 聖一 氏

② 「令和元年台風第 19 号について」

北上川下流河川事務所　副所長　外山 久典 氏

③ 「盛岡地区かわまちづくりについて」

岩手河川国道事務所　所長　佐近 裕之 氏

④ 「北上川５大ダムの最近の話題」

北上川ダム統合管理事務所　所長　斉藤 喜浩 氏

□ 16:00　意見交換　～発表・報告を受けて～

□ 16:50　表彰式（奨励賞、特別賞）

□ 17:00　閉 会

〔主催者挨拶〕

実行委員長　平山 健一

皆さん、こんにちは。北上川流域圏フォーラム実行委員会の平山健一です。

まさに展勝地は北上川の市民活動のホームグラウンドであり、毎年、市民の皆さん・行政の皆さんが一同に会して北上川「流域圏」推進交流会議を続けてまいりました。今年もこのように沢山お集まりをいただき誠にありがとうございます。

国土交通省東北地方整備局河川環境課長の齋藤茂則様、北上市企画部政策企画課長の斎藤昌彦様には、この後のご挨拶をよろしくお願いします。また本日、情報提供、活動報告をしていただきます皆様、ご苦労さまですがよろしくお願いします。

本日の参加者には交流会の初代代表の新井さん、平成７年頃から永い間、お世話になってきた元胆沢ダム工事事務所長の井山さん、元岩手工事事務所長の北川さんもお見えになっています。沢山のご紹介したい人がいますがこのあたりで止めさせていただきたいと思います。本当に皆さまには何時もご参加をいただきありがとうございます。

我々が北上川の市民活動をスタートしたのが平成７年で、「北上川流域連携交流会」という北上川流域全体の市民団体がまとまって組織を作りました。最初の活動は「リバー・マスター・スクール」という川の学校を作って沢山人材を養成する等、流域の活性化に貢献して来ましたが、20 年という時間の中でいろんなことがありました。最近は流域全体を見据えた広域にわたる活動がだんだん弱まってきて、流域連携を目的にしていた我々にとっては物足りない状況が続いておりました。

６年前に展勝地の軽石さんの呼びかけで、昔の仲間を集めて「川の友、船の友の集い」が開かれましたが、この集まりが契機となって再び流域の絆を強めたいという我々の気持ちに火をつけることになり、活動の再出発の大きなきっかけとなりました。

平成 26 年には官民の川の仲間を中心にして、新たな「北上川流域圏フォーラム実行委員会」が結成され、北上川「流域圏」の活動が再び始まり、その後、集まりの名称を「北上川流域圏推進交流会議」として、市民団体を中核にした広域的な市民活動の支援と行政との交流を続けておりますが、今年は軽石さんが提案されてから、ちょうど７回目を数えます。

実行委員会では、年に１回、本会議の開催、ホームページを運用して連絡や情報提供の行う外、「かわ街づくり」のシンポジウムを企画する等の事業を行っていますが、今年度はもう少し原点に戻って、舟を使って流域内の結びつきを強化するために、「川でつなぐ交流促進事業」を始めました。

上下流を結ぶ大掛かりな舟下りは、軽石さんや北上川サポート協会が企画して、平成 15 年にひらた舟を復元して、ここ展勝地から石巻まで往復するイベントがありましたが、それ以来、上下流を結ぶ大がかりな川下りはありませんでしたので、今年は久しぶりに盛岡から石巻を目指して川の現状を把握するため試験的な川下りを試してみました。

後ほど「意見交換」の中でその様子を報告していただきますが、これは次年度も続けたいと予定の事業ですので、積極的なご意見をいただければと思います。

さて最近の流域の市民活動ですが、この度、北上川サポート協会、北上川フィールドライフクラブの白畑誠一さんが、それぞれ岩手日日新聞・文化賞を受賞しました。また地域の活性化に水辺を活用したいという盛岡市、石巻市の経済界・商工会の皆さん

の盛り上がり、北上川舟運の歴史文化が専門の博物館の皆様の多様な企画等、いろいろなうれしい動きがありました。 この様に川に関わる市民の関心は、これまでの治水、利水、環境といったどちらかといえば「守りの活動」から、街づくり、環境・防災教育、観光、文化、遊びなど、川の様々な側面に広がっており、川の応援団は流域社会に沢山いることに気がついた１年でもありました。

これからは「みんなの川」である北上川のあり方について、いわゆる直接の受益者だけでの議論ではなくて、もっと幅広い利用者を含めて、総合的に、多面的に考えていかなければならない時が来ているように感じます。

私自身も、もう年をとってあまり川には行けないですが、できるだけ多くの団体を訪問することに努めて、川の愛好者を発掘し、現場の課題を学びながら、社会全体がもっともっと川に関心を持ってもらうということに努めて参りたいと考えているところです。

川のへ関心の高まりは、地域防災体制の強化や温暖化による水需要の変化への対応という点でも幅広い議論の場を提供することにつながることは言うまでもありません。

最後に、会の運営につきましては、東北地域づくり協会の公益事業の補助や会員の皆様からのご寄付を財源にしておりますが、国土交通省の各事務所、岩手県、宮城県からも様々なご支援をいただいており、この席をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。また事務局の皆様にはいつも献身的な活動、貢献をいただき有り難うございます。

今日の会議が、お互いの絆を更に強めていただく機会になれば幸いです。

皆さん、活発な議論をよろしくお願い致します。

〔来賓挨拶①〕

東北地方整備局河川環境課長　齋藤 茂則 氏

まず、今日この会に参加させていただきまして、誠にありがとうございます。

日ごろから私どもの河川事業にご理解と連携を賜っていること、そして何よりも皆様が活動いただき、地域の方々との連携が深まっていくこと、輪が広がっていくことに深く感謝を申し上げます。

今年の話題となるのは、先般の台風 19 号かと思います。

昨年度も西日本で大きな被害が発生したのですが、今回の東日本の浸水面積がそれを上回る浸水面積だったこともあって、甚大な被害を被っているところです。

これから本格的に復旧が進んでいくわけですが、その中で治水といえば堤防を上げる、川幅を広げる、いろいろそういうハード的な話が話題になります。もちろん、ハード的な対策も大事です。

加えて、最近では関係機関による減災協議会ということで、「逃げる」ことを意識して、地域の皆様にも知っていただくいろいろな活動に取り組んでいます。

そういう活動の他に、治水対策というハード、ソフトだけではなくて、最近の話題でいいますと、耳慣れないかもしれませんが、エコ-DRR（「生態系を活用した防災・減災（Ecosystem-based disaster risk reduction；Eco-DRR)」）というような言葉が出てきています。流域の生態系が持つ効用を用いて減災をしましょうというような話があります。

これは国交省などいろんな組織が取り組みはじめ

てきています。イメージ的には里山の河川において、例えば川の脇の樹木、通常であれば河畔林として生態系に寄与している。ただ、いざというときは、川が氾濫するときは減水効果を持つなどです。その意味合いとして、治水に対して流域としての取り組みがやはり大事になってきていること、また、流域に住む皆様にこれを知っていただいていくことが大事になってきていると思います。

この場で私の前任が話をしてきているかと思いますが、例えば、河川を基軸として、地域の活性化等々、環境の保全を進める生態系ネットワーク、それから、川づくりを通して地域と地域振興に寄与するかわまちづくり等、鋭意進めているところです。

かわまちづくりに関しては、北上川では石巻、盛岡で取り組ませていただいていますが、今後、一関市も手を上げており、申請を進めてきているところです。

これらも一緒になってまた進めたいと思っていますし、皆様と一緒に河川管理者というパートナーということで取り組んでいる、河川協力団体制度、これもまた引き続き進めていきたいと思っています。今、東北で 59 団体ありますが、その三分の二以上の 20 数団体は北上川流域で、やはりこの北上川に住む皆様の活動はすごいなと思います。

そのような取り組みも進め流域と連携しながら、治水にも取り組んでいきますので、引き続きよろしくお願いしたいと思います。

最後になりましたが、本日この会ご尽力いただきました平山実行委員長、実行委員の皆様、それから今日参加いただいた皆様に感謝しまして、私の挨拶といたします。

本日はどうぞ、よろしくお願いします。

〔来賓挨拶②〕

北上市企画部政策企画課長　斎藤 昌彦 氏

本日は市長にご案内をいただきましたが、公務出張で不在なため代理で私が出席させていただきますので、よろしくお願いします。

この会議が、毎年この展勝地に集まって開催していることに対して、本当に感謝申し上げますし、市としても歓迎しています。

ここに広がる展勝地公園、再来年に開園 100 周年を迎えるにあたり、市民の方々と一緒に盛り上げていこうと、結構前から準備を進めてきており、最近目に見えて準備が進んできています。

お気づきになった方もいるかもしれませんが、まず、そこにあるＳＬの向きが変わって、場所が変わりました。ＳＬを移動させて、そこに新しい広場を作るということで、秋に地域の保育園の子供達と一緒にＳＬをぐっと引っ張って移動するというイベントをしたところです。

あともう一つ、ここの駐車場の北側にひらた舟がありました。そこになくなったのにお気付きになった方もいるかと思いますが、ひらた舟は昭和 62 年に作った天神丸。ちょっと傷みはありましたが、お化粧直しをして縦に半分に切り、ここの上にある市立博物館のテラスに展示しています。舟の上にあがって見ることも出来るという立体的な展示として再活用しています。

その展示に合わせて９月 21 日から、残念ながら明日で最後ですが、特別展「北上川舟運と海」というタイトルで開催しています。ひらた舟はずっと外のテラスに展示しており、いつでも乗船できますので、

機会がありましたら是非行って見ていただけたらありがたいと思います。

本日は、北上川流域の様々な状況についてご紹介いただけるということでしたので、事例を勉強させていただいて、今後の北上川の活動に活かしていければいいなと思っています。

よろしくお願いします。

流域活動発表

① 石巻市立湊小学校

② 奥州市商工観光部商業観光課

③ (公社)水沢青年会議所

④ ネビラキ

⑤ (株)街づくりまんぼう

⑥ 盛岡市都市整備部公園みどり課

流域活動発表①

「故郷の川を愛する子どもの育成を目指して
～自然体験の中から学ぶこと」
石巻市立湊小学校　校長　　坂本　忠厚　氏

湊小学校は石巻のちょうど北上川の河口にあり、石巻の一番東側のほうにある学校で、全校児童 136 名です。震災前は 500 人近く児童がいましたが非常に被災が大きなところで、２つの学校が統合しました。今は、その中で地域の復興と子どもと共に新しい街づくりということで考えています。

学校のすぐ近くを流れる北上川。“ふるさとの川を愛する子どもたちを、自然体験を通して育んでいきたい”これをひとつの学校教育の柱として考えています。

お配りした資料には、実際に活動を行った、石巻の近くの石井閘門の近くのカヌー体験、それから登米市で行った北上川の川下りの様子を写真で掲載していますので、そちらをご覧ください。

今日は２つ、今お話した５、６年生を対象にした石井閘門でのカヌー体験の様子。
その日、東北放送でテレビ放送していただいたので、それをまずご覧いただきたいと思います。

――　動画再生　――

それからもう一つ、私は現在湊小学校に勤めていますが、震災時は、石巻市の教育委員会に勤めていまして、その中で今日も来ている新井さんにいろんな形で協力をいただきました。

新井さんの活動について、特に震災後の取り組みを中心とした紙芝居を作成して、昨日も学校の５年生の前で読んできましたが、いろんな形で、啓発しているところで、今日は皆さんにその紙芝居をご覧いただきたいと思っています。

具体的には３月 11 日の東日本大震災の後、すぐ、その直後の７月に石巻市立の荻浜小学校という、非常に被災の大きなところで、夏休み前の７月に子どもたちを海につれてカヌー体験をさせたということです。それについての経緯についてまとめましたのでお聞きいただきたいと思います。

――　朗読　――

【波を乗り越えて、カヌーにかける熱い思い、水平線の向こうには輝く未来がある。

これは、海と共に生きてきた、浜の子どもたちにカヌーを通して希望を与える。

新井偉夫さんの小さな挑戦のお話です。

今から 20 年前のことです。

北上川上下流交流会というお祭りに参加した新井偉夫さんは、生まれて初めてカヌーに乗りました。

簡単そうに見えたものの、実際に乗ってみると大違いです。

グラグラして立つこともできず、オールを動かしても思ったように進みません。

新井さんはスイスイと進む他のカヌーを羨ましく見ていました。

「大人でも難しいな。」

その時、新井さんは長年考えたことが、ふと頭に浮かびました。

「これを子どもたちにやらせてみたらどうだろうか。」

学生時代に卓球やバスケットに取り組み、スポーツ好きの新井さんでしたが、カヌーには今までにない魅力を感じたのです。

早速講習会に参加し、小型船の免許を取りながら、カヌーの技術を学び始めます。

新井さんは､子どもたちが自然の中で遊ぶ機会や、みんなで協力してがんばりぬくことが少なくなっていることを心配していたのです。

カヌーを体験することで、子どもたちは大自然に触れ、協力し合わなければならないことを学ぶはずだ。

カヌーを通して子どもたちを逞しく育てたいと考えた新井さんの思いは地元の新聞で紹介されました。

すると近くの学校から、授業の中でカヌー体験を取り入れたいという話があり、それを機に市内の学校にも少しずつ広まっていきました。

最初は怖がっていた子どもたちは基本から学ぶことで、みるみる上達していきました。

しかし、勝手に動いたり、無茶をするとカヌーは転覆してしまいます。

転覆したのは自分の責任、起き上がるのも自分の責任です。

カヌーは面白さも､厳しさも教えてくれるのです。

子どもたちの行動をやさしく見つめる新井さんは、怒ることはしません。

失敗してもほめるのです｡自分が失敗した体験は、自分の力になることを知っているからです。新井さんの下でカヌーを体験した中には、地元の高校で本格的にカヌーを学び、全国大会に出場した選手もいました。

活動の場所を学校だけでなく、地域にも広げた新井さんは、2000 年から子どもサミットを立ち上げ、カヌー体験を通して子どもたちの発表と交流の場を作りました。

多くの友達をつくり、みんなの前で自分の思いを発表することは子どもたちを大きく成長させました。

サミットで自信をつけた内気な女の子は、中学校の言論大会に出場するようになりました。新井さんの活動は、いつも順調だったわけではありません。

カヌーを体験したことのない子どもや、保護者の中には、

「怪我をする」「カヌーをやると服が汚れる」

と、嫌がられることもありました。

たくさんチラシを配って張り切って待っていても、参加者が数人ということもありました。それでも新井さんは“たった一人でもカヌーを体験したことは、その子の力になる”ということを信じ、地域に呼びかけ続けました。

カヌーの活動も、やっと調子づいてきた 2011 年３月 11 日。いつもと変わらない一日が始まりました。

午後、新井さんは市役所の中で打ち合わせをしていました。

「どどどどどどーん、どどどどどどーーん。」

２時 46 分、突然大きな揺れを感じました。

これまでにない長い揺れでした。

これはただごとではないぞ､きっと大津波がくる。

車を駐車場においたまま、自宅に戻ろうとするとまた大きな揺れがきました。

やっとのことで外に出ると、新井さんは羽黒山という高台にあるおばさんの家に避難しました。

新井さんは今から五十年以上も前に、三陸沿岸を襲ったチリ津波を牡鹿半島で体験しました。

真っ黒になった引き波が、音を立てて沖に吸い込まれていく様子を目の前で見ました。

「津波はなんと強い力を持っているのだろう｡自然の前に人間は何も出来ない。」

そのときの怖さは今でも忘れることはありません。

石巻市内には大津波警報のサイレンが鳴り響きました。

新井さんは雪が降る中、周りで何が起きているのか全くわからず、部屋の中にいました。ラジオの声だけが聞こえる中で、静かに夜を迎えました。

新井さんは恐る恐る外に出てみると海のほうは真っ赤に燃えています。

人々の悲鳴も聞こえました。

これはいったい夢なのか現実なのかもわからなかった新井さんは、とにかく
「朝になってほしい、朝になってほしい」
とだけ祈り続けました。

次の日の朝、街は別世界でした。新井さんは声も出ませんでした。

それからは、寒さと空腹を我慢する日が続きました。

新井さんは自分の家に戻ると、市内を回りながら被害の大きい人達を手伝ったり、食べ物を振舞う炊き出しを行ったりしていました。

みんな、その日を精一杯生きるだけでした。
あの震災から４ヶ月ほどたったある日のことです。

新井さんは海のそばにある、石巻市立荻浜小学校の校長先生から相談をうけました。

その学校では、毎年夏休みに学校に泊まり、釣りや海水浴をするサマーキャンプを行っています。

子どもも大人もとても楽しみにしている行事です。しかし、今年は今までとは違います。

海岸近くの家はほとんど流され、その後には舟や車も積み上げられています。

人は歩くこともできません。

みんなの大好きだった海は、沢山の命や家を一瞬のうちに奪ってしまったのです。

校長先生は新井さんに向かって静かに言いました。
「新井さん、こんなときになんだが、子ども達を海に連れて行って、カヌーに乗せてやりたい。まだまだ荻浜は震災の後も残っているし、みんな大変な生活をしているのはわかる。海を見るのさえ怖い人達もたくさんいる。それは十分にわかっている。でも、新井さん。」

校長先生は荻浜の波にもまれ、潮にもまれながら育った子ども達の何人かは、そしていずれはほとんどの子ども達が、この土地を離れなければならないことを知っていました。

故郷の海は怖いという気持ちのままで、よその土地に出したくない。

校長先生の子ども達への思いは新井さんにも伝わりました。
「やりましょう！」
と新井さんはきっぱりといいました。

新井さんもあの津波は本当に悲しい出来事だったけれども、子ども達はこれを乗り越えて生きていかなければならないと考えていたのです。

しかし、新井さんには不安なこともありました。浜に残っている沢山の物はどうしたらよいだろうか。

次の日、地元の人に相談すると二つ返事で答えてくれ、さっそく片付けの作業が始まりました。

遠くから来た多くのボランティアさんも手伝ってくれました。

浜はみるみる綺麗になっていきました。

新井さんには、もう一つ不安なことがありました。

子ども達や親の皆さんは、津波のあったばかりの海の上でカヌーに乗ることをどう思うのだろうか。
新井さんは不安でいっぱいでした。
「反対されるだろうか。もしかして、きついお叱りをうけるかもしれない。」
と覚悟して親と子ども達の前で自分の思いを正直に語りはじめました。

すると、新井さんの心配をよそに、親の方達から「お願いします、新井さん。新井さん、子ども達を参加させてください。」
という声が聞こえたのです。新井さんは一瞬戸惑ってしまいました。

親の人たちは続けました。
「私達はこの震災で多くのものを無くしました。でも、今ここにいます。私達は生かされたと思っているのです。子ども達にももう一度海が好きになってもらい、この桃浦湾を元のように元気な浜にしてほしいのです。」

新井さんは驚きと嬉しさで胸がいっぱいになりました。

「よし！やるぞ！」

７月 21 日､桃浦湾には４か月ぶり大きな歓声が響き渡りました。

子ども達の笑い声です。みんなで力を合わせてカヌーを動かす姿は真剣そのものです。

本当に久しぶりの浜の賑わいでした。

岸壁から見つめるたくさんの人達もちょっと笑顔になりました。

４カ月前のあの日､浜を飲み込んだ真っ黒な海は、あの日を忘れたかのようにどこまでも青く広がっています。

「やってよかった。」

新井さんは校長先生と目を合わせてうなずきました。

そして、海の中でカヌーに乗っている子ども達に向かって、心の中で呼びかけました。

「おーい、よく聞けよ。石巻は海と川の街だ。自然の力はすごいぞ、強いぞ。でも、負けるなよ。みんなで力を合わせ、今みんなが乗っているカヌーのように､海の上を駆け巡るんだ。」いーちに。いーちに。いーちに。いーちに。」

子ども達の元気な掛け声が、湾の中いっぱいに響き渡ります。

新井さんはいっそう優しい眼差しで子ども達を見つめていました。

いつまでも、いつまでも、見つめていました。】

―― 朗読 ――

というお話です。

このような実践、それから新井さんの活動等を通しながら、学校から地域に「川の大切さ、そしてこれから子ども達の未来」ということを発信していきたいと考えています。

校長室だより　No.２２　令和元年６月２１日

湊小の窓

石巻市立湊小学校

『地域と共に歩む“開かれた学校をめざして”

自然の中で“カヌー体験”

１３日、５，６年が北上運河で行ったカヌー体験では、北上川、水門の働き・自然の中で協力し合うことの大切さを体験を通して学びました。たくましく生きる力をこれからも育んで欲しいものです。＊写真は５年生の活動の様子です。

水門は何のために？

北上川の特徴は・・・・・

メンバーが協力し合って初めて前に進みます。

宮城県東部土木事務所・ひたかみ水の里の皆さん、ありがとうございました。５年生集合。

北上川の自然をいつまでも守っていきます。

６年生の活動の様子

パワーある６年生は、最後はスピードを競うレース。水門から橋まで三往復しました。水辺の魚や植物についても知ることができました。

カヌーの向きをそろえて、カメラに注目。みんな勢ぞろいしました。

ふるさとの川『北上川の歴史と自然』

１１日(木)３校時　「第4学年ふるさと学習･北上川の歴史と自然」の特別授業を実施しました。　北上川の特徴（歴史や自然）を知ることで，地域の自然に関心をもたせるとともにふるさとを愛する豊かな情操を養うことをねらいとました。２学期に実施する北上川遊覧船分流めぐりの事前学習です。

講師として，北上川に造詣の深い

とよま北上川かっぱの会　理事 舟嶋　茂昭　先生【写真左下】においでいただきました。

◆北上川はどういう川　（源流から河口まで，水質，動植物）

◆北上川の歴史，旧北上川分流施設の役割など，　映像を交え，詳しくお話してもらいました。子どもたちは，一時間の間に，岩手県岩手町の源流から，石巻市の河口まで，近くの町並みや，風景，川にすむ魚や動植物，詩人石川啄木のふるさと等を映像で楽しみながら，船くだりを楽しんだ気分になりました。

スズキ，マス。ウグイ，ナマズ，サケなどの魚やカモ，サギ，カワセミなどの鳥など知っているもの　も多く，川と共に多くの生物がいることを学びました。

９月２日（月）には，舟嶋先生の案内で，遊覧船に乗りながら登米市の脇谷閘門，北上川歴史公園などの見学を行います。

＊写真は，当日の学習の様子です。

『北上川博士』をめざしてがんばるぞ

ありがとうございました。『お礼の歌と演奏』

舟嶋先生の楽しいお話のお礼に，４年生は，聖者の行進のリコーダー二重奏いろんな木の実の合唱奏を披露しました。

先に音楽集会で発表したとあって，さらに，磨きのかかった出来映えに舟嶋先生もにっこり。「みんなの息もぴったりで，常夏の雰囲気を運んできてくれた，上手な歌とリコーダー演奏でした。・・・・」とほめていただきました。

その後，全員で，得意のコマを披露。次々と繰り出す技に，先生もびっくりしていました。

＊舟嶋先生は，登米市出身で，長く小学校の教員をされ，石巻市立谷川小学校（旧牡鹿郡牡鹿町）に勤務されたこともあります。新任の頃に，湊小学校の方にも来られたことがあり，［当時，湊小は体育の公開研究指定校として，体力づくりに力を入れていました。裸足で校庭を走るということや乾布摩擦（かんぷまさつ）など，行われていた・・と懐かしそうに話されていました。］

＊写真は，舟嶋先生を前に，歌と合奏のプレゼント・コマの技を披露する４年生。

６年生が選んだ湊小ベストショット７月１２日（金）

タイトル「静かな教室」　～朝読書の時間～

撮影者　　６年１組　水野 伶美

ホームページ愛読者の方からは，

＊子どもたちが，真剣に本を読んでいる様子が伝わってきます。一日のスタートが静かな読書から始まるというのもいいですね。すてきな教室です。

＊児童といっしょに，先生も本を読んでいるのがすばらしい。読んだ本についての会話があると，読書好きな子もたくさん増えていくことと思います。・・・・・

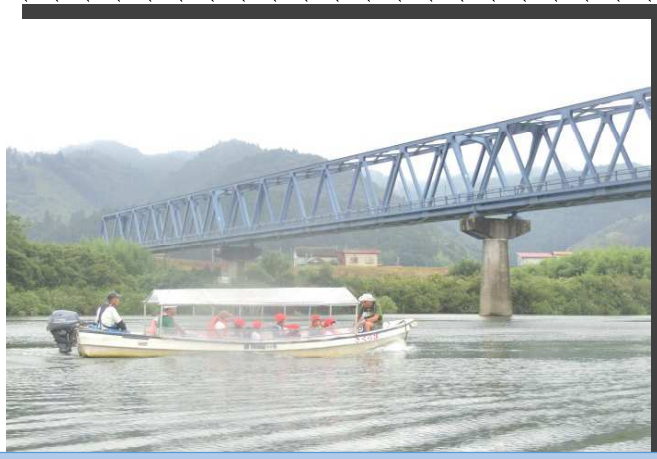
等の感想をいただきました。

北上川・船下り体験４年

２日，これまで学習した北上川の特徴（歴史や自然）の学習の発展として，北上川遊覧船分流めぐりを行いました。登米市寺池の船着場より１時間の舟下りを行いました。途中，脇谷閘門の開閉も体験し，河川歴史公園も探索しました。前回の学習に続き，とよま北上川かっぱの会 舟嶋　茂昭　先生始め，宮城県北上川下流河川事務所職員の多くの方に協力いただきました。学習したことは，これから，**はがき新聞にまとめ『北上川の秘密発見～湊小４年生からのメッセージ～』**として発信する予定です。

たくさんの方にお世話になりました。

河川事務所には、特大の北上川航空写真地図があり、源流から河口まで歩く体験もできました。⇓



舟に乗って，北上川の景色，橋の下，近くの町並みなどいろいろな風景を見ることができました。
川の働きや近くに住む動植物などについても教えてもらいました。

脇谷閘門の見学　↓

流域活動発表②

「胆沢ダムを活用した広域による体験型観光の推進」

奥州市商工観光部商業観光課

課長補佐　小山 和彦 氏

本日「胆沢ダムを活用した広域による体験型観光の推進」ということで、現在進めています業務の説明をしたいと思います。胆沢ダムの概要と課題から、本年度の取り組み状況といったもので進めたいと思います。

始めに胆沢ダムの概要と課題です。

胆沢ダムについてはご存知の通り、平成 25 年に完成した、わが国最大級のロックフィルダムです。

ダム湖周辺の奥州湖では、焼石ビーチラインや、栗駒焼石ホットラインと共に、四季折々、癒しと空間を提供しています。

このように豊かな自然を有する胆沢ダム及び奥州湖周辺は、観光地としても高い潜在能力を秘めている所です。

しかし、現段階ではこれらをうまく活用した観光開発にはいたっていない状況です。

このような現状を踏まえ、奥州市では奥州市観光基本計画の見直しを行いました。

この見直しについては、これまでの取り組みの反省、社会情勢やニーズの変化、新たな計画との整合性といったことを加味した上で、平成 29 年度に見直しを行いました。

見直し後の観光基本計画では、観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化を目指すとし、その中で、胆沢ダム、奥州湖を活用した観光開発の強化を見直しの重点ポイントとして位置付けております。

奥州湖周辺の自然を活かしたカヌーとか登山・キャンプ・釣り等の自然体験メニューについては、特に推進していく必要があり、併せて他の観光地とのネットワーク化を図りながら、推進していくことにより交流人口の増加、または地域の活性化を図ろうとするものです。

具体的な取り組みを検討するにあたりまして、今一度胆沢ダム周辺における市の施設の位置を確認していただければと思います。

胆沢ダム周辺の施設整備については、馬留広場やカヌー競技場といったものが概ね一定の整備を終えています。

今後はこれらの施設を最大限活用するという取り組みが重要になっています。

そこで市では、以前国交省のダム学習館で、現在は奥州湖交流館ですが、ここを胆沢ダム周辺における各種体験活動などの普及や情報発信といった観光拠点施設に位置づけることとしています。

奥州湖交流館の位置付けです。奥州湖交流館が観光拠点施設という位置づけを明確にし、今年度からは特に体験型観光といったものを確立すべく、取り組みを進めようと検討していたところです。

しかし、ここで大きな問題として、新たな体験型観光を推進するためには、どうしても新たな財源の確保といった部分が課題となりました。

それを検討するにあたって、財源確保にあたり奥州市では奥州市、北上市、金ケ崎町、西和賀町の２市２町において、定住自立圏といったものを平成 27 年９月に形成しています。

この定住自立圏の共生ビジョンによって広域観光の推進といったものを掲げておりますが、具体的な事業には至っていない状況でした。

そこで、ダム流域連携･広域ウォーターランド構想といったものを掲げ、取組みを進めていこうとするものです。

このような形で圏域内における連携事業に対し、国からの特別交付税といったものを財源にして取り組みを進めようとするものです。

初めての試みとなる今年度では、奥州市の胆沢ダムと、西和賀町の湯田ダムにおいて取り組みを進めてきました。

将来的にはこの胆沢ダムと湯田ダムを両極に、その中間に位置する入畑ダムと千貫石ダムを流域のひとつのウォーターパークととらえて、各ダムの優位点をつなぐと共に、和賀川、胆沢川、北上川、さらにその水源地である奥羽の山々を含めた、広域アクティビティウォーターランドとしてカヌーやラフティング、サップ、トレッキング等の体験プログラムとツアーを実施できればと考えているところです。

今一度ここで、広域連携の利点です。広域連携の利点は　胆沢ダムの優位面と湯田ダムの優位面をつないで連携することで、長い観光期間と多様で新しい体験観光を広域で実現しようとするものです。

具体的に今年度の部分ですけども、胆沢ダムにおいては、体験型観光を行える期間は５月下旬から９月初旬までの約３ヶ月半と短い期間となっています。

一方、湯田ダムにおいては４月、５月に見られる水没林や新緑、10 月の紅葉は有名で、春と秋の水上観光の魅力は高いものとなっています。

また一方で、夏の渇水期における湖面利用が進んでいないということがありました。

そこで胆沢ダムと湯田ダムが連携し、双方の利点をつなぎ、マイナス面を補うことで春から秋までの長い間、多様化するウォータスポーツに対応した体験メニューを充実させることによって交流人口を増やすと共に、観光客の増加とリバーガイドなどの定住化にもつながるといった広域連携の利点があると考えているものです。

このような構想のもと、今年度、胆沢ダムにおきましては、カヌーやＥボード体験を全 27 回、ラフティング体験会を 30 回、サップ体験会のほかレスキュー講習会など９回、全部で 66 回実施しまして、延べ 546 名の参加者が胆沢ダムの魅力を肌で感じていただきました。

今後、これらの体験に加え、トレッキングや登山なども取り入れると共に、胆沢ダムの魅力を発信できる人材の育成と確保に努めていきたいと考えているところです。

令和元年度　北上川「流域圏」推進交流会議

胆沢ダムを活用した
広域による体験型観光の推進

令和元年12月7日（土）
奥州市 商工観光部 商業観光課

Ⅰ　胆沢ダムの概要と課題

出典:北上川ダム統合管理事務所HPより

「観光地」として高い潜在能力がある

観光開発にはいたっていない

2

Ⅱ　奥州市観光基本計画の見直し①

（1）これまでの取組みの反省	◆ 奥州市の入込客数はここ数年、伸び悩み。 ◆ 観光施策が不十分。さらなる強化充実が必要ではないか。 ◆ また、時代に即した　新たな取組みも必要ではないか。
（2）社会情勢やニーズの変化	◆ 情報化等を背景に、個人化、多様化など旅行ニーズが変化。 ◆ **胆沢ダム・栗駒焼石ほっとラインなど、新たな資源の顕在化。** ◆ 日本への外国人旅行客が大幅増加（記録更新は4年連続）。 （H26）1,341万人　⇒（H27）1,974万人　⇒（H28）2,404万人
（3）新たな計画の反映・整合	◆ 新総合計画による新たな「まちづくり指針」を反映させる必要。 ◆「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との整合も必要。

これらの状況を踏まえて

平成29年度からの後期計画期間の開始に合わせ、「観光基本計画の見直し」を実施

3

Ⅲ　奥州市観光基本計画の見直し②

「観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化」を目指す。

「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月策定）」においても、基本的施策の重要な柱の一つに位置付け

奥州市観光基本計画における平成28年度見直しの重点ポイント

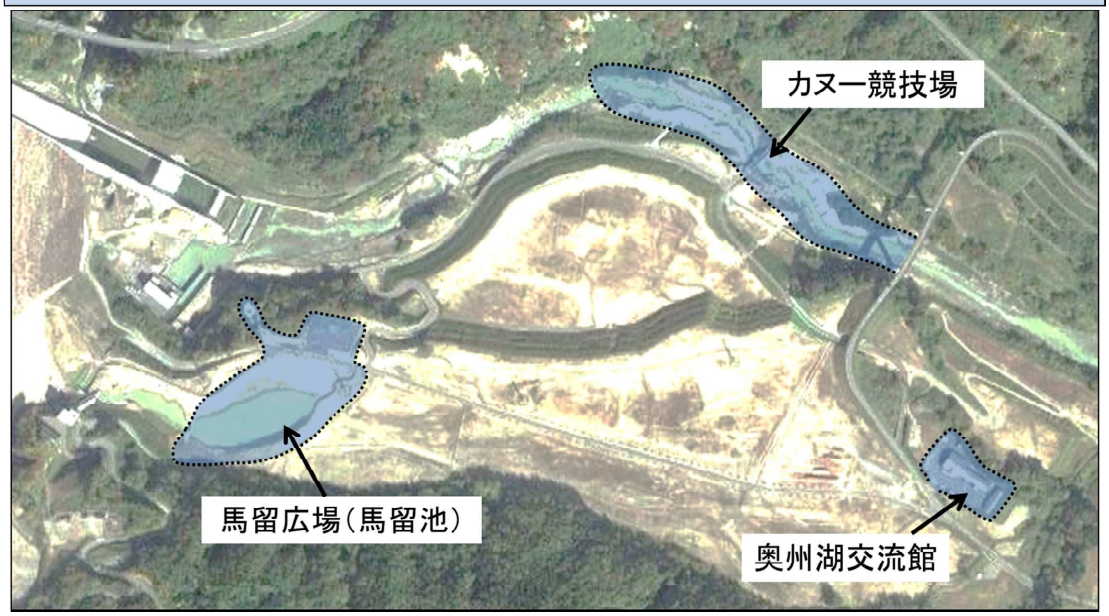
（1）着地型観光・広域観光による誘客促進策の強化	（2）胆沢ダム（奥州湖）を活用した観光開発の強化	（3）訪日外国人観光客の誘致促進（インバウンド対応）
◆体験型観光を中心に観光資源のさらなる掘り起こしとテーマ性・ストーリー性を持った市内周遊観光のメニュー化を進め、あわせて、情報発信を強化する。 ◆平泉世界遺産エリア（平泉町、一関市、奥州市で構成）や、伊達な広域観光圏（仙台を中心とした3県10市町で構成）などの広域連携を推進する。	◆「胆沢ダム」が平成25年に「栗駒焼石ほっとライン」が平成27年に開通。 ◆豊かな自然を有する胆沢ダム及び奥州湖の周辺は、観光地として高い潜在能力あり。 ◆景観に優れた奥州湖周辺で、様々な体験型メニューの構築、地場産品を活用した食や物産販売の充実、さらにその実現に向けた行政、企業、地域の連携の強化を図る。	◆日本を訪れる外国人観光客の大幅な増加 ◆外国人観光客の誘致を「待ち」から「攻め」に転換し、外国人受入環境の整備をより一層促進し、広域連携を進め、ターゲットの絞り込みによる効果的な情報発信やプロモーションを推進する ◆奥州ブランドの海外への販路拡大を図る。

この重点ポイントに従い、方針・施策・指標等について、必要な見直しを図る。

4

Ⅳ　具体的な取り組みの検討と課題①

（参考）奥州湖交流館 及び 周辺施設の位置図



5

Ⅴ　具体的な取り組みの検討と課題②

奥州湖交流館の位置付け（方向性）

（1）河川や湖沼をフィールドとした体験活動等の取組みの加速化

① 交流館を奥州湖周辺での各種体験活動等の普及とレジャー化の拠点施設とする。
② 体験活動に必要な施設及び備品の整備を行い、上記の取組みを支援。
③ 初心者向け体験会の実施など、市民が気軽に参加できる機会を拡充。
④ フィールドを一体的に提供するため、カヌー競技場・馬留池の事務的窓口を交流館に集約することも将来的な課題。

（2）新たな「遊び」「食」「体験」の創出など、裾野を拡げるためのチャレンジ

① サイクリング、登山、バーベキューなど、先導的な遊びやイベントを実施。
② イベントには市民を巻き込み、面白いもの、楽しいものを皆で作り、育てあげる意識を醸成。
③ 好評を得たものは恒常化・シリーズ化を目指す。将来の観光産業化への発展も視野に。
④ さらに、周辺の資源と結び付け、パッケージ化するなど、エリア全体での魅力向上を図る。

（3）各種の取組みを支える人材の育成、市民参加を促す情報発信の強化充実

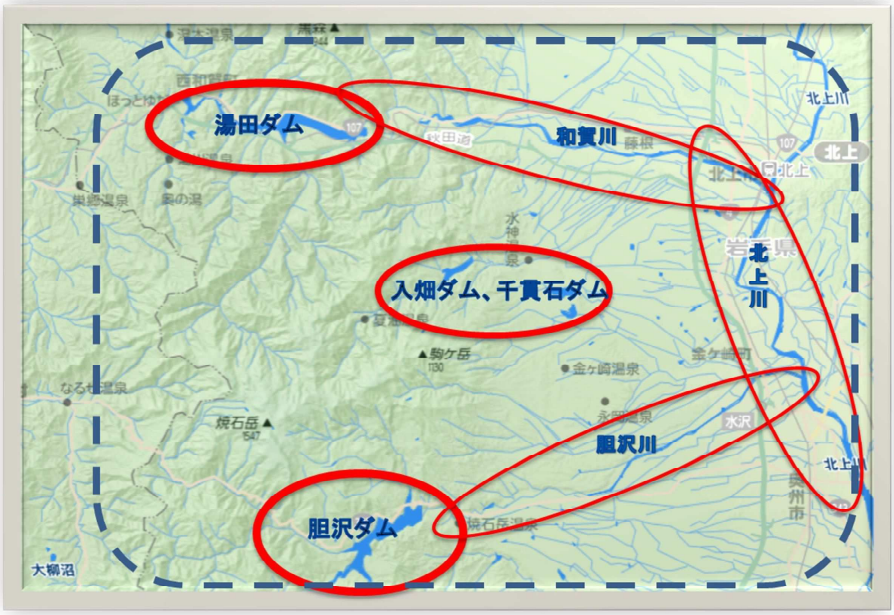
① 川の安全講習会、研修会の開催など、体験活動を支える人材の発掘及び育成。
② 市民参加を促すため、SNSなどによりイベント情報、奥州湖周辺の魅力などを情報発信。

6

Ⅵ　新たな取り組みの方向性

キーワードは、【広域連携】

ダム流域連携・広域ウォーターランド構想



ダムを繋ぎ、川を繋ぎ、
水源の山々を繋ぎ、そして人をつなぐ

7

Ⅶ　今年度の取り組み状況

① カヌー・Eボート

② ラフティング

③ SUP

8

流域活動発表③

「サマーチャレンジ奥州 2019

つぶ沼キャンプ場カヌー体験」

公益社団法人 水沢青年会議所

副理事長　浅利 祐輔 氏

このサマーチャレンジというのは、水沢青年会議所の最近の看板事業になっており、例年であれば奥州市の５つの旧市町村を約全長 60km を見て歩いて、３泊４日かけて歩いて、その中にカヌー体験とか、その他もろもろとか、その一部としては今年はつぶ沼キャンプ場に来まして、カヌー体験させていただきました。

事業の趣旨としては、「未来を担う奥州地域の子供達に、親元を離れて日常では得られない実体験や挑戦の場を創出し、心身の健全な成長を促し、郷土の豊かな自然と触れ合うことの感動、仲間で行動することの楽しさ、チャレンジ精神の大切さを感じてもらう機会を創出」するものです。

先ほどの 60km 歩く体験を、今年はちょっと主旨を変えまして焼石岳登山で１日目計画して、その２日目にカヌー体験し、郷土の大自然に触れていただくことで郷土愛を醸成するというところを主旨としています。

郷土愛溢れる心豊かな人材を育成することの実体験の機会は、次世代のその地域の人材育成の礎となり、明るい豊かな社会の構築の一助に至ることを確信しています。

概要として、奥州市の小学校４年生から６年生まで計 30 名を対象に、つぶ沼キャンプ場で開催しています。

つぶ沼キャンプ場のすぐ隣につぶ沼があり、立地としても非常に良かったところで、岩手流域ネットワーキングにご協力いただいています。

このような形のつぶ沼になっています。

当日は、Ｅボートを使用しまして、子供達を乗せて体験会を行いました。このようなかたちで子供達も自分で漕いで笑顔溢れる楽しい体験会となりました。

時間はたっぷりとっていましたので、子供達は気の向くままにボートに乗って遊んでいましたが、例えばこのように飽きてしまって、自ら川や沼に、飛び込んで、わざとボートを転覆させようと企んでみたりとか、非常に各自で楽しんでいます。

事前に安全講習を行っていましたので、このようにライフジャケットも着用していますので、とても安心して安全に体験会を行うことが出来ています。

中には、川エビですとか虫とり、こちらの方で遊んでたりする子もいまして、自然に触れて楽しく遊んでました。

最後のほうには、子供たちみんなで昼食にカレーを食べて、思い出話とか花を咲かせて、前日に、初めて会った子供達同士ですが、次の日には完全に打ち溶け合って、仲良くすごしています。

カヌーをした感想として、ほとんどの子供達がカヌー体験は初めてだったが、とても楽しく過ごしたということでしたし、友達も一緒に協力することでたくさん出来ましたよ、というところもアンケートで頂いています。

同時に、初めての体験を踏まえて、「奥州市の良いところも沢山見つけることができました」
という感想もいただいています。

簡単ではありますが、以上で、説明を終わります。

今後も水沢青少年会議所の「明るい豊かな社会の実現」のため、地域の活性化そして青少年の健全育成に寄与して参りたいと思います。

今後ともご協力のほどよろしくお願いします。

サマーチャレンジ奥州2019
つぶ沼キャンプ場　カヌー体験

公益社団法人
水沢青年会議所

趣旨

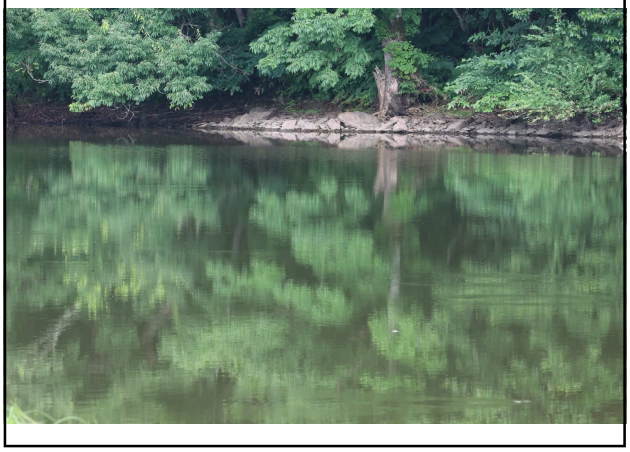
- 未来を担う奥州地域の子どもたちに親元を離れ日常生活では得られない実体験や挑戦の場を創出し心身の健全な成長を促し、郷土の豊かな自然と触れ合うことの感動、仲間で行動することの楽しさ、チャレンジ精神の大切さを感じてもらう機会を創出する必要があります。

趣旨

- 郷土愛溢れる心豊かな人財を育成するこの実体験の機会は次世代の奥州地域の人財育成の礎となり、明るい豊かな社会の構築の一助になると確信しております。

事業概要

- 奥州市の小学校4年生から6年生の計30名を対象に奥州市つぶ沼キャンプ場にて開催。
- 実施日時：8月11日(日)
- 協力：一般社団法人いわて流域ネットワーキング



SVOLME

子供たちの感想

- 今回カヌーをした感想は？

  とても楽しかった　29人

- 友達が増えたり、一緒に協力することは出来ましたか？

  たくさんできた　26人

- 奥州市のいいところは見つけましたか？

  たくさん見つけた　24人

今後も水沢青年会議所は、

明るい豊かな社会の実現の為

・地域の活性化

・青少年の健全育成

に寄与してまいります。

流域活動発表④

「私は如何にしてお金の心配をするのをやめて西和賀を愛するようになったか」

ネビラキ　瀬川 瑛子 氏

先ほど奥州市の方が発表してくださった、奥州市と西和賀町が連携して広域で水辺のアクティビティを盛り上げていきましょうと話に出た西和賀町から来ました。ネビラキという団体は、夫と２人で立ち上げてまだ半年で、事業規模も小さく、活動を紹介してくれといわれても専門性の高い皆様の前でいったい何が話せるのか。また私は元々超インドア派でアウトドアも詳しくないし自然のことも勉強中です。カヌーを漕いでお客さんを案内していますが、カヌーもまだ練習中で大して何も話せないので、そもそも東京出身のインドア派の私が、なんで西和賀でカヌーをやってるのかということをお話できればと思います。

まず、ネビラキの前に私の紹介になりますが、原体験として元々両親が岐阜の出身で、夏になると岐阜に遊びに行って岐阜城のある金華山に登り、長良川で泳いでいました。私が小学校くらいのときに長良川に河口堰の建設案が持ち上がり、反対デモに親に連れられていき、その頃なんとなく自然保護というものに興味を持ち始めました。

出身は東京ですが、野川公園や井の頭公園、多摩川上水とか身近に自然が沢山ありまして、学校で鮭のイクラをもらってきて、孵化させて稚魚を野川に放流するとか、鮭が帰ってきたのを見たことは無いですが、そういう小学生時代を過ごしました。

大学生時代、2004 年に日中の民間技術協力で水問題を解決していきましょうという趣旨で、日中水フォーラムが北京で開催されたときに学生団体として参加して、向こうの学生達と一緒に北京の公園で水質調査をして交流したり、北京の水源地である大同市を訪問したりしました。大同市はモンゴル砂漠に近く、水源地なのに水に恵まれていない土地で、10年に１回大雨・洪水があり、後の９年は日照りが続くような所です。自分達が水をまともに使えないのに北京には水を送っている。火力発電もやっていますが、電力も自分達の町は停電するけど北京には送り続けている。川は全部赤やグレーで、とにかく汚染が酷い。そういう現実を見ると、「うわー」と思うんですけど、中央に向けて地方が電力や水を送っている構図は日本も一緒だよねって。それで政府の力ってすごいなって思って、環境省と農林水産省を志望して、農林水産省に採用してもらいました。

農林水産省に入ったは良いけれど人事畑にいたので、食料の流域である生産現場と食卓をつなぐことをテーマに、農水省をさっさと辞めてしまいました。その後、調理師学校に通って飲食店で３年くらい働いて、イトーヨーカドーの PB 食品をプロデュースするベンチャー企業に転職しました。気がついたら 10 年くらい、東京の都心部でずっと働いていました。

東日本大震災があったとき、一斉にスーパーとかから食料が消えて、頑張って働いていても物がなければ、震災の時どうしたらいいのかわからない。こんな脆弱な生き方で良いのかなって思ったんですけど、もはや東京で働いて一生懸命お金を稼いで、そのお金で自分の必要な物を買うことしか知らない人間になっていて、不安を覚えながらもその道に邁進していました。

そんななか、なぜか突然岩手に来ないかと言われて【東北食べる通信】に転職しました。【東北食べる通信】とは一次産業の農家や漁師のストーリーとそ

の人の食材をセットにして、首都圏の皆さんにお届けするサービスです。転職して最初に取材先で出会ったハーブ農家の言葉が衝撃でした。「大学を出て農家になるなんてもったいないという人がいるけど、それは一体なぜなんだ。学校は社会の役に立つことを教える場所じゃないのか」。私の中にも、せっかく親に大学まで行かせてもらったんだからそれに見合った年収とか仕事をしなければならないという思い込みがありましたが、この農家さんの言葉でその思い込みから自由になりました。その後、いろんな農家・漁師を取材しながら、どうやって生きていこうかと考えていました。

私が始めて西和賀に行った時、ちょうどこんなような感じ（夏の錦秋湖の写真）でした。春は水没林、夏になると元の和賀川の跡が出てきます。幻想的なファンタジー映画とか撮れそうな所だなって、感動しました。西和賀に行くと、エゾハルゼミの羽化を２時間かけて見たり、モリアオガエルの産卵を見たりして、親が私の小さい頃に自然観察会とかキャンプで見せたかったこと、やらせたかったことって結構この西和賀の体験と通じるものがあるな、大事なことって何なんだろうなと思い出すようになりました。

私瀬川瑛子と申しますが、夫と義理の両親のことをご存知の方も多いかと思います。瀬川さん家は奥羽自然観察会などで、西和賀の豊かな自然をずっと伝え続けてきてこれは本当に素晴らしいことです。私も西和賀の自然をずっとつないでいきたいと思いますが、ではつなげていくには、自然を守るにはどうしたらいいかといえば、そこに住むのが一番だと思います。やっぱり外からではなく、住んでる人が自然の豊かさを主張するのが一番強い。

瀬川さんたちに連れられて冬に 30m 位の氷柱を見に行ったり、ミズバショウやカタクリなどの美しい景色を自然は惜しみなく見せてくれる。自然を見ていたら、お金の為に働くのって結構馬鹿馬鹿しいなというふうになってきてしまって。５年前の東京でめちゃくちゃ働いてた頃の自分からすると、「何そんな甘いこと言ってんの！」という感じですが、あんまりもうお金のためにあくせく働くのってやだなって最近は思うようになってしまいました。

これは我が家の前から見える錦秋湖の景色です。家にお風呂が無いので、いつも近所の温泉に入りに行って、ビールを片手に帰ってくる生活がすごく贅沢だな、と。ある冬の日には、家の前にどぶろくのプレゼントがあって、「かさこじぞう」みたいなこともありました。

本当に面白くて豊かな西和賀から、何で若者が出て行ってしまうんだろうかと考えたときに、皆さん収入が少ないとか、チャンスが少ないって言います。私自身花巻で働いていましたが、やっぱり自分も西和賀で仕事をしなきゃいけないと思って、夫と２人でネビラキという団体を立ち上げました。

ネビラキは、「西和賀の人、自然、文化、食、歴史を新しい視点で面白がり、ここに生きることの豊かさを考え、外に向かってゆるやかに開かれたふるさとづくりを目指します」ということをミッションステートメントとしてやっています。ネビラキとは、春に木の周りが雪解けしていく現象を言いますが、こういう春の雪解けみたいな感じで、地域が緩やかにひらかれていくイメージを重ねました。錦秋湖に注ぎ込んでいる廻戸川の辺りと錦秋湖の辺りで主に活動しています。

今年の春は、「春の水没林と芽吹きの観察ツアー」をやりました。春の雪解け水で錦秋湖が満水になった時に、カヌーを出してその芽吹きをひとつひとつ、「あれはアカシデだよ」とか「ミネカエデだよ」といいながら、お客さんを乗せるツアーです。地元の人に

も来てほしいので早起きしたら思い切って 5,000 円割みたいなことをやっています。あんまり来てくれないけど、たまに来ると凄い感動してくれます。

夏には、春カヌーで通った廻戸川の水位がぐわっと下がるので、そこを皆で歩きます。そうすると春にカヌーに乗りに来たお客さんは、この目線のギャップにものすごく驚いて、面白がってくれます。

今年の秋は 10 年に１度の満水だったので､今度はいつもより目線が上がったところで紅葉を見る。四季の変化が激しいので、西和賀町は面白いなと思っています。

先ほども申し上げたように半年前から始めたこの事業で、まったく私もド素人なので「いわて流域ネットワーキング」さんに育てていただいてます。カヌー講習会を廻戸川でやっていただいたり、胆沢川に個人的に練習しにいったり、レスキュー３というのも受講しました。この写真が私ですが、この急流に飛び込めって言われて､「死ぬ」と思ったんですけど、皆ちゃんと飛び込んで対岸にいるんですよ。私だけいつまでも飛び込まないわけにはいかないので、仕方なく飛び込みました。飛び込んでみたら生きてて、ちゃんと装備してプロがついててくれれば大丈夫ってことが新しい発見で、川と言っても流れの緩やかところもあれば、急なところもあり、どこでも活動ができるようになりたいので、受けられる訓練は受けようと思いました。

やっぱり講習会を受けると、川に対する恐怖心が薄らいで、もっと好きになれる。そういうのを繰り返していくうちに、どんどん川の人間になれたらいいなって思います。また、北上川ゴムボート大会にスタッフとして参加させてもらって、経験を積ませていただきました。

カヌーの話に戻りますが、自分でやっていて言うのもなんですけど、ツアーのやり方が面倒くさいんですよ。芽吹きの木を覚えて、カヌー漕ぎながら、自然観察をする。お客さんに何を伝えたいんだろうと思ったときに、木の名前を覚えてほしいとか、水の楽しさを伝えたいだけでなく、自分たちが豊かだと感じるものをシェアして、一緒に時間を過ごすことを大事にしています。このことは私達なりの「富の再配分」だと最近考えています。

富の再配分ってなんぞやって話ですが、ある朝、夫が起きて､「行政がやらないなら俺が富の再配分をする」と言い始めまして､「家にそんな富なんてないでしょ、どこにも」と聞いたら、「この景色だとか、素晴らしい時間帯だとか、その花が一番輝く瞬間を知ってるから、それをシェアするっていうことが自分なりの富の再配分だ」って言うんです。こういうことを西和賀町でやっていくことによって西和賀の豊かさというものを再認識できていったらいいなと思っています。冬は錦秋湖のスノートレッキングとか、先程の氷柱氷瀑ツアーを企画しています。

ご清聴、どうもありがとうございました。

ネビラキ活動紹介

または私は如何にして
お金の心配をするのをやめて
西和賀を愛するようになったか

2019.12.7　瀬川瑛子

Key word
長良川、河口堰反対デモ、
玉川上水、野川サケの稚魚放流
日中学生水フォーラムin北京大同
利根川水系 新聞広告
屋久島
農林水産省へ
　自然と人間の生活の折り合い

畑と食卓をつなぐ、をテーマに
飲食店、食品ブランドプロデュースなど転々と、、、

霞ヶ関、銀座、赤坂、門前仲町等勤務で10年以上
東京で働く以外の道がわからない

東北食べる通信に転職して花巻へ

最初に出会ったハーブ農家の言葉

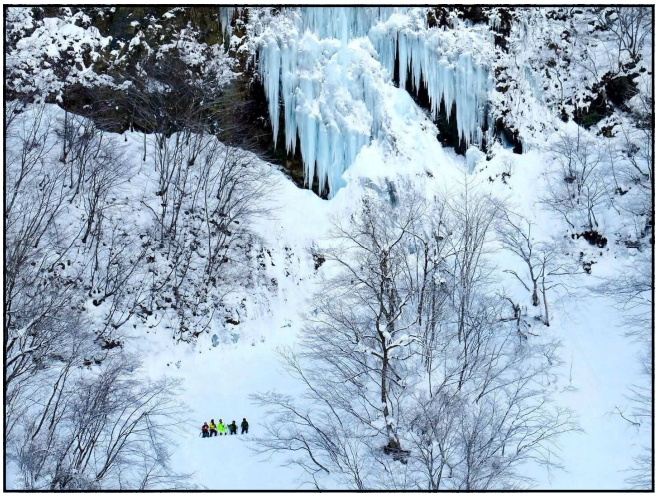
「『大学を出て農家になるなんてもったいない』って、なんだ。
学校は社会のために生きることを教えない」

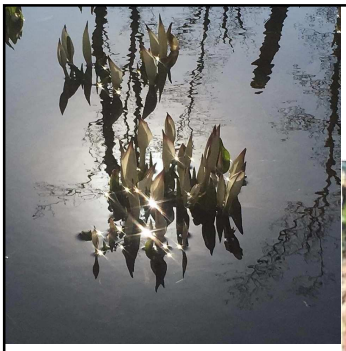
大学を出たらこうあるべき、という思い込みからの脱却
農家・漁師の取材をしながら生き方について考えた

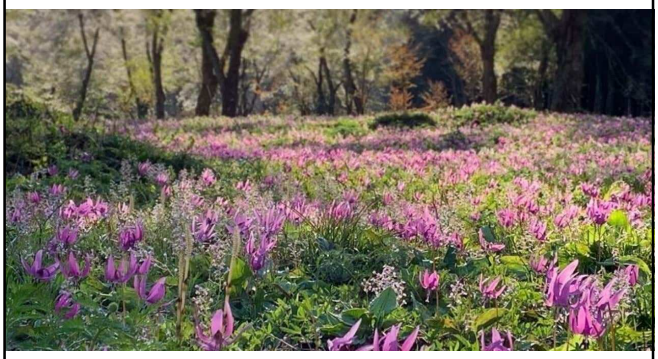
西和賀との出会い

エゾハルゼミの羽化、モリアオガエルの産卵、カルガモもわからない自分…
大事なことってなんだっけ

瀬川家との出会い







輝きを惜しみなく見せてくれる自然に触れていたら
お金のために働くのがばかばかしくなってきた…

家の窓から見える景色

なぜ西和賀から若者が出ていくのか？
収入が少ない？チャンスが少ない？

西和賀で仕事をつくろう

2019年3月1日　ネビラキ立ち上げ

ネビラキは、西和賀のひと、自然、文化、食、歴史を新しい視点で面白がり、
ここに生きることの豊かさを考え、
外に向かってゆるやかに開かれたふるさとづくりを目指します。

活動場所

春の水没林と芽吹き観察カヌーツアー

カヌー講習会受講　byいわて流域ネットワーキング

レスキュー3 SRT-1講習受講

・装備大事
・プロはやっぱりプロ
・いざという時に、自分のできること、できないこと

北上川ボート大会お手伝い

自然観察？
自然体験？
アクティビティ？
アウトドア？

→参加者との対話、自分が豊かだと感じる時間を一緒に過ごすこと

「富の再配分」

おまけ

ホームページ　https://www.nebiraki.world/

メール　　nebiraki0301@gmail.com

ご静聴ありがとうございました

流域活動発表⑤

「石巻市･旧北上川における『かわまちづくり』の展望」

株式会社 街づくりまんぼう

課長　苅谷 智大 氏

素晴らしい強烈なプレゼンテーションの後で、大変萎縮していますけども、私からは一番最初に、湊小学校の話がありましたが、その湊小学校と同じ川沿い、旧北上川沿いのかわまちづくりの話をさせていただきます。

タイトルにもあるとおり、展望ということで、いままで発表のあった方のような沢山の活動の蓄積が、まだ今回お話することはなくて､こちらは今年の夏、堤防の話ですけども、

「これからできた堤防をこういうふうに使っていきたいです。」

という決意表明、意思表明だと思ってお聞きいただければと思います。

こんなに石巻の方いらっしゃると思っていなくて、好きなこと言えば良いと思っていましたが。あくまで私見としてお聞きいただきたいのですが、石巻には旧北上川と新北上川いう川が流れていますけども、特に旧北上川について、これからお話するのは、かわまちづくりを何のためにやるのか、いろいろあると思いますが、石巻は川湊として江戸時代から発展してきた町、その歴史を持つ石巻が、今回東日本大震災の後に、特に旧北上川河口部は新しく堤防が出来てきたので、その堤防を含む新たな川の風景を石巻に住む方々、訪れる方々が、これは石巻のアイディンティだと思ってもらえるようにする、それがすなわち町の復興でもあると思います。この新たな川の町の風景こそが石巻の町の姿だと、15 万人の市民が思っていただくために、かわまちづくりを続けるというのが私の思いです。

いま申し上げたとおり、堤防が出来上がったばかりで、堤防をつくる計画自体は震災前からあったと思いますが、震災後計画を作る、こういったまちづくりをしていこうというのがあって、次に堤防を作る。堤防を作るだけでなく、堤防を活かそうという話がビジョンやコンセプトを作る中で出てきて、じゃあこういう東屋を作ったほうがいいじゃないか、こういう植栽をしたらいいじゃないかという話があり、実際に工事を進めて、堤防をどういうふうに何に使っていくか、どういうふうな制度や仕組みが必要か、それを持続的に回して行くためにはどういうマネジメント制度とか、どういう人たちの力を借りたらいいか、どういう取り組みをしていけばいいかということを、国、市、民間事業者それぞれでやるのではなくて、官民が一緒になってやって進めてきたというのが石巻の大きな特徴だと思います。

そもそも石巻におけるかわまちづくりというのは、震災をきっかけに堤防を造ることだけでなく、旧北上川を流れてきて、左岸側の湊小学校、今私がお話をする右岸側、中瀬だけではなくて、新井さんたちがカヌーをしている石井閘門、そのあたりも含めたかわまちづくりというふうに呼ばれています。

震災前に元々川湊として発展してきた経緯もあって、北上川の河口があって、中瀬があって、この辺りの話ですけど、川の本当にスレスレまで建物が建って、堤防がなかなか造れないような状態だったところを、震災で海から遡上してきた、逆流してきた津波で大きな被害を受けて、そこに堤防を造っていこうという計画が立ち上がったわけです。

それは元々堤防を造るという話に加えて、川と一緒に出来てきた町が、堤防が出来ることによってその歴史や景観を途切れさせてはいけない。堤防が出来ても、川が近くに感じられる町を川をつくってい

きたいという、地元の方々の思いがあったゆえに、堤防と一体になってまちづくりをどうにか進めていけないかというコンセプトがたったわけです。

結果として、どういう堤防ができたのかと申し上げますと、堤防の高さ TP 4.5m、地盤面の高さが大体４ｍくらい。当然これが建つと川が見えなくなってしまいますが、ただその川に建物を擦り付けて、建物の２階の高さと堤防の天場の高さが同じくらいになりますので、そこに上がれば川を望むことができるという計画に至ったのです。

堤防ができるそのすぐ後背に再開発のビルや道の駅のような生鮮市場を作って、そこの２階を堤防とつないで出来たこの空間を、いろんな人が集まったり、イベントを企画したり、場合によってはカフェみたいなものができたらいいなと思っています。元々の石巻の川湊の姿とはたぶん全く違いますが、新しい石巻らしい場所として活用していけるんじゃないかとも思っています。いろいろな合意形成を経て工事を行って、今このような形で、この部分、もうちょっと上流の部分とか、河口の部分とか、まだ工事が進められていますけども、一応堤防と建物がつながるこの空間が今年の８月に完成をして披露目されました。

ただ堤防と川をつなぐ空間だけではなくて、石巻市では､まず民間事業者で堤防に摺付くところに｢いしのまき元気いちば」という地元の野菜や水産加工品であったり、お魚を買えるお店が整備され、その南側には路線バスのロータリーや、一般自動車や観光バスが止められる駐車場が整備されるなど、ここをまちの拠点として、川と一体となったまちづくりを進めていく計画として進められていきました。

国や市によって進められ、出来上がった場所をどういうふうに使っていくか、私達のような民間事業者、市や国といろいろ協議をしながら検討しているところです。

この辺の仕組みは資料に目を通して見ていただければと思いますが、簡単に言うと堤防の上で、イベントを開くこともいろんな手続きが必要になりますが、もっといろんな多くの人たちが、市民の方たちや観光で来られた方も集まれるように、例えば先程申し上げたように、オープンカフェだとか、石巻であれば牡蠣小屋だとか、そういう商売につながるようなことをこの上でやっていくことができるという仕組みや制度を活用しながら、今、ここの利用活用を考えています。

具体的には堤防の上を幾つかの区画に分けて、そこにお店を出したい事業者を石巻市で募集をして、今年の夏からキッチンカーを出したり、オープンカフェのようなテーブルとか椅子を置いて供用を開始したところです。

そこにオープンカフェや商業施設、お金を稼ぐものを作っていいですよと許可を得てやっているわけですが、収益を上げる施設が出来たら、その収益、出た利益をその堤防だったり、公園だったりに再投資して維持管理していってくださいという話ということで、商業施設を出せることになっていると思います。ただこの場所の確かにロケーションは素晴らしいですが、そこにキッチンカーや牡蠣小屋などいろいろな商業施設を出したところで、そこで得た収益だけでいろんなイベントの企画、芝刈り、街路灯の維持などをしていくのはなかなか難しいです。本来ならこういう企画を通して、アクションしてまた再投資というサイクルがまわるようになればいいですが、なかなかやっぱりこの石巻、東北では難しいのかなと感じています。

このサイクルをまわしていくためには何が必要か、お金があれば一番いいですけど、お金が生み出せないときに何が必要か、そこには石巻の方々、多くの市民の方々がここに関わっていろんな物を企画していくという力が必要だと思っています。

今年の８月にここが使えるようになってから、少しずついろんなイベントとか、お店も少し出ていますのでご紹介させていただくと、まずはいしのまき元気いちば。すぐ後ろに出て、お店のところで秋刀魚を焼く BBQ を始めました。

これ、ただ焼いてお渡しするだけじゃなくて、秋刀魚は取っていってください、自分達で焼いてください、そしたら安くなりますという形で行われました。

商売ではないですけど、堤防の上で音楽祭。これは街中全体で行われる音楽祭、いくつもステージがあり、そのうちの一つが堤防でマンガの「ブルージャイアント」のようなイメージで使われました。

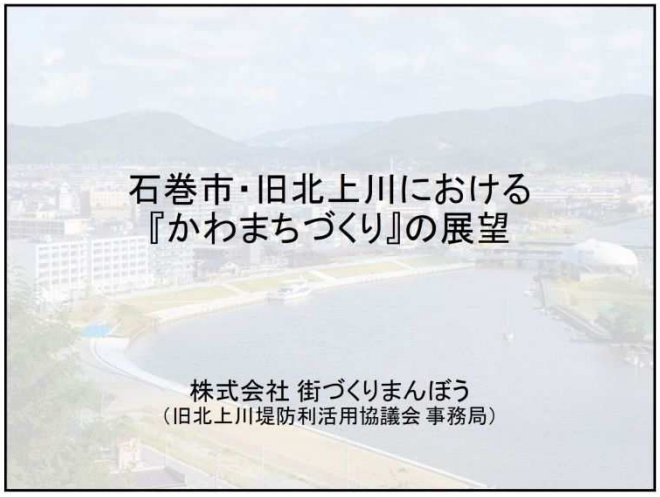
資料では真っ黒でちょっとわかりませんが、この白い建物。北上川の中州にある石ノ森萬画館というマンガ美術館で、そこをスクリーンに見立てて堤防から映画の上映をしました。名探偵コナンの映画を上映しました。このとき 10 月の下旬でしたが、300 人近くの方に集まっていただきました。

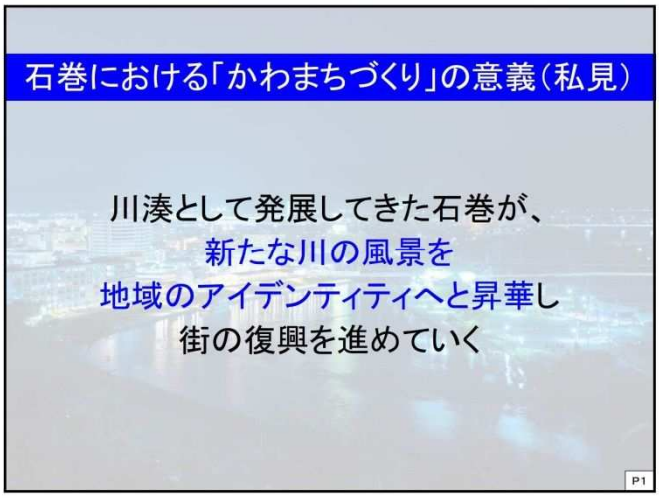
さらに、ここに人を集めるだけではなくて、石巻の街中をめぐってもらいたいと思っています。堤防から西の方には JR 石巻駅とか市役所とか商店街とかがあります。堤防のすぐ近くに立体駐車場を作って来街者を集めようとしていますが、ここに来ただけで市民も観光客も帰ってしまうのではなくて、やっぱり商店街、街中にこう、街歩きをしてもらうようなことも、堤防を活用していく中で考えていきたいなと思っています。

良く「点と点をつないで線にする」みたいなことをいいますが、石ノ森萬画館、北上川の堤防やいしのまき元気いちばと、時間はかかりながらも商店街だけでない街の拠点が少しずつ整備されつつあります。これらを少しずつ繋いで川と街を、近い将来つないでいくことができればいいなと思っています。実際、商店街の中では減ってきていますが、こういったイベントが行われています。

いろいろ話は飛んでしまいましたが、最初に申し上げましたとおり、この川の風景がこれから石巻の町の景色になります。これこそが石巻、自分達の町の姿というふうに感じてもらえるような取り組み、関わり方をこれから作っていきたいと思っています。

夜はこんな感じで、街の方からも「まるで石巻じゃないみたい。」というふうに良い意味でおっしゃられますので、ここから車で２時間ぐらいですので、是非石巻においでいただければと思います。





石巻における「かわまちづくり」の位置

施設整備
- 堤防、付属施設
- 水辺空間創出

計画策定
- ビジョン、コンセプト

官民連携

仕組み・体制づくり
- 制度運用

堤防一体空間利活用
- 集客、営利事業

→イマココ

P2

堤防整備と連携した「かわまちづくり」の推進
～「石巻地区かわまちづくり計画」により良好な水辺空間を創出～

■石巻地区かわまちづくり計画（かわまちづくり支援制度登録：平成26年3月26日）
石巻地区では東日本大震災からの災害復旧事業により、新たな堤防整備による安全・安心の確保を行うとともに、石巻市の『水辺の緑のプロムナード計画』※など地域の復興まちづくり計画と連携することで、市民や観光客が賑わい集い交流できる水辺空間の創出を図る。

水辺の緑のプロムナード計画（石巻市） ⇔ 連携整備 ⇔ 堤防整備・石巻地区かわまちづくり（国交省）

※『水辺の緑のプロムナード計画（石巻市）』
河川と水辺の観光資源を活かして、復興のまちづくりや新たな堤防整備と一体的にプロムナード（散策道）を整備し、水辺利用の促進を図り、水辺と親しみながら人々が集い交流できる賑わい空間を創出する。

●水辺の緑のプロムナード計画 全体図（H25年3月）

河口部では、新たな堤防整備と連携

P3

生まれ変わる いしのまき
堤防は“まち”と“かわ”をつなぐ新たなアプローチ

震災前
宮城県第2の都市石巻市だが中心部（河口部）は無堤
新たな水辺空間のイメージ
震災直後（3月11日17:00撮影）
復旧が確実に進む旧北上川（令和元年7月撮影）

P4

石巻かわまちづくり 石巻の新たな顔へ／中央地区 堤防一体空間

■ 堤防整備（国）とあわせ背後に公共施設（市）や民間店舗が設置
■ 建物と堤防が一体となった水辺空間を創出し『憩い・賑わい』の場として利活用

横断図
中央一丁目地区
公共施設（市）
国交省
石巻市
中央一丁目地区完成（平成30年5月）
中央二丁目地区完成（令和元年7月）
堤防一体空間整備
花火観覧席、ウォーキング行事など多様な利活用
堤防一体空間の利活用イメージ（キッチンカー等）

P5

堤防一体空間 整備断面イメージ
～堤防は“まち”と“かわ”をつなぐ新たなアプローチ～

石巻市中央地区
再開発（区画整理）と堤防一体となった整備
堤防背後施設（再開発ビル[石巻市]）
堤防背後施設（商業施設[民間]）
石ノ森萬画館
西内海橋
旧北上川
建物2階と堤防との行き来が可能
堤 防
17m
6m
9m
8m
再開発ビル（市）
商業施設（民間）
盛土（市）
堤防（国）
護岸（国）
旧北上川

P6

周辺施設 石巻かわまち交流拠点

中央2丁目11番地区
かわまち立体駐車場 平成29年6月オープン
かわまち交流センター 平成30年8月完成
【民間】いしのまき元気いちば 平成29年6月オープン
交通広場 平成30年6月完成
堤防一体空間 令和元年7月概成
旧北上川
川とまちを一体的に利活用できる賑わい空間を整備
日常的な利用イメージ
イベント時の利用イメージ
令和元年7月18日撮影

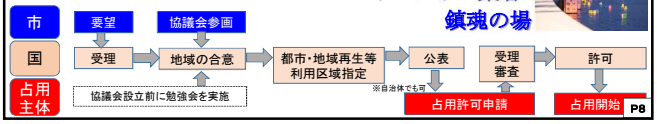
P7

石巻かわまちづくり実行のため／利活用の取り組み

- 「石巻かわまちづくり」として、現在、背後施設（市・民）と堤防（国）をつなぐ「堤防一体空間（市）」を整備中（⇒令和元年7月概成）
- 堤防天端や堤防一体空間を使った**中心市街地活性化の取組**として、各種イベントや地場産品の提供（食事処）などの活性化にむけた取り組みを**官民で検討（堤防利活用協議会）**
- 市では、計画実行のため**都市・地域再生等区域の指定**について企画・検討

旧北上川かわまちづくり（右岸中央地区）

都市・地域再生等区域の指定までのスケジュール（案）



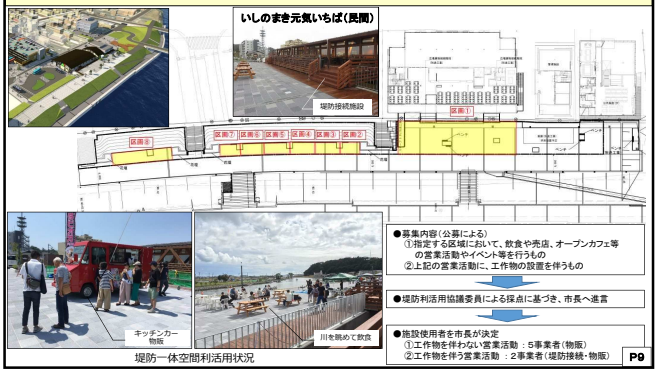
P8

石巻かわまちづくり実行のため／利活用の取り組み

■堤防一体空間　施設使用者（営業活動事業者）の公募　⇒　利活用の社会実験

○準則に基づく「都市・地域再生等利用区域」の指定を目指し、新しく創出される水辺空間を活用し、日常的な賑わいと憩いの場所として一層活用していくための社会実験を開始（令和元年8月～）

○石巻市では、中央地区の堤防一体空間で、飲食店や売店、オープンカフェなどの営業活動やイベント開催等を行う事業者を募集



堤防一体空間利活用状況

P9

堤防一体空間利活用にあたって

P10

P11

P12

P13

（通称）かわまちエリアマネジメント

P14

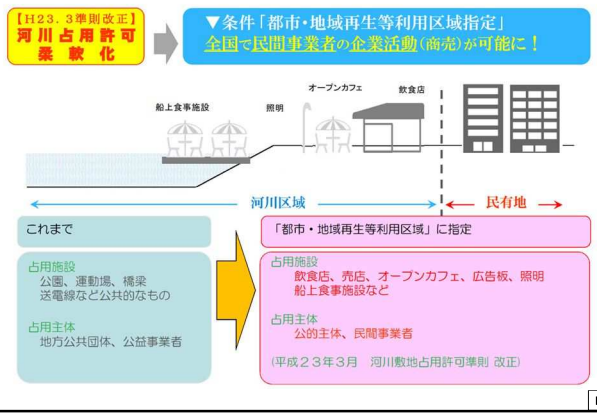
P16

P15

P16

P17

【参考】河川空間のオープン化の利点
都市・地域再生等利活用区域指定／河川敷地占用許可準則



P18

流域活動発表⑥

「木伏緑地整備と今後について」

盛岡市都市整備部公園みどり課

課長　森 勝利 氏

発表の機会をいただきまして大変ありがとうございます。

私の課の名前は公園みどり課というところで、公園の整備から維持管理までやっていますが、なぜか公園の整備以外にも、これからご説明します木伏緑地、その前にある河川敷で、舟運をやろうとがんばっている団体と、盛岡地区のかわまちづくりの一環として一緒に動いています。

今回のこの木伏緑地についてご説明しますが、その前に盛岡市の都市公園の現状をご説明します。

資料にもありますが、この一番左の方は、日本の人口になります。どんどん増えてきて、20 年位前からは少しずつ減り、今は下降気味になっています。

盛岡市も、10 年位前には 30 万人を超えていましたが、今は 29 万人で着実に減ってきていますし、代わりに高齢者が増えてきていまして、私が住んでいるベットタウンも高齢化率が 30%くらいになっています。身近にある公園の管理などを町内会に協力をお願いしていますが、やはり働けるというか、動ける人がどんどん減ってきているし、管理も難しくなってきているというお話をいただいています。実際、市の業務委託で草刈だったり点検だったり、全部できればいいのですが、市民の皆さんにお願いしている状況で、なかなか難しい状態になってきています。

真ん中の絵は、公園の整備費がバブルの頃は増えましたけども、どんどん減ってきています。そのわりに公園の数は少しずつ増えている。盛岡市も全部で 475 箇所の公園があります。整備費が減ってはきているのですが、毎年１つとか２つとか作られていますので、少しずつ増えてきているわりには、維持管理費用も減ってきており、どのようにしたら良いのか悩んでいます。

こういう公園の現状は全国的な話ですが、今ある公園をどのように管理、経営、運営していったらいいのかという視点が生まれています。盛岡市も全国的な流れと同じです。これは公園にあるベンチです。ちょっとひどいところですけれど、もっとひどいところもあります。公園用地として、用地は空いているが、整備ができなくて、こういう状態になっているところもあります。

盛岡城跡公園（岩手公園）や、高松の池のある高松公園は指定管理制度を使って管理をしていますが、他のほとんどの公園、街区公園と言っていますけれど、ご近所にあるような小さな公園は、町内会にお願いして管理してもらっています。草取りぐらいは何とかお願いしていますが、フェンスが壊れたとかベンチが壊れたとかは市が対応するものですが、費用を回せないような状況で四苦八苦している状況です。

そういったところに、平成 29 年に都市公園法が改正になりました。

これは、今ある公園を何とかして活用できないのか、今ある資産の活用を考えるべき時代になってきているのではないかということと、それをするために、役所がやろうと思うとなかなか面白くない、楽しい使い方ができない、そういったところで民間との連携をしていこうとするものです。

何より公園を柔軟に使いこなすということで、場所にもよりますが公園のいろんな使い方が実はできるので、そういったところを後押しできるように都市公園法が改正になりました。

主な内容ですが、新しく公募設置管理制度というものができました。Park-PFI と呼んでいますが、これは、公園に飲食店や売店などの公園施設の設置または管理を行う民間事業者を公募によって選定する手続きです。

事業者が設置する売店とか、そういった施設から得られる収益を、公園の整備や維持管理に還元するということで、その事業者には都市公園法の特例措置がインセンティブとして与えられます。

どういうことかといいますと、これは国交省の説明資料ですが、右上のほうに、収益施設があります。この収益施設を作るときに周辺の公園の整備もしてもらいます。そのかわりに、公園の中に建物を設置できる期間がこれまで 10 年だったところを 20 年まで延長することができるようになりました。

10 年ですとなかなかカフェとかを設置しても初期費用を回収するまで、あるいは回収したとしても儲けがあまり出る前に撤去しなければいけないということもありまして、それが 20 年になったというのと、建蔽率、公園はやはり空間が大事ですので、建蔽率が２％と法律に決められています。それを今回の制度を活用すると 12%まで拡げることができます。後で説明しますが、木伏緑地も 4000 ㎡くらいしかない公園ですが、トイレを作ろうとしましたら、建蔽率に引っかかってしまって何にもできないような状態でしたが、この制度を使って今回は飲食店とトイレの整備ができました。

そのほかに、公募設置管理制度とは別ですけれども保育園とかそういったものも占用物件として認められましたし、この制度の中で一緒に自転車の駐輪場とか、後は看板なんかも設置できることになりました。駐輪場は公園の駐輪場とかではなくて、レンタサイクルだとか、お金を儲けることが出来るようなものができるようになりました。

木伏緑地に関しては、この Park-PFI を活用して整備をしました。これは全体の位置図です。

ちょっと見慣れない地図ですが、都市計画図をコピーしました。この赤く塗っているところが商業地域、中心の市街地。丸印のところが木伏緑地で、この隣が盛岡駅、盛岡駅から県庁の方に北上川を渡って行くところに開運橋があり、そこの袂にある緑地です。

その前に流れているのが北上川です。こちらが上流です。

北上川と市役所の脇を通っているのが中津川。こっちが雫石川。この３つの川が市内を流れています。そういった川沿いにある細長い緑地ですが、そこを今回活用しようとしたものです。

盛岡駅東口の川沿いにある緑地で、普段は市民の憩いの場で、散歩したりしていますが、年に何回か地元商店街の主催のイベントなどにも活用されています。

場所もいいのでイベントをやるとかなり人が来ます。ただ年に何回かのイベントの時しか人が来ない、集まれない。イベントってやっぱり毎週やればいいんですけど、それも大変な話です。

またイベントが無いときは、日中は散歩で歩く人は結構いますが、ただ歩くだけ、あるいは夏場であれば疲れたサラリーマンがベンチに座っている、そんなところです。

そこの場所を、この周辺には公衆用トイレが無かったということもあり、なんとか活用していこうとこの制度を使って整備したところです。

設置したのは、飲食店等が９棟あります。この手続き的には平成 30 年の夏場から始めて今年の４月から工事着手して、９月 10 日に供用開始しています。

左側が、整備前の図面です。下が整備後で、この右側にチラッと見えるのが北上川です。

これは橋から上流を見ているとこで、本当に河川敷と道路の間に、広いところで幅 20ｍくらいしかな

いような細い緑地で、そこに店舗を建てていますし、この一角に公衆用トイレを設置しています。

今回トイレや店舗の部分にウッドデッキを敷いていますし、また店舗の奥に芝生も敷きましたが、こういったものは事業者が自前で整備しています。

公衆用トイレについては、市で費用負担しています。緑地の下に駐輪場があって、その入り口となる建物ですが、回りにデッキを設置して、そこで腰掛けたりして遊んでもらえるように作ったものです。

この右上の写真は、7 月下旬に毎年行っている北上川ゴムボート川下りの状況とその奥でゴールしている状況です。ちょうどこの木伏緑地の前の辺りが、ゴムボートのゴール地点となっています。

今は河川と高水敷の間に段差があってなかなか川辺を歩けない状況になっていますが、今度国交省のご協力をいただきまして、ここを少しゆるい勾配の傾斜の護岸にして降りられるように、水辺で遊べるようにということで、盛岡地区のかわまちづくりの事業の一環としてご協力いただくことになっています。

もう１つがこちらに舟運イベントと書いていますが、盛岡市のここから下流に２km ぐらい下った所に明治橋があり、そのほとりが、江戸時代の舟運が盛んだった頃には船橋もあって、北上川の河口からの舟運の拠点になっていました。

今回この舟運のイベントをやっているのは、「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」という地元の商店街や町内会が構成員になっている団体が平成 28 年に結成され、そこが中心になって舟運を復活させようと、ゆくゆくは商業運航もできないものかと検討し、いろいろ社会実験しています。この木伏緑地の前が降りられないので、少し上流側からこういった形で舟に乗船したりしながら、北上川を下っていく。これは下流のところで、明治橋の近くまで下ってきて、この明治橋の付近に、町屋とか昔の舟運を展示している施設もあり、今は観光スポットにもなって、上流の盛岡駅前と下流のそういった場所をつないでいこうと、そして下流の方でも観光といいますか、街歩きをしてもらいたいということでやっています。

この舟は、木造船ですが、「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」の人たちが、お金を出し合って、寄付を集いながら作りました。国交省のご協力をいただいて、川と水辺で楽しめるように市民の方に体験してもらっています。

そういった活動をしながら、H29、H30、今年は小学生に総合学習の一環として参加していただきましたし、あとは上流から船で下り、下流でこういったビアパーティーをやったり、上流と下流で連携した形でイベントもやっています。

木伏緑地の整備だけでなくて、将来的にはちょうど川に面している緑地ですので、そこを拠点に、こういった河川空間を使ってキャンプをしたり、あるいは BBQ したり、これは木伏緑地の前の高水敷ですけど、オープンの時に試験的にキャンプをした時の夜の風景です。

こういったところでいろんなことができるんじゃないかなと、これは来年度に向けて考えていかなければいけないところです。公民連携事業の１つですので、市も一緒に関わってはいきますが、基本的には木伏緑地に収益施設を設置している事業者が中心になっていろいろイベントなり、活用を考えているところです。

急にはそういった形にはならないかもしれませんが、将来的には盛岡駅前の商店街とも協力して、賑わいができればと考えています。

北上川は勾配も急で、流速もあって、川遊びといっても限定されてくるので、注意しながらどういったものが出来るか、また川遊びだけでなく遊歩道もあるので、木伏緑地のある駅前のエリアが、いろい

ろあって楽しめるし、いい場所だなと住んでみたいと思えるような場所になっていけば良いと考えているところです。

【参加者】

木伏緑地、非常に魅力的で夜見ると光があたって綺麗な所です。木伏緑地という言い方ですが、例えば、ここに来る人に愛称を募集するとか、昔からずいぶん慣れている漢字ですけど、なぜ木が伏せて緑地として読むのか、たぶん若い世代はわからないと思いますので、そういう構想や盛岡市内全域に PR していく何か一考なさっているのかなど、お伺いしたいと思います。

【森課長】

木伏緑地の名前の由来という所までは全然 PR はしていません。この緑地でこういった収益事業しながら維持管理も事業者がやっている、そういう計画ですので、賑わいに向けた活用もこれから検討していくし、イベントもいろいろ仕掛けていこうと、基本的にはその事業者の考えだったり、店舗のデザイン性だったり、そこを優先しています。

事業者も、ここをどういうふうにしたらいいか考えて、名前は普通に「木伏」にしたそうです。ロゴもカタカナとかローマ字ではなくて、漢字の木伏、かなり人気のあるデザイナーがロゴを作ってくださって、デザインもこだわり、例えば見たことのないような自動販売機が中にあります。建物の色はアースカラーで、コンテナを重ねたようなイメージですが、建築確認上は軽量鉄骨造りの建物です。ここから見える岩手山や川辺の景色風景に溶け込むように色を選定していますが、そういったものを統一した形で公園を整備しています。

また、市としては運営のところまでは、あまり口を出さないというのがこの事業のポイントです。やはり市がいろいろ口を出すと事業がうまくまわらない、お客さんが来なくなるというパターンもあるので、どこで折り合いをつけるか難しいのですが、基本的にここで収益をあげていかなければ緑地自体が管理されていきませんので、事業者の考えに沿ったかたちでお任せしています。

ちょっと残念ながら木伏については「きっぷし」と読んでいただいて。「きっぷし」ってどう画くのか、聞いただけでは漢字なのかもわからないような人も結構いるようで、読み方を聞かれたこともあります。

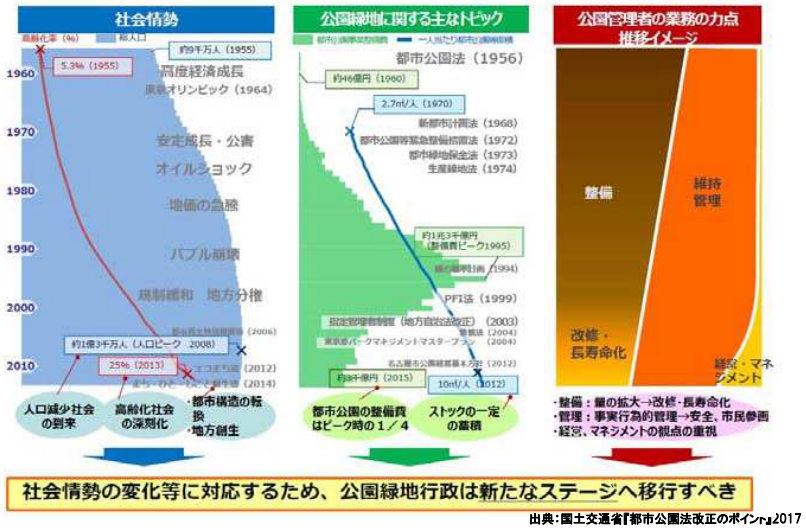
2019. 12. 7
北上川「流域圏」流域推進交流会議

木伏緑地整備と今後について

盛岡市都市整備部　公園みどり課長　森　勝利

都市公園の現状について

都市公園の現状について



出典：国土交通省『都市公園法改正のポイント』2017

盛岡市の状況について（その2）

盛岡市の都市公園は，平成31年4月現在 475箇所あります。

○岩手公園，高松公園，中央公園等規模の大きい公園は，指定管理者や市が委託した業者，市職員が管理しています。

○幼児公園や児童公園等の街区公園は，主に公園愛護会（地元町内会等）が管理しています。 170団体　437公園

○公園数の増加や施設の老朽化による経費の増大や公園愛護会の高齢化等により 手入れが行き届かない公園が課題となっています。

写真：雑草が生い茂ったり、ベンチが破損したままの公園

都市公園法の改正について

平成29年都市公園法の改正

観点１：ストック効果をより高める

- ●都市公園は全国的に見ると一定程度整備されてきた
- ●今あるものをどう活かすか、という視点を重視すべき
- ●都市公園を活性化する、また、必要に応じて再編するという考え方が重要

⇒公園管理者も資産運用を考える時代へ！

観点２：民間との連携を加速する

- ●公共の視点だけでモノをつくらない、発想しない
- ●民間のビジネスチャンスの拡大と都市公園の魅力向上を両立させる工夫を

⇒民がつくる、民に任せる公園があってもいい！

観点３：都市公園を一層柔軟に使いこなす

- ●画一的な都市公園の整備は×（とりあえず三種の神器（砂場、滑り台、ブランコ） 等）
- ●画一的な都市公園の管理は×（一律でボール遊び禁止 等）
- ●公園の個性を引き出す工夫で、公園はもっと地域に必要とされる財産になる

⇒公園のポテンシャルを柔軟な発想で引き出す！

出典：国土交通省『都市公園法改正のポイント』2017

平成29年都市公園法の改正

公募設置管理制度とは・・・

○都市公園において飲食店、売店等の公園施設（公募対象公園施設）の設置又は管理を行う民間事業者を、公募により選定する手続き

○事業者が設置する施設から得られる**収益を公園整備に還元することを条件**に、事業者には都市公園法の**特例措置**がインセンティブとして適用される

条件　園路、広場等の公園施設（特定公園施設）の整備を一体的に行うこと

- 公募対象公園施設を設置、管理する者は、園路、広場等公園管理者が指定する公園施設をあわせて整備することが必要
- 特定公園施設の整備費は、公募時の条件で、全額事業者負担とすることも、公園管理者が一部負担とすることも可能

特例１　設置管理許可期間の特例（10年→20年）

- 公募設置等計画の認定の有効期間は20年
- その期間に許可申請があった場合は設置管理の許可を与えなければならない

（設置管理許可の期間の上限は10年のままだが、認定期間（上限20年間）内は更新を保証）

特例２　建蔽率の特例（2%→12%）

- 通常、飲食店、売店等の便益施設の建蔽率は２％
- 公募対象公園施設については、体養施設、運動施設等と同様に10%の建蔽率上乗せ

特例３　占用物件の特例

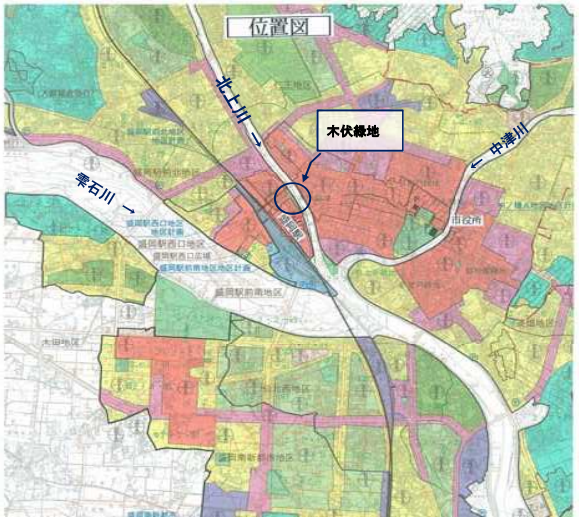
- 認定公募設置等計画に基づく場合に限り、自転車駐車場、看板、広告塔を「利便増進施設」（占用物件）として設置可能

<制度を活用した公園整備イメージ>

出典：国土交通省『都市公園法改正のポイント』2017

Park-PFI（公募設置管理制度）を活用した木伏緑地の整備について

木伏緑地の位置



木伏緑地

1. 経緯と経過について

盛岡駅東口の北上川沿いに位置し、普段は市民の憩いの場として，また年数回の地元商店街等主催のイベントなどに活用されてきました。日常の利用者が少なく，好立地の割に賑わいが不足していること，駅東口周辺や当該緑地にトイレが無いことが課題となっていました。

そこで，この制度を活用し，公衆トイレを整備すると共に，緑地利用者等の利便性向上に繋がる飲食店等の民間収益施設を整備しようとするものです。

木伏緑地

2. 事業の概要について

【施設概要】
- 民間収益施設　飲食店等　9棟，管理棟（シャワー室含）　1棟
- 公園施設　トイレ　1棟
- その他　芝生広場，ウッドデッキ

【事業者】 ゼロイチキュウ合同会社　代表　猪原勇輝

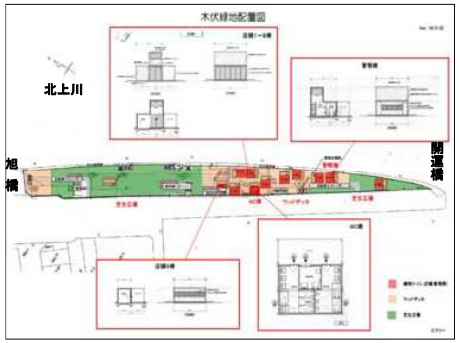
【スケジュール】
- 平成30年6月　公募開始
- 平成30年8月　事業者決定（外部の有識者等による「緑のまちづくり会議」により審査）
- 平成31年4月　整備着手
- 令和元年9月10日　供用開始

【管理】 トイレを含む緑地全体の日常管理を事業者（ゼロイチキュウ合同会社）が行う

木伏緑地　【整備の状況】

木伏緑地

【配置図】



ゴムボート下り

舟運イベント

木伏緑地（周辺の活動）

第一便発の状況

第一便発の状況

降船の状況

ゴムボート無料体験周遊の状況

岩手日報（令和元.6.16）

木伏緑地（周辺の活動）

○北上川フェスタ関連イベント

パネル展示の状況（紺屋町）

乗馬体験の状況（旭橋上流）

ビアパーティーの状況（紺屋町）

○北上川沿川小学校舟運体験学習

体験学習周遊

集合写真

○木伏緑地前北上川河川敷キャンプ

日中の状況

夜間の状況

木伏緑地

3　今後について

当該緑地だけでなく，隣接する北上川の河川空間を活用したキャンプやバーベキュー，カヤック等ができるアクティビティや地元振興会等が主体で活動している舟運事業の実現に向けて，河川管理者である国土交通省と協議を進めております。

今後は，地元，事業者，国土交通省，市が一体となって，北上川の沿川を含め河川空間を活用し，賑わいの創出や，地域の活性化が図られるよう取組んでいきます。

河川行政の取組報告

① 岩手県県土整備部河川課

② 北上川下流河川事務所

③ 岩手河川国道事務所

④ 北上川ダム統合管理事務所

河川行政の取組報告①

「令和元年台風第19号の被害状況とその対応状況」

岩手県県土整備部河川課

総括課長　幸野 聖一 氏

配布した資料をご覧いただきたいと思います。

資料の右下に数字が書いてありますページ数でご説明したいと思います。

まず１ページです。台風 19 号の気象概況です。

既にご承知かと思いますが、今回の台風 19 号は台風が来る前の 10 月 11 日から前線の影響で雨が降り出しています。そして 12 日から 13 日にかけて台風が接近し、非常に激しい雨が降ったというのが特徴です。

台風の進路はご存じと思いますが、東海、関東、甲信越を通って東北に来たわけですが、福島、宮城を通って太平洋に出たという形で、岩手県では沿岸が被害の中心となりました。

岩手では初めての大雨特別警報が発表され、特に沿岸北部、赤で着色されている付近が、非常に雨が強かったということです。

右側の表の、主な地点の降水量ですが、赤で囲っているのが普代です。総雨量として 467 ㎜、岩泉町小本が 450 ㎜、宮古は 416.5 ㎜、これは 10 月１ヵ月間の平均値の３倍以上の雨が降り、観測が始まって以来、最大の雨ということでありました。

続きまして２ページです。この雨による被害の概況ですが、先ほど申したとおり沿岸部を中心に道路の通行止め、土石流、がけ崩れ、河川の溢水などの被害が発生したということは皆さんご承知のとおりかと思います。

主な被害状況ですが、人的被害は死者３名等、物的被害は住家被害が全壊 41 棟等、これは 11 月 22 日時点のものです。

右側の写真については台風が過ぎた直後、10 月 14 日に知事が沿岸視察に行った時の写真で、普代の状況です。土石流でかなり甚大な被害を被った状況です。

続きまして３ページです。同じく被害概況ですが、県管理道路における全面通行止めは、最も多い時で 41 路線 58 箇所でした。現在でも５路線２箇所が通行止めの状態が続いているという状況です。

土砂災害が、土石流 74 箇所、がけ崩れは 23 箇所。それから３つ目として県管理河川の溢水、溢水というのは要するに川から水があふれ出る状態です。よく氾濫という言葉をお聞きになる機会が多いかと思いますが、氾濫はいわゆる堤防が決壊して水が広がるというような状態を言います。岩手の中小河川では堤防で守っているというところが少なく、いわゆる掘込み、地盤より低いところに川があるというような状況の河川が多いのですが、そこから水があふれた状態を溢水と言っています。

このような溢水が起こった所が６河川あります。こうしてみると道路の通行止めとか、土砂災害が非常に多かったのですが、河川の被害は比較的少なかったという状況です。

これは、雨の降り方が本当に沿岸に集中していたということで、沿岸の河川でも例えば閉伊川とか久慈川とか内陸部まで流域を持つ大きな河川は内陸の雨が弱かったために、水位の上昇があまりなかった。この６河川については沿岸沿いにある小さな河川、これが溢れたという状況です。

公共土木施設の被害は、1,011 箇所で 261 億円という状況ですが、河川関係については 324 箇所という、数はたくさんありますが金額については 75 億円ということで、どちらかというと小さい額だったという状況です。

続いて４ページです。これは県管理道路の状況です。①～⑤がついていますが、これは沿岸北部の道路状況です。例えば右上、①の県道角の浜玉川線ですが、道路が全面的に陥没し通行止めになったという状況です。

下の段にいきますと、⑤は、路盤が露出し路面も流されて全面通行止めになっている、こういった被害が発生している状況です。

続いて５ページ目です。５ページ目は沿岸南部の状況です。写真のとおり、沢からの水が原因で、沢を渡っている道路が流され寸断されています。

続いて土砂災害の状況です。

これは沿岸北部でありますが普代村、普代の沢という沢です。

左上が渓流の状況ですが、土砂が流れて地肌が見えている状況で、下段のほうが下流部の人家の被災状況です。

土砂、それから流木、これが山から流れてきて人家に深刻な被害が発生している状況です。

続きまして７ページ、尾崎白浜、これは釜石市です。これも山から土石流が流れて下流、海岸沿いの人家集落を直撃したという状況です。

続きまして、私達が所管する河川の状況です。左側が県管理河川の２級河川大槌川です。

ここで堤防が浸食され削り取られた状況が見えますが、幸いにもここは堤防を越えて人家への浸水はなかった。堤防は削られたけども浸水被害は生じてなかったというところです。矢印の下が応急復旧の状況。ちょっと写真暗くて見づらいですが、削れたところに大型土嚢を積んで、元の堤防の高さまで復旧しているところです。

なお、現在、国の災害査定が行われており、この災害査定を踏まえて本復旧につなげていくという状況です。

それから右側については久慈市の小屋畑川です。先ほど言ったとおり、沿岸のこういう小さな河川で非常に大きな出水があったということです。出水に伴って流木が流されてきて、橋に引っかかっている状況です。橋に引っかかり、ここから越水したというような状況です。

矢印の下は、流木、支障木を撤去して流れるようにした状況ですが、橋梁の右側、橋台の裏がすっかり抉られてしまっている状況です。

続いて９ページ目になります。県管理河川の被害状況の全体です。

先ほど県管理で溢水河川が６河川あったとお話しましたが、左側の図に字が赤で書いてあるものが溢水した河川です。

上から久慈市の鳥谷川、それから久慈市の小屋畑川、野田村、久慈市にまたがる宇部川、明内川、山田町の折笠川、同じく山田町の馬指野川。

あまり聞きなれない名前の川が多いかと思いますが、小さい河川が溢れて浸水被害が生じたという状況です。

それから、青い字で書いてあるところ、これは川の氾濫というよりは、街中の内水です。街中に降った雨が川に流れ込めなくて浸水した被害ということで、主な浸水については久慈市の久慈川沿いの街が内水により浸水しました。ここは浸水戸数が非常に多くて、床上床下ともに 100 棟以上が浸かったという状況です。それから少し下にいきまして、野田村の秋田川、ここについても内水による浸水被害が発生している状況です。

続きまして 10 ページです。浸水被害の大きかったところの状況についてお話ししたいと思いますが、特に河川の溢水によって被害が大きかったと考えている、久慈市、久慈川水系の小屋畑川です。位置的なものを説明したいと思います。

久慈の町がこの辺りにありまして、大きい本川としては久慈川です。久慈川が内陸の方から海に対し

て流れる。久慈川に合流する支川の長内川。これは比較的大きい川でありまして、久慈川の上流には滝ダムが、小屋畑川は長内川に流れ込む、更に小さい支川というところです。

ちょっと図の向きが上下逆になっていますが、長内川が右側から左側に流れるという状況。それに対して小屋畑川がその長内川に流れ込むという位置関係になっています。

今回浸水被害があったのは、この水色の範囲で非常に広範囲に渡って浸水が発生し、この浸水によって床上が 100 戸以上、床下が 100 戸以上発生と、非常に大きな浸水被害だったという状況です。

これと比較したのが平成 28 年の台風 10 号。この時は皆さんご承知と思いますが、岩泉の小本川の氾濫で、多くの方が命を落とされた痛ましい災害で、かなり大きい災害というふうに記憶されているかと思います。

その時の浸水との比較でありますが、台風 10 号の際はこの黄色の点線の部分だけの浸水でした。それよりも今回の台風 19 号の浸水被害のほうが非常に大きかったという状況です。

巷でよくバックウォーターという言葉をマスコミで聞くかと思います。

よく、この小屋畑川も長内川からのバックウォーターで浸水したのではないかと言われることがあります。実は台風 10 号の時の長内川の水位よりも今回の台風 19 号の長内川の水位は１ｍくらい低かったということで、台風 19 号の時よりも長内川は、バックウォーターが発生しづらい状況であり、我々はバックウォーターではなく小屋畑川自体の溢水によって、この浸水が発生したと考えています。

次に、これは主に内水被害でありますが、久慈川沿いの浸水被害の状況です。

これも浸水範囲を水色と黄色で示していますが、今回の台風 19 号と台風 10 号の際の浸水エリアはほぼ同じだったということです。

内水に関しては、この両方の台風によって差はなかったと考えられますが、そのなかで県管理の河川、ここの真ん中に沢川という川が流れています。

この地域に降った雨による内水と、沢川から溢れたという可能性もあります。基本的にこの町の中の排水は沢川には流れ込まず、沢川を横断してこの下流にある排水ポンプ場で久慈川に排水される計画になっていますが、沢川からの越水、溢水とはなかなか切り分けるのは難しいのですが、沢川の影響というのはそれほど大きくなかったとは思っています。いずれ台風 10 号の際には関係する水門はそれぞれ閉められており、沢川の上流で発生した水も小さいポンプで掻き出したということがあります。

市からは台風 19 号の時も台風 10 号の際も非常に大きい浸水が発生したこともあり、沢川の合流部にも、しっかり排水が出来るように排水ポンプを設置してほしいという要望があり、これから検討していくという状況になっています。

現在の状況ですけども、先程申したとおり、被災した堤防に関しては応急復旧を完了しています。堆積した流木も撤去を行っています。

それから出水によって河道内に土砂が堆積している状況が見られますので、それについては撤去を実施中です。

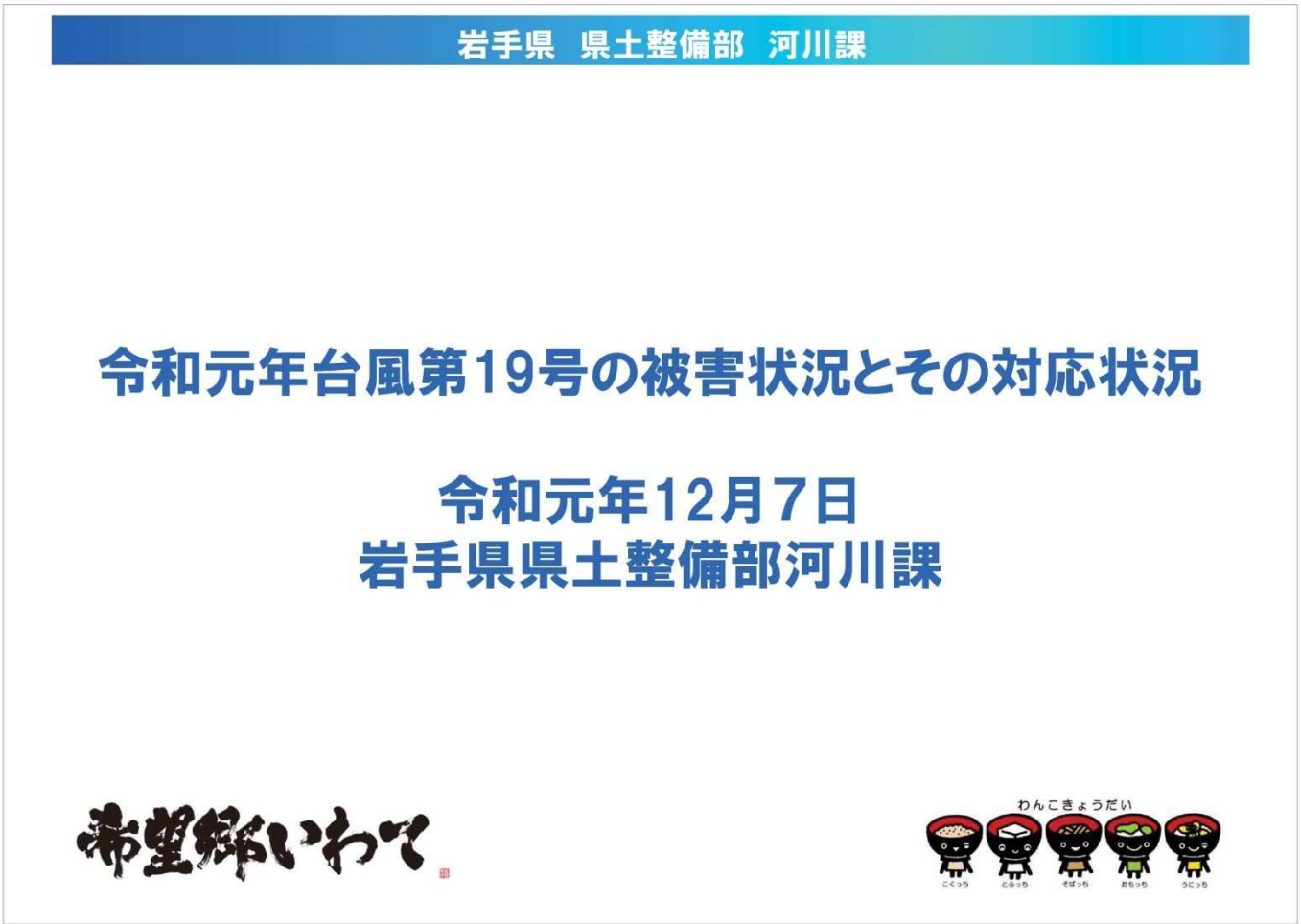
施設被害があったものについては、国による災害査定を今まさに実施しているところです。

更に被害が大きかった小屋畑川、それから沢川については、それらの浸水範囲、洪水痕跡などを調査しておりまして、この氾濫のメカニズムをしっかり調査し、調査結果を踏まえた上でどのような対策をとればいいか、これから検討していくこととしています。

今までお話ししたとおり、河川としては台風 10

号の時よりも小さい被害で済んだのですが、必要な対策を取らなければならない河川がいくつかあるという状況です。

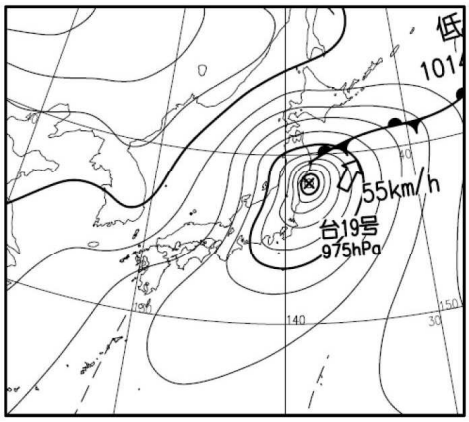
　なかなかマスメディアには報道されない部分がありましたので、この機会に皆さんにご紹介させて頂きました。



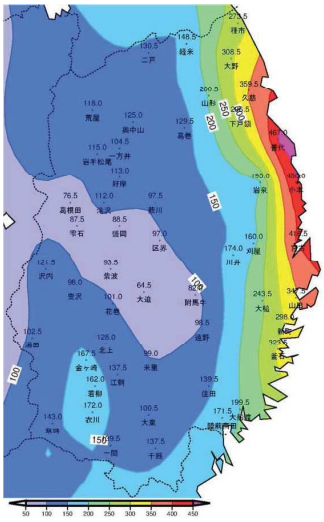
令和元年台風第19号による気象概況（岩手県）

■気象概況

岩手県では、10月11日から前線の影響で雨が降り出し、12日から13日にかけ、台風の接近に伴い非常に激しい雨となった。 沿岸を中心にこれまでに経験したことのないような大雨となり、岩手県で初めてとなる大雨特別警報が発表された。
10月11日15時から13日15時までの総雨量は、沿岸の広い範囲で300mm以上の記録的な大雨となり、普代467mm、岩泉町小本450mm、宮古416.5mmと10月1か月の平年値の3倍以上の雨量となった。



2019/10/13 午前3時の天気図


総雨量分布図(mm)（期間：11日15時～13日15時）

主な地点の総降水量(mm)
（期間：11日15時～13日15時）

地点名	値
洋野町種市	273.5
洋野町大野	308.5
久慈	359.5
久慈市下戸鎖	296.5
普代	467.0
岩泉町小本	450.0
宮古	416.5
山田	347.5
大槌町新町	298.0
釜石	323.5

主な地点の最大1時間降水量(mm)
（期間：12日～13日）

地点名	値(起日)
洋野町大野	49.0(13日01時59分)
久慈	71.0(13日01時43分)
普代	95.0(13日01時54分)
岩泉町小本	93.5(13日01時55分)
宮古	84.5(13日01時21分)
大槌	43.0(13日00時15分)
山田	77.5(13日00時59分)
大槌町新町	57.0(13日00時43分)
釜石	60.0(13日00時45分)
大船渡	45.5(13日00時08分)

出典：岩手県災害時気象資料令和元年台風第19号による大雨と暴風・高波（令和元年10月12～13日）
（盛岡地方気象台）

1

令和元年台風第19号による被害概況（岩手県）

■被害概況

台風第19号がもたらした降雨により、沿岸部を中心に、路盤流出等による道路の通行止め、土石流やがけ崩れ、河川の溢水等による浸水被害などが発生。

【岩手県の被害状況】

◆人的被害
死者　3名
重症　4名
軽傷　3名
（※河川関係の人的被害なし）

◆物的被害
（住家被害）
全壊　41棟
半壊　758棟
一部破損　1,600棟

（非住家被害）
公共建物　19棟
その他　1,256棟

（※11月22日時点　県台風災害復旧復興推進室まとめ）

2

令和元年台風第19号による被害概況（岩手県）

主要地方道重茂半島線（宮古市）

普代の沢（下閉伊郡普代村）

二級河川小屋畑川（久慈市）

◆県管理道路の全面通行止め
累計　41路線58箇所
（現在）５路線５箇所
（※11月25日時点、県道路環境課まとめ）

◆土砂災害
土石流　　74箇所
がけ崩れ　23箇所
（※11月22日時点、県砂防災害課まとめ）

◆県管理河川の溢水（いっすい）
6河川

◆公共土木施設の被害
1,011箇所　約261億円
うち、河川関係の被害
324箇所　約75億円
（※11月8日時点、県砂防災害課まとめ。
県・市町村の合計値）

3

令和元年台風第19号による被害状況（県管理道路）

②一般県道侍浜停車場阿子木線（道路欠壊）

①一般県道角ノ浜玉川線（路面陥没）

③一般県道姉帯戸田線（道路欠壊）

⑤主要地方道岩泉平井賀普代線（道路流失）

④一般県道野田長内線（道路欠壊）

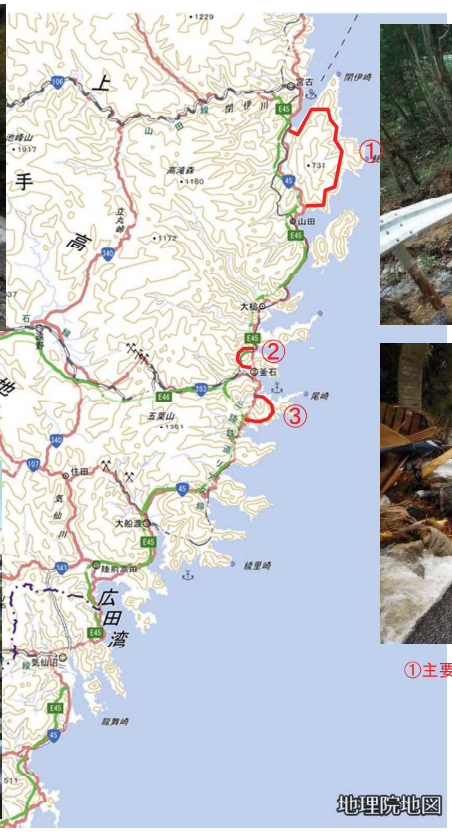
資料提供：岩手県砂防災害課

4

令和元年台風第19号による被害状況（県管理道路）

資料提供：岩手県砂防災害課

みずうみおおわたりせん
②一般県道水海大渡線（道路欠壊）



おもえはんとうせん
①主要地方道重茂半島線（上・下とも道路欠壊）

さくらとうげへいたせん
③一般県道桜峠平田線（道路欠壊）

資料提供：岩手県砂防災害課

5

令和元年台風第19号による被害状況（土砂災害）

普代の沢（下閉伊郡普代村）

資料提供：岩手県砂防災害課

渓　流　荒　廃　状　況

土　砂　流　失　状　況　①

土　砂　流　失　状　況　②

6

令和元年台風第19号による被害状況（土砂災害）

尾崎白浜（６）（釜石市）

資料提供：岩手県砂防災害課

渓　流　荒　廃　状　況

土　砂　流　失　状　況　①

7

令和元年台風第19号による被害状況（県管理河川）

二級河川大槌川（大槌町大ヶ口）
堤防の侵食

大型土のうによる応急復旧

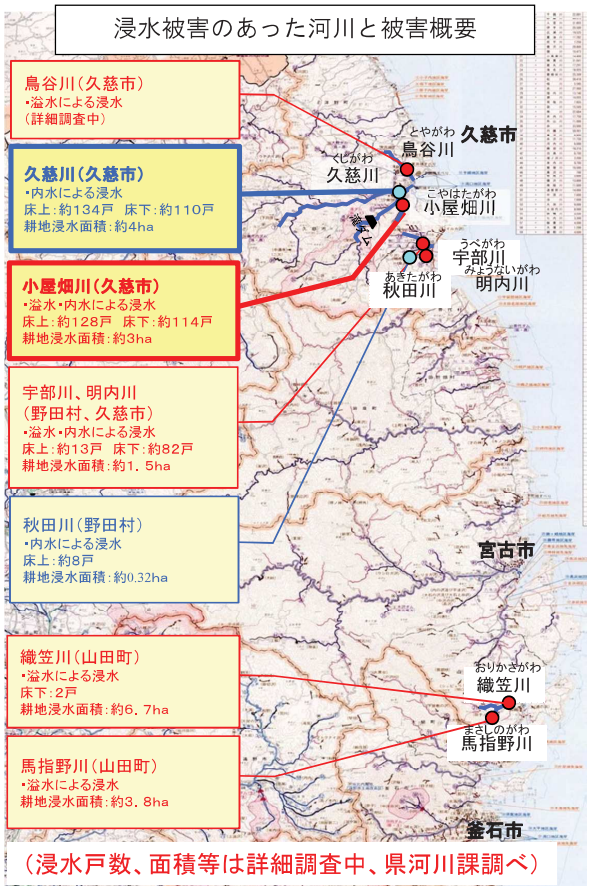
二級河川小屋畑川（久慈市長内町）
小屋畑橋への流木堆積

支障木を撤去

8

令和元年台風第19号による被害状況（県管理河川）

浸水被害のあった河川と被害概要



（浸水戸数、面積等は詳細調査中、県河川課調べ）

二級河川鳥谷川（溢水状況）

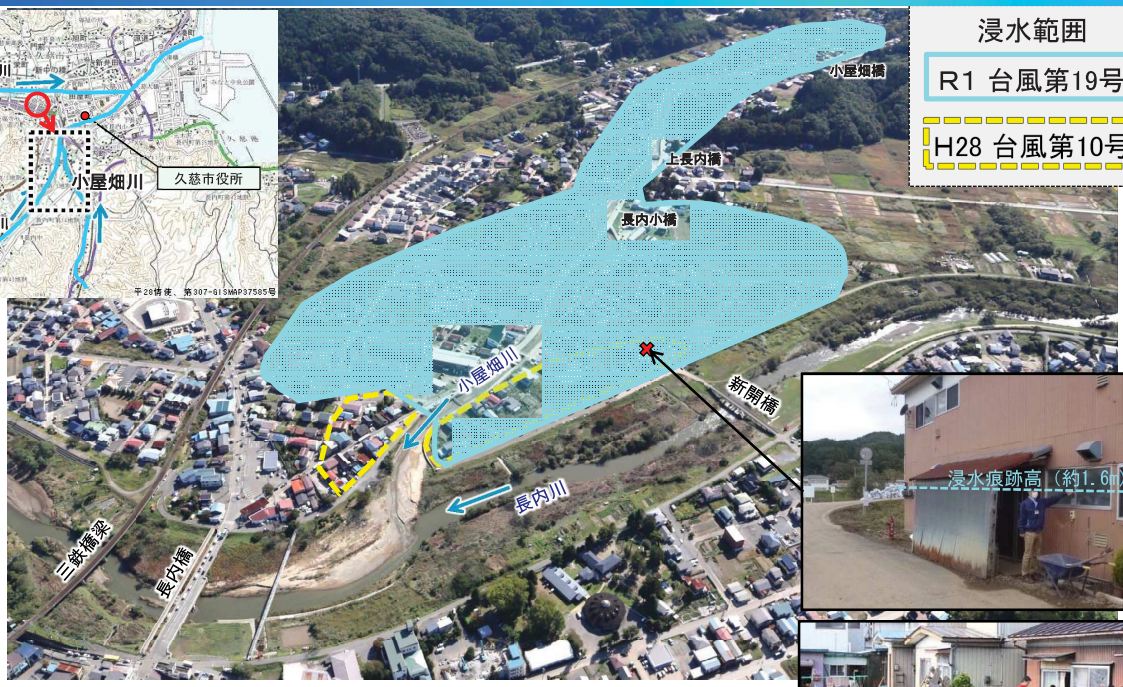
二級河川宇部川（護岸被災）

二級河川明内川（溢水状況）

二級河川織笠川（溢水状況）

9

久慈川水系 小屋畑川こやはたがわ （岩手県久慈市長内町地区）

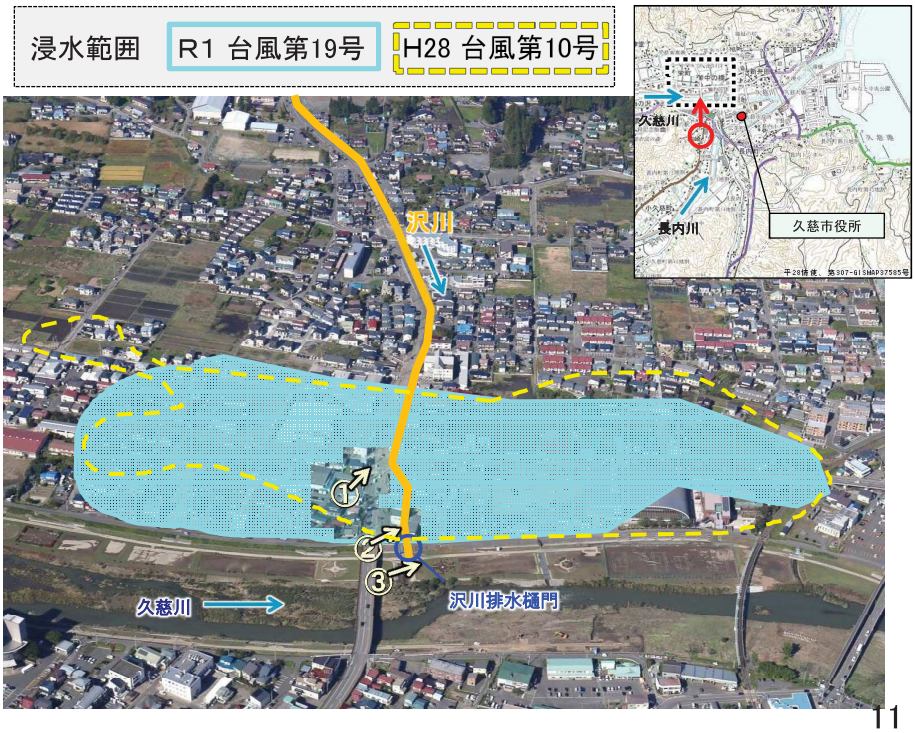


【被災状況】
現在調査中であり、概数であること（県河川課調べ）
◆床上：約128戸　床下：約114戸

10

久慈川水系久慈川（くじがわ）　（岩手県久慈市新中の橋地区）

【被災状況】 現在調査中であり、概数であること（県河川課調べ）
◆床上：約134戸　床下：約110戸 （内水）



11

県管理河川に係る対応状況

【河川関係の対応状況】

- 被災した堤防の応急復旧、橋梁に堆積した流木等の撤去は完了。現在、出水によって河道内に堆積した土砂の緊急的な撤去を実施中。

- 施設被害のあった箇所については、国による災害査定を実施中。

- 浸水被害が大きかった河川については、浸水範囲や、洪水痕跡などの調査中。

→<u>調査結果を踏まえたうえで、必要な対策を検討していきます。</u>

希望郷いわて

12

河川行政の取組報告②

「令和元年台風第 19 号について」

北上川下流河川事務所

副所長　外山 久典 氏

当事務所は北上川の下流にあたる宮城県側の北上川を管理しており、現在、東日本大震災の復旧復興で旧北上川の堤防整備を行っておりますが、今日は台風 19 号についてお話させていただきます。

はじめに位置のおさらいをします。北上川流域の南側に鳴瀬川水系があり、鳴瀬川とその支川の吉田川という位置関係になっています。

台風 19 号に伴う降雨は、総雨量 400ml を超える雨で、吉田川の上流域、特に西部で集中的に雨が降り、吉田川は観測史上１位の雨が広い範囲に降りました。

その結果、河川の水位は鳴瀬川では既往１位に達しませんでしたが、吉田川は粕川と鹿島台で既往１位になる水位に達しました。

報道などでご承知かと思いますが、吉田川の粕川で堤防が決壊しました。

洪水が終わった後の痕跡調査で 33 箇所堤防を越水または溢水したことが分かっています。

吉田川の水がわずかに 10 数センチ程度、堤防を越えた箇所が多かったものの、これだけ同時多発的に越水したのは今回が初めてだと思います。

決壊は１箇所ですが、数箇所は堤防が削り取られており、もう少し洪水が長引けば、決壊箇所も更に増えたと思われる非常に大きな洪水でした。

吉田川は西から東に流れており、決壊した箇所は赤×印の地点です。

浸水区域の上端の川は宮城県が管理している鶴田川で、吉田川を立体的に交差して松島湾に流れています。

色が薄い水は、おそらく鶴田川からの内水で、色の濃い水が決壊した箇所から到達した氾濫水と思われます。

この地区は低平地なので、上流から下流に向かって拡散していくため、決壊した水が市町村をまたがって下流の大郷町、大崎市の鹿島台へ到達したと考えています。

行政エリアが複雑ですが、浸水区域の一部である松島町の幡谷に氾濫により流されてきたゴミなどが集まりました。

鹿島台の方々は、まさか 6.4km 上流で決壊した水が流れて来るとは思っていなかったようです。

氾濫した時の吉田川の様子は品井沼遊水地の前の品井沼に戻ったかのようでした。

後程紹介しますが、写真中央の三角地が水防災拠点で、堤防と同じ高さを持った避難地と堤防を復旧するための備蓄資材を置いている場所です。

粕川地区の堤防が越水し、お寺や旧小学校の周辺に水が流れている状況です。

CCTV カメラが記録したものでは、土嚢を積んでいる脇のあたりから越水し、堤防が削られて、間もなく決壊するという状況がわかります。

堤防が決壊した写真です。濁流が吉田川から堤内地側へ流れている状態です。

次の写真は川側から撮影したもので、手前が吉田川で氾濫先が堤内地にあたります。

ずっと奥に見えるのが鹿島台の町で、大郷町と大崎市鹿島台に広く氾濫しました。

堤防決壊から６日後の 10 月 19 日時点の浸水状況は、浸水直後から時間が経過し排水によって水位が低下しましたが、稲刈り直後ということもあり、稲藁や枯れ草のロールなどが下流に集まり、水が引いた後に大量に堆積しました。

また、10 月 17 日と 10 月 23 日を比較した写真では、水が引いた後の稲藁が堆積した状況がわかります。

写真の吹き出しの部分が先程説明した水防災拠点で、拡大しても分かりにくいですが、付近の集落の人たちが避難しています。

農機具や自家用車で避難し、ここで水が引くまで生活されたそうです。

堤防決壊箇所は、最初 20m程度の幅で決壊し、最終的には 100m程度まで決壊幅が拡大しました。

復旧の状況ですが、10 月 13 日に工事着手し、18 日に仮堤防を造りました。

10 月 27 日に二重締切鋼矢板が完成して、現在に至ります。

今後は、仮堤防盛土を撤去して本復旧しますが、詳細の構造等については検討中です。

大崎市鹿島台地区は約 12 日間湛水し、東北地整所有の排水ポンプ車だけでは足りず、中国地整や中部地整から応援に来ていただき、排水ポンプ 30 台により 24 時間体制で排水しました。

また、台風 19 号では、沢山の課題がありました。

例えば、水防災拠点には住民が避難していたため、堤防決壊した上流に備蓄資材を運搬する際、堤防天端は生活用道路なので工事用車両は通行しないでほしいという要望もあり、復旧の支障になったこと。

また、排水は浸水している方からホースで堤防を横断させ、吉田川へポンプで排水しますが、堤防天端道路を使えなくなるのは困ると言われ、ホースを跨ぐように側溝を逆さまに被せ、その上に鉄板を敷いて道路を作るといった、ひと手間加えなければならない状況など、課題が散見されています。

浸水範囲の経過は、徐々に浸水範囲が縮小したものの、最終的に水が引くまで約 12 日間かかりました。

浸水解消後、付近の集落の方は、早く帰宅し片付けをしたいということでしたが、集落の道路が稲藁で塞がれて帰れないため、国交省が道路の稲藁等の片付けを応援しました。

水が引いた後も、地域の復興には更にひと手間かかります。

本来 10 月は台風が多い月ですが、地球温暖化の影響でしょうか台風の勢力が衰えず、台風 19 号は非常に大きな雨を降らせ、稲藁を流しました。稲藁は非常に堆積量が多く、自治体では処分出来ないとのことで国交省が応援しました。また、ボランティアの方も作業に加わっていただきました。

吉田川は昭和 61 年に大きな洪水がありました。その時は非常に多くの予算を使って復旧事業を実施しています。

昭和 63 年には「水害に強い町づくり事業」により、大規模氾濫した場合に備えて未整備だった堤防を整備しています。

また、平成 27 年度も大きな出水があり、上流の大和町で浸水被害があり、遊水地を造る事業を実施しています。

非常に多くの治水への投資は行っていますが、残念ながらそれ以上の災害に見舞われ、大きな浸水被害が発生してしまいました。

不幸中の幸いですが、このエリアは浸水により大きな被害がありましたが、死者がゼロでした。

これは、国、県、市など水害に強いまちづくり事業なども寄与していると思いますが、地域の防災意識が高く、早く避難したということが一番の要因と考えています。

今後、吉田川の抜本的な治水対策を更に計画しますが、課題も踏まえて地域と一体となった計画を作っていかなければならないと思っている次第です。

令和元年度　北上川『流域圏』推進交流会議

令和元年10月（台風19号）について

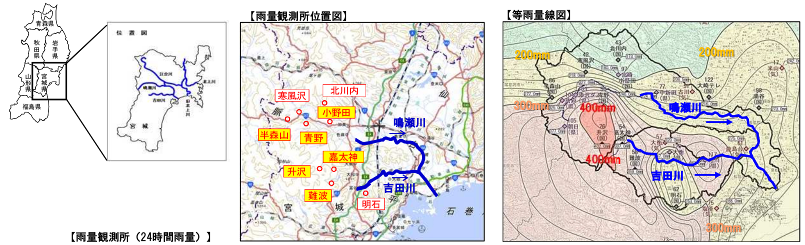
令和元年12月7日

北上川下流河川事務所

台風第19号　降雨の概要

■台風第19号の影響によって東北地方の太平洋側で非常に激しい降雨となり、鳴瀬川水系流域６観測所で既往１位を観測（24時間雨量）
■鳴瀬川上流青野雨量観測所では、総降雨量は400mmを超える降雨を観測。
■仙台管区気象台は12日19時50分、宮城県に大雨特別警報を発表。

【雨量観測所位置図】　【等雨量線図】



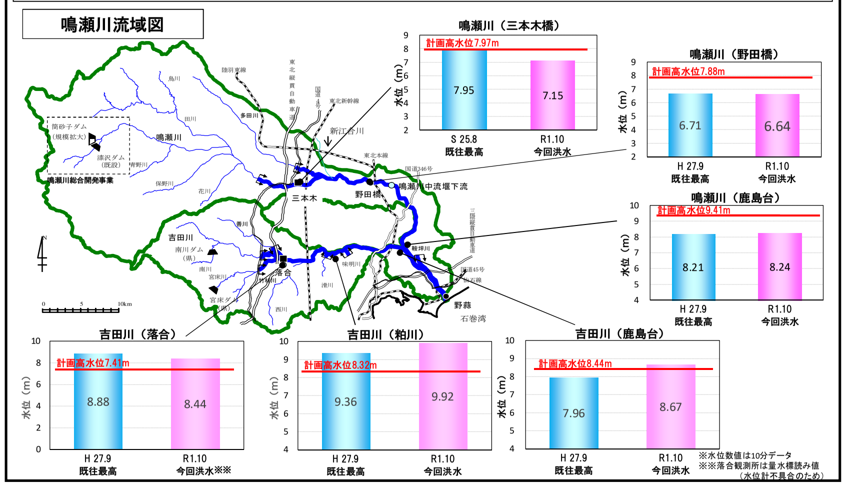
【雨量観測所（24時間雨量）】

観測所名	小野田	升沢	寒風沢	北川内	青野	半森山	明石	難波	嘉太神
読み	おのだ	ますざわ	さぶさわ	きたかわうち	あおの	はんもりやま	あかし	なにわ	かだいじん
水系名	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川	鳴瀬川
河川名	鳴瀬川	花川	田川	田川	大滝川	筒砂子川	西川	南川	吉田川
位置									
所在地	加美郡加美町内谷地	黒川郡大和町吉田字升沢	加美郡加美町宮崎字寒風沢六番	加美郡加美町北川内字藁野	加美郡加美町字鹿原小梨沢	加美郡加美町字漆沢岳山国有林	黒川郡富谷町明石字西ノ入	黒川郡大和町宮床字新山	黒川郡大和町吉田字大森
既往最高	平成23年9月20日22時	平成27年9月10日2時	平成27年9月10日5時	平成27年9月10日7時	昭和61年8月4日12時	平成11年8月13日6時	昭和61年8月4日13時	平成27年9月10日8時	平成27年9月10日7時
	236	312	241	227	297	230	299	329	327
R1.10.12洪水	既往１位	既往1位	既往２位	既往３位	既往１位	既往１位	既往３位	既往１位	既往１位
	240	391	209	167	403	272	246	351	376
総降雨量(mm)	245	402	217	172	410	276	252	358	386

※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。

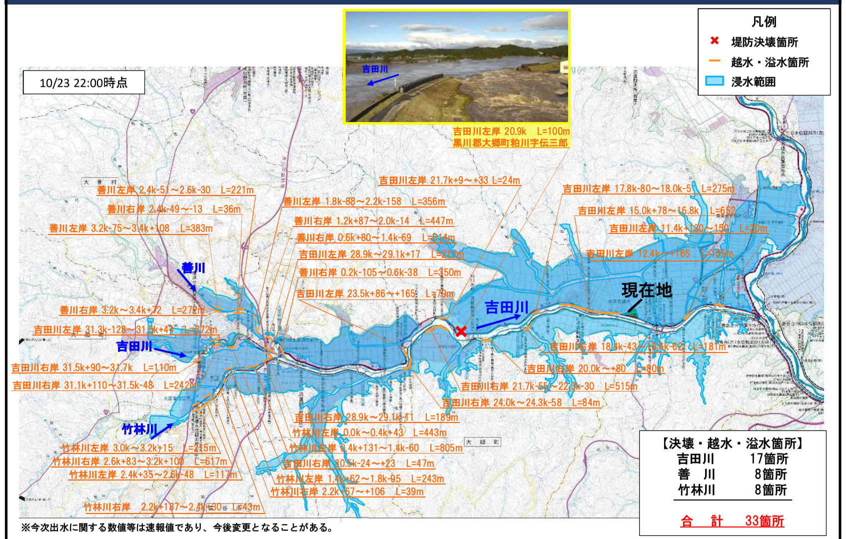
台風第19号　吉田川における水位の状況

■鳴瀬川水系吉田川では、粕川（宮城県大郷町）から鹿島台（宮城県松島町）までの水位観測所で既往最高水位を超過。
■吉田川の落合（宮城県大和町）、粕川（宮城県大郷町）、鹿島台（宮城県松島町）地点においては計画高水位を超過。



※水位数値は10分データ
※※落合観測所は量水標読み値（水位計不具合のため）

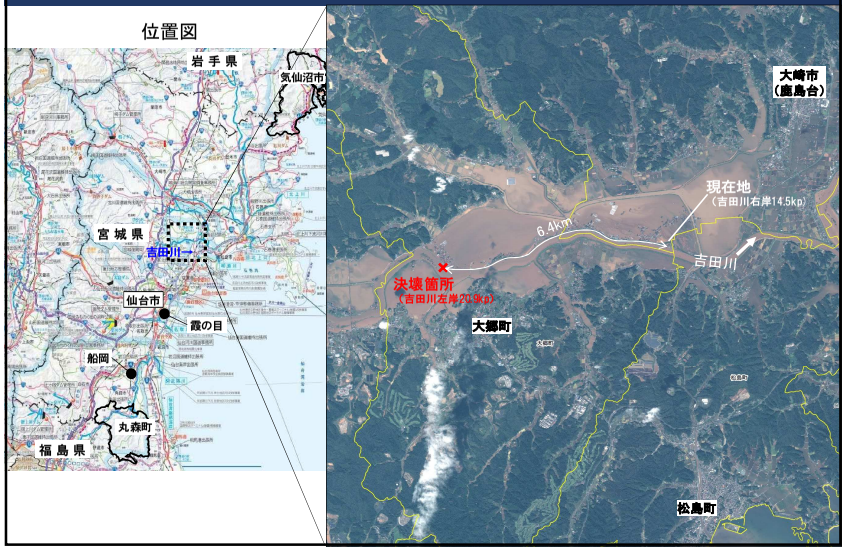
台風第19号　吉田川筋の越水・溢水と決壊



※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。

台風第19号による吉田川の氾濫

台風第19号　吉田川決壊・氾濫　位置図



台風第19号　吉田川左岸(20.9kp)の越流状況

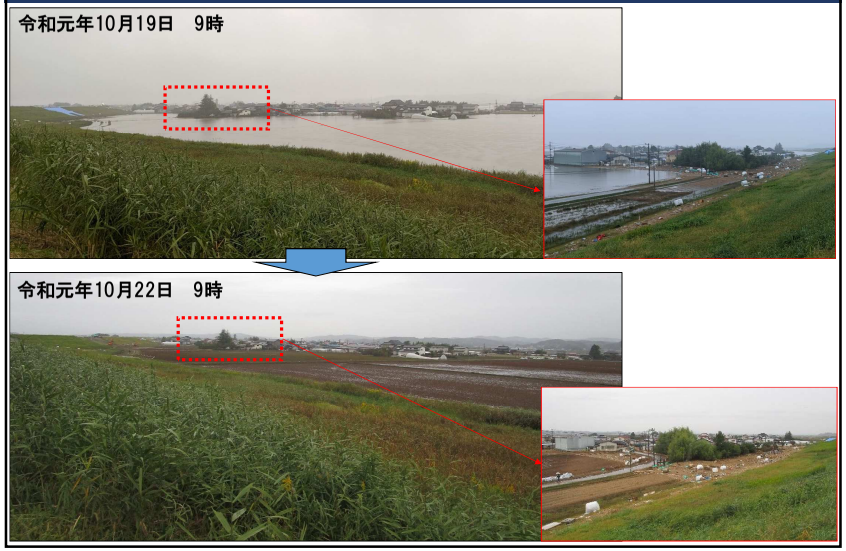
2019年10月13日6時頃

台風第19号　吉田川左岸(20.9kp)の決壊状況

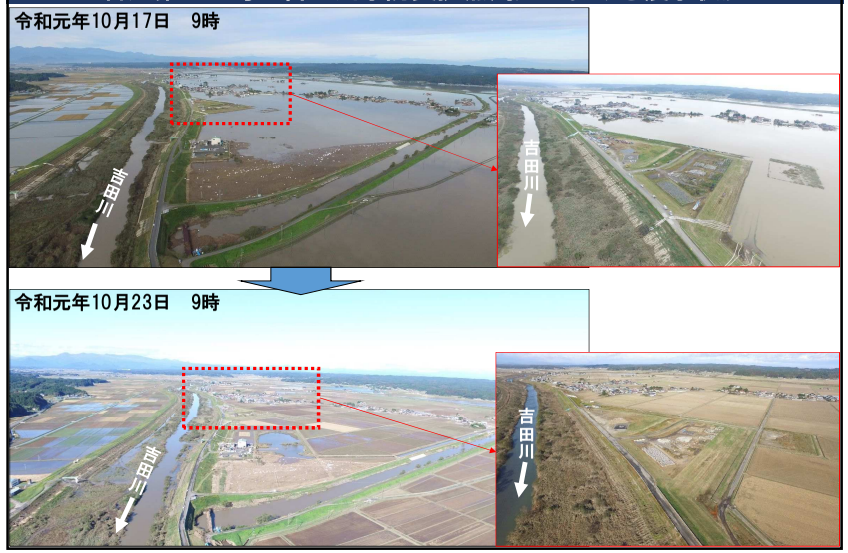
2019年10月13日7時50分頃

台風第19号　吉田川左岸(20.9kp)の決壊状況

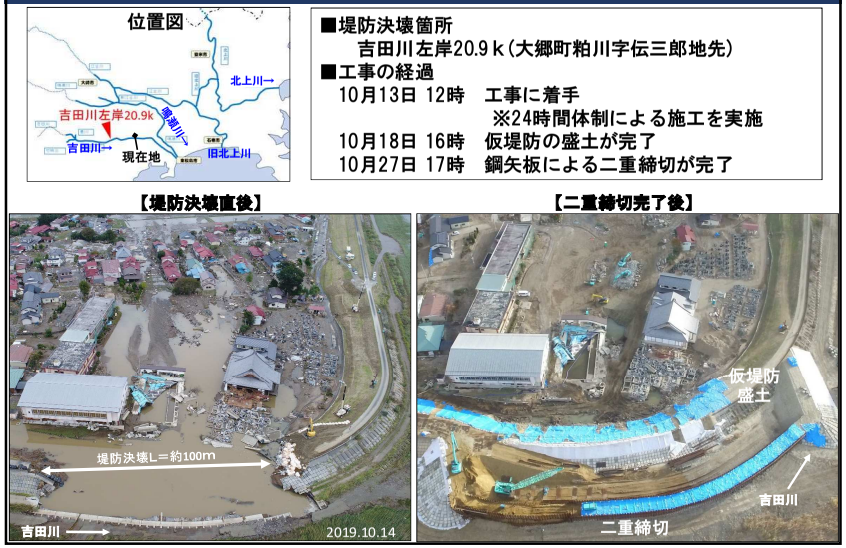
台風第１９号　吉田川水防災拠点周辺における浸水状況



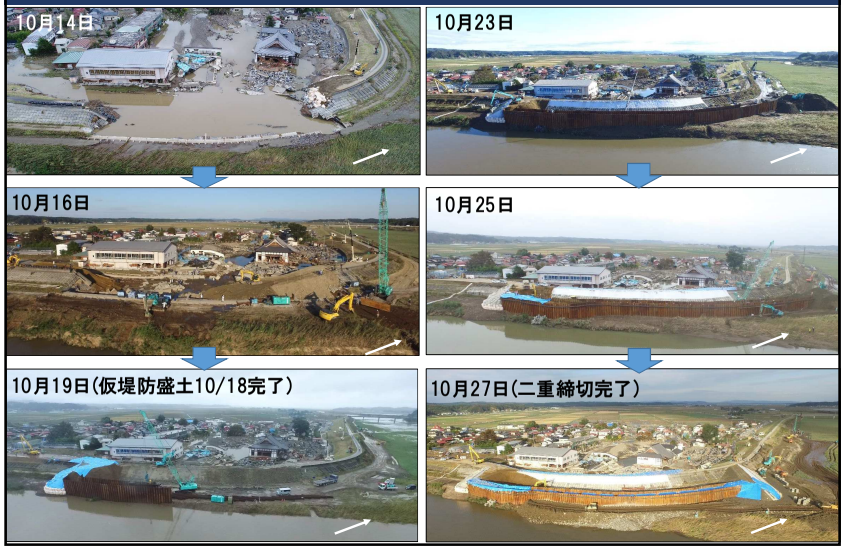
台風第１９号　吉田川水防災拠点周辺における浸水状況



台風第19号　吉田川堤防決壊箇所の緊急復旧工事の概要



台風１９号　吉田川堤防決壊箇所の緊急復旧工事の経過



台風第１９号　吉田川における排水活動状況

■ 家屋浸水の解消を目指して、30台の排水ポンプ車により24時間体制で排水活動を実施。

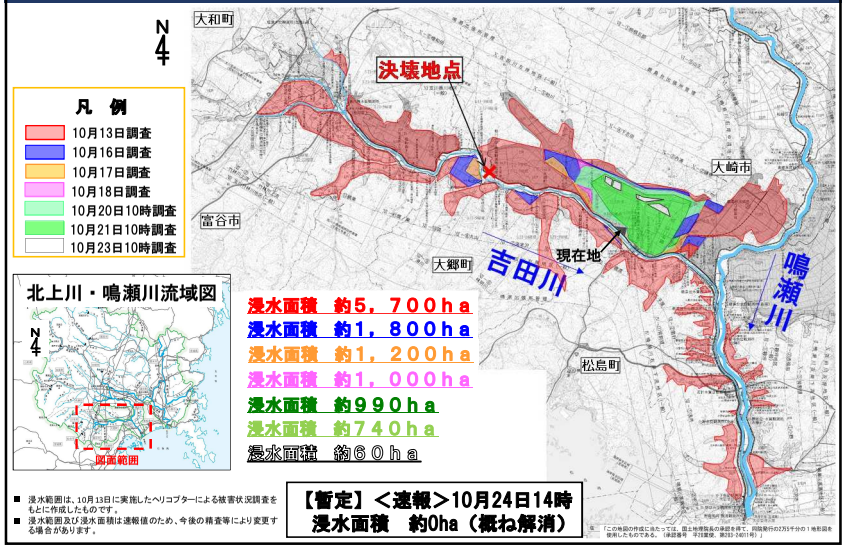
排水活動状況（大崎市鹿島台）

夜間排水活動状況（大崎市鹿島台）

台風第１９号　吉田川における排水活動状況

他地整(中国・中部)による排水活動

台風第１９号　吉田川における浸水範囲の推移



台風第１９号　吉田川浸水箇所における道路啓開

■大崎市の支援要請に基づき、専門チームを立ち上げ、浸水が解消した生活道路の啓開を実施。
■平成30年7月豪雨の際に、岡山県倉敷市真備町で道路啓開を対応した「中国地方整備局TEC-FORCE」からの支援を受け、関係機関と調整を行い、早期に道路交通を確保。

道路啓開 土砂等撤去実施箇所

国土地理院　浸水想定段彩図（10月14日17時時点）

大崎市と作業箇所の確認

啓開前の主要な道路の状況

中国地整TEC-FORCEからの技術的支援

道路啓開作業状況

道路啓開・清掃完了状況（10月24日）

この資料の地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。（承認番号　令1 東複、第14 号）

台風第１９号　吉田川浸水箇所における道路啓開

■浸水箇所における道路啓開は、１０月２６日までに完了し、大崎市長に対して対応状況を報告。
■道路啓開の進捗とともに、地元の方々やボランティアなどによる生活再建に向けた復旧作業も加速。

大崎市長への対応状況の報告（10月26日）

大崎市長からのお礼
（排水支援チーム、北海道・中部・中国TEC-FORCE）

河川行政の取組報告③

「盛岡地区かわまちづくりについて」

岩手河川国道事務所　所長　　佐近　裕之　氏

本日は盛岡地区のかわまちづくりについて、少しの間、お話する時間をいただければと思います。おかげさまで北上川水系の上流域については、今、お話していただきました宮城県や福島県と違いまして大きな出水はございませんでした。

降った雨も私の後でお話いただく北上川水系の五大ダムで、ほぼすべて洪水をのみ込んでいただきましたので結果として、この流域沿川地域は、ほぼ無災害という非常にありがたい状況でした。

私からは、かわまちづくりについてお話させていただこうと思います。

かわまちづくりは、水域ごとに大体１箇所くらいまちづくりと連携した川づくりをやっています。

現在、北上川流域では盛岡市の中心部で行われていまして、こちら一番下のところ流れているのが北上川で、上から流れてくるのが中津川、この下のほうから流れているのが雫石川の三川合流する盛岡市の中心部です。

この中津川については、盛岡市の中心部を流れている、こちらちょっと見えないですが北上川のすぐ脇には先程盛岡市で報告のあったとおり盛岡駅のある中心地になっております。このエリアについては、いろいろなイベントを地域の様々な方が行っていただいているという状況です。例えば、４月 29 日からこちら２月上旬まで１年間を通して多くのイベントが実施されています。

そのイベントの数は、平成 20 年以前、平成 21 年～23 年、平成 24 年～26 年と徐々に様々なイベントが増加している状況です。

そのイベントの増加に合わせて、少しずつ観光客が増加しているという状況です。

こちら平成 27 年に行われた中津川納涼桟敷で、「かわのまち盛岡」をアピールするために地元の方々、中津川納涼桟敷プロジェクト実行委員会が企画して実行されました。当時は 300 人を超える人が参加していただいたとのことです。

また、毎年、北上川、中津川でウォーキングイベントなどを開催しています。昨年、今年と約 800 人参加していることで非常に多くの方にご利用されています。

国交省の方では、非常に多くの方にご協力いただいて川の周辺の整備を進めるということで川のすぐ脇に遊歩道を整備したり、階段を整備したり、中州の撤去を実施して利用しやすいようにしています。

また、川岸の護岸の所に散策用のマップを作ったり、また今現在どこにいるのか分かりやすくするために、橋梁などを模式的に示して、どこにいるかわかりやすいように示しています。

先程、事例発表の中でもいくつかありましたが、かわまちづくりの一環で舟運復活を地域の方々に行ってもらっています。

「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」が、３年ほど前に設立されています。

また、北上川フェスタを開催して、ゴムボートに乗船していただいたり、その利用の際のアンケートの方も回収しています。

その他にも、木造船などを作っていただいて将来的には木造船を活用した舟運事業などをご検討していただくところです。

こちら、かわまちづくり舟運復活への取組みということで、平成 29 年以降の北上川フェスタやシンポジウムの開催、また平成 30 年は「ひめかみ」と「も

りおか丸」、木造船の完成、また社会実験や進水式等を実施していただいています。

今年度についても、北上川フェスタの開催や講演会の開催が予定されています。

我々国交省の方でも、引き続き護岸の整備、特に舟が乗り降りしやすいように、河岸を緩傾斜になるよう整備を考えているところです。

また、中津川は昔からサケがあがってくるということで地元の方に非常に愛されております。河口から盛岡まで約 200km ありますが、サケがあがってくる。私も最初聞いた時には信じられなかったのですが、開運橋からサケがあがって来るのが見えまして本当にビックリしたことがありました。

ここまであがってくると、サケはボロボロに白くなって、川の上から覗くとサケの体が一部まだら模様になっていて、ああ本当に 200km あがってきたんだと実感しました。

中津川は北上川と比べると川幅が狭く水深も浅い、たくさんある橋から覗くと非常に川の中がよく見えましてサケがあがって来るのが結構よく見えます。

サケがあがりはじめると「サケのぼり」を地元の方が設置して、現在サケがあがってきてますよとお知らせいただいているそうです。

結構地元の方、幼稚園児など、サケがあがってきたりすると、橋の上から覗いている姿が見られたりします。

先程、盛岡市公園みどり課から報告がありましたので、私からは掻い摘んでお話しますが、木伏緑地の川の魅力向上ということで盛岡市が Park-PFI を活用し、そのあがりでもって、公園整備を進めていただく。

河川で公園整備を進める中での最大の課題はトイレです。なかなか一級水系でトイレが身近にないと河川利用が進まない原因となっていまして、今回、事業者の収益の一部で公園の中のトイレを綺麗にしていただいているということで非常に河川利用、公園利用が進んでいます。

将来的には集合事業、例えば木造船やゴムボートの川下り大会などで利用した方が気軽に使えることになるのではないかと期待しています。

また、非常にロケーションが良い場所ですので、さらに地域の方々に愛される川づくりになっていくのではないかと期待しているところです。

最後にこれは、北上川と中津川と雫石川全体の事業概要になっていて、こうやってご覧なっていただくと川を中心にして非常に多くの文化施設が周辺にありまして、こういった文化施設と川の散策とセットにして更に利用が進んでいくのではないかと期待しているところです。

盛岡地区かわまちづくりについて

国土交通省東北地方整備局
岩手河川国道事務所長　　佐近　裕之

盛岡地区かわまちづくり　～概要～

■概要

地域住民の暮らしの中で
身近な自然とのふれあいの場

盛岡市の中心部を貫流する**北上川**と支川**中津川**は岩手山などの山並みを背景に盛岡城跡公園をシンボルとした重層的な歴史・文化に育まれた街並みの中にあります。

盛岡市中心部を流れる北上川、中津川、雫石川

テレビイベント「内丸大縁日」（中津川）

盛岡駅前の開運橋から見た北上川と岩手山

かわづくりとまちづくり、それらの連携を支えるひとづくりを目指し、地域住民と広域から訪れる人が多様な交流を推進する舞台となる水辺づくりを推進しています。

1

盛岡地区かわまちづくり　～河川敷のイベント状況１～

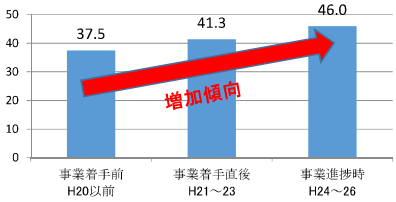
■河川敷イベント実施状況

河川周辺には数多くの観光資源が存在し、水辺空間の整備により年間を通じて様々なイベントが開催され、地域の活性化につながっています。

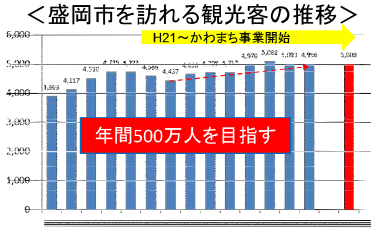
令和元年度(2019)

開催日	イベント名	場所
4月29日	盛岡市消防演習	中津川
6月16日	大盛岡神輿祭	中津川
6月14･15日	川守稲荷･荒神神社祭	北上川
6月8日	チャグチャグ馬コ	中津川
6月15日	北上川ﾌｪｽﾀINMORIOKA	北上川
7月20日	あわしま･こんせい祭	中津川
7月28日	北上川ｺﾞﾑﾎﾞｰﾄ下り大会	北上川
8月1･2･3･4日	盛岡さんさ踊り	中津川
8月17日	舟っこ流し	北上川
8月24･25日	内丸大緑日(24時間ﾃﾚﾋﾞ)	中津川
9月16日	盛岡八幡宮　川原祓い	中津川
今年度中止	えきいき沿線特産市	北上川
9月28･29日	くずまき高原牧場まつり	中津川
9月28･29日	岩手もりおか復興ﾌｪｽﾀ	中津川
10月6日	健康チャリティーウォーク	中津川
10月26･27日	盛岡市農業まつり	中津川
12月中旬	岩手の鮭まつり	中津川
R2年2月上旬	もりおか雪あかり	中津川

＜河川敷のイベント回数＞



＜盛岡市を訪れる観光客の推移＞



盛岡市消防演習

大盛岡神輿祭

チャグチャグ馬コ

北上川フェスタ

北上川ｺﾞﾑﾎﾞｰﾄ川下り大会

舟っこ流し

内丸大緑日(24時間ﾃﾚﾋﾞ)

えきいき沿線特産市

くずまき高原牧場まつり

健康ﾁｬﾘﾃｨｰｳｫｰｸ

岩手の鮭まつり

もりおか雪あかり

2

盛岡地区かわまちづくり　～河川敷のイベント状況２～

■河川の利用状況

（1）中津川納涼桟敷（中津川）

中津川に舞う盛岡芸妓

- 「川のまち盛岡」アピール
- 盛岡の新たな夏の風物詩を目指し、盛岡市と市内の団体などで構成する「中津川納涼桟敷プロジェクト実行委員会」の企画
- 平成27年7～8月（7日間）で試行
- 来場者308名

（2）いわて健康チャリティーウォーク（中津川）

中津川に整備された散策路を歩く市民

- 毎年多くの市民が中津川の散策路を利用してウォーキングによる健康づくりを行っている。
- 昨年度（H30）、今年（R1）と約800人が参加。
- 中津川沿川を含む盛岡市内を歩き、川沿いの秋景などを楽しんだ。

3

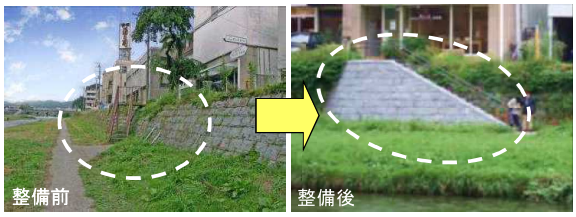
盛岡地区かわまちづくり　～整備事例～

■整備事例　遊歩道・階段・中州撤去等

観光客が盛岡駅から北上川、中津川の散策路ルートを利用して、まちなかの観光施設にアクセスしやすくするための遊歩道、坂路、階段、案内表示板の整備を行っています。

また、まちづくりを行う上での景観上及び利用上の阻害となっている中州及び樹木について、撤去（高水敷整正含む）及び伐採を行うことで、景観の向上と利用促進を図ってきています。

遊歩道



階段

中州撤去（景観の向上、利用促進）

案内表示板

4

盛岡地区かわまちづくり　～舟運復活への取り組み～

- 平成28年度に「盛岡地区かわまちづくり」の事業計画を変更した際、「舟運復活」が盛り込まれ、①**舟っこを運航**②**川の駅を設置**の2つを目的として「**北上川に舟っこを運航する盛岡の会**」が設立（H29.2）。
- 平成29年6月17日（土）に「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」主催による、**第1回「北上川フェスタ」IN MORIOKA**を開催。一般の方を対象に**ゴムボートに乗船**してもらい、その感想をアンケートとして回収し、事業展開していくための課題を抽出。
- 同じく、第1回「北上川フェスタ」IN MORIOKAにおいて、小繰船**「ごんべえ丸」を**北上川沿いの施設に**展示**。
- H30は、**木造船2艇（3.3m、5.94m）製作**。東北絆まつり（6/2・3）で展示。6/19木造船による社会実験。8/4第2回「北上川フェスタ」を実施。

舟運の情景復活 活性化狙う

水辺のまちづくり

江戸時代、北上川でコメ輸送に活躍した小繰船。復元して試験航行された＝「川を知る会」提供

桜の季節には舟下りは多くの人でにぎわう＝山形県鶴岡市の内川、「鶴岡舟番所」提供

←平成29年3月16日　朝日新聞

↑平成30年8月21日　盛岡タイムス

5

盛岡地区かわまちづくり　～舟運復活への取り組み～

平成28年度
- ◆「舟っこの会」設立(H29.2.15)
- ◆盛岡地区かわまちづくり計画第2回変更(H29.3.7)

平成29年度
- ◆水深調査[夕顔瀬橋～明治橋](H29.5.12)
- ◆第1回北上川フェスタ IN MORIOKA開催(H29.6.17)

吉田義昭氏による講演

第1回北上川フェスタ IN MORIOKA

- ◆「舟っこの会」講演会(H29.10.17)
- ◆シンポジウム
  川とまちづくり「盛岡の街と北上川」
  (H29.10.29)
- ◆「舟っこの会」と意見交換(H29.11.21)

シンポジウム（パネルディスカッション）

意見交換の様子

※「舟っ子の会」：正式名称は、「北上川に舟っこを運航する盛岡の会」という。

平成30年度
- ◆盛岡地区かわまちづくり（舟運）実行委員会設立(H30.5.24)
- ◆木造船（2艇）製作
  - ▪「ひめかみ」3.30m(H30.6 完成)
  - ▪「もりおか丸」5.94m(H30.8 完成)
- ◆舟運実現に向けた社会実験等
  - ▪展示(H30.6.2-3)
  - ▪社会実験(H30.6.16)
- ◆第2回北上川フェスタ IN MORIOKA開催(H30.8.4)
  - ▪「もりおか丸進水式」　▪ゴムボート体験学習周遊
- ◆第3回講演会開催(H31.2.15)

実行委員会設立総会

もりおか丸進水式

第3回講演会

令和元年度
- ◆舟運実現に向けた社会実験等　◆北上川フェスタ IN MORIOKA
- ◆講演会開催　◆舟運コース検討　◆起終点（親水護岸整備）箇所検討
- ◆親水護岸の詳細設計

市民団体、国、市で諸課題を解決

令和2年度
- **親水護岸の整備**

※国は船着場としての基盤整備（親水護岸）までで、係留施設は舟運事象の主体が整備することとなる。

親水護岸(上流側)整備候補箇所

- 平成28年度末に舟運を地域の活性化に活かそうと市民団体が立ち上げ。
- 平成30年度からは、舟運の実現に向けてフェスタの継続や社会実験等を地元団体、国、市が実行委員会形式で取り組み、下記の諸課題について検討。

■舟運構想
1）舟運活用方策　2）舟運コース（町歩き）
3）運航する舟のタイプ　4）運航に必要な手続き
■舟運ルート
1）運航可能な区間　2）舟運ルート（航路）
■親水護岸形式　など

6

盛岡地区かわまちづくり　～中津川サケを資源としたまちおこし～

位置図　全14箇所

- 中津川では、宮城県石巻市から約200kmを遡上してくるサケが見られ、盛岡の秋の風物詩となっている。
- 盛岡市民の関心度の高い中津川における取り組みとして、「盛岡地区かわまち勉強会」でサケを観光資源としたまちおこしについて議論。
- ワークショップによる検討を行い、平成29年3月に「もりおか中津川サケ物語」を作成。
- 現在も「盛岡地区かわまちづくり懇談会」や「盛岡地区かわまち勉強会」で議論を継続。

サケを観察する幼稚園児
加賀野馬手堰・中津川

サケのぼり設置状況
上の橋右岸（橋梁下流側）

サケをモチーフにした
遊歩道（市）の防護柵

外国人のツアー見学
（H30.10.14）上の橋・中津川

中津川に遡上してきたサケ

青字：盛岡市設置
赤字：国交省設置

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図（タイル）を複製したものである。
【承認番号　令1東複、第24号】

7

盛岡地区かわまちづくり　～木伏緑地～

木伏緑地のにぎわいと北上川とのふれあい

緑地エリア
盛岡市によるPark-PFI事業により、今年9月にリニューアルオープン。飲食店、広場の整備により、盛岡市民や観光客の憩いの場となっている。

河川エリア
北上川に舟っこを運行する盛岡の会による乗船会等のイベントや、1976年から始まり毎年約600艇以上が参加する北上川ゴムボート川下り大会が行われている。

木伏緑地の沿革

昭和60年　都市緑地として供用開始（A=0.4ha）
平成2年　手づくり郷土賞受賞（国土交通大臣表彰）
平成20年　盛岡地区かわまちづくり事業スタート
平成29年　都市景観賞受賞（盛岡市長表彰）
令和元年　木伏緑地リニューアルオープン
（事業者：ゼロイチキュウ合同会社）

かわまちづくり事業

市町村、地元住民、民間事業者及び河川管理者が連携し、実現性の高い水辺の整備や利用に係る取り組みを行う事業。盛岡市の中心市街地と自然豊かで良好な観光資源である北上川、中津川を結びつけ、盛岡駅から人の流れを生み出し、賑わい創出や観光振興に繋げる取り組みを支援。

Park-PFI（公募設置管理制度）の概要

都市公園において飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する制度。

8

9

河川行政の取組報告④

「北上川5大ダムの最近の話題」

北上川ダム統合管理事務所

所長　斉藤 喜浩 氏

３人目の斉藤です。最後ですのでちょっとだけおつきあいしていただけたらと思います。

今日私がご説明したいのは１点だけです。何かと言いますと今回の台風 19 号では、これまでの説明にもあったとおり全国各地で大きな被害が起こっています。テレビでご覧になられてご心配なところもありますし、例えばダムでいえば異常洪水時防災操作ですが、ここ数年において雨がいっぱい降るようになったものですから、ダムに貯められなくなってからの操作がテレビでも報道され、非常に話題になっています。このため最近は、防災の講習会や町内会の中などで説明してもらいたいといったご要望が多々あり、こういうふうにダムの操作をしているということを是非お伝えしたいです。

もう一つは雨が確かに多くなっているので、そこにどう対応しようとしているのかをご説明出来ればと思っています。

この間、ある講演会で、盛岡地方気象台の方が最近の雨の降り方について講演をされ、やっぱり１時間あたりの雨の量が多くなっており、その発生頻度も全国的に多くなっており、盛岡も同じ傾向だということ。併せて、雨の降らない日も多くなっているそうです。

要は、降る時にはいっぱい降るし、降らない日数も増えてくるということになりますと、雨が降らないと渇水になるわけですし、雨がいっぱい降った時にも何らかのコントロールをして安全を確保しなければならないということ、そういう所はダムの得意分野です。

ただ、ダムは万能ではあるのですが、いっぱい降ってしまうと貯められなくなってしまう。このとき、貯められなくなったから貯めた分をいっぱい流すということは全くしません。貯められなくなったので、上流から来た流入分をそのまま貯めないで下流に流すようになるだけです。

だから上流でいっぱい雨が降っていっぱい水が流れれば、そのまま下流に行くだけになってしまうので、いっぱい降ってしまえば下流の方はやっぱり氾濫してしまうことになるのですが、そういう操作が異常洪水時防災操作になります。

先の台風 19 号は、沿岸の方から早めに太平洋へ出たものですから、内陸には雨があまり降りませんでした。

こちらの資料は１秒当たりにダムに入ってくる量（流入量）を示したもので、当事務所のダムは 50 年、60 年管理していますので、過去の膨大なデータから上位 10 傑を示したものです。

この上位 10 傑をみると最近のデータが多くなってきており、やはり雨が多くなっていることかも知れませんが、１番右の赤い部分が今回の台風 19 号ですが、そんなに流入量は多くありません。幸いにも台風が早く太平洋に出たからということです。

台風 19 号のときダムに入ってきた最大量（最大流入量）は、計画の半分くらい、あるいは３分の１しか入ってきていません。ただそのくらいの雨だったということですが、例えば福島だとか長野のようなことが岩手で起こらないのかといわれれば無いとはいえません。全国各地どこにでも可能性があるので、それに備えていくことが我々の仕事かなと思っています。

それから、四十四田ダムの台風 19 号の時の操作で

す。何をしたかというと、ダムの状態や台風が来ていることは分かっていますので、雨がいっぱい降った時にダムに水を貯められるように、予めダムの水を抜いてダムの水位を低くしておく、そういった操作をどうしたかというと四十四田ダムは県企業局が発電しているダムで、最初に発電の事業者の方に相談して何日か前から発電の放流を含めて放流してもらいました。

そうすると青色の線がダムに入ってくる量（流入量）で、赤色の線が放流している量（放流量）ですが、放流する方が多いからダムの水位は下がっていくことになります。

この下図のダムの水位が下がってきたところに、いよいよ台風が近づいてきて少し前期の降雨もありましたが、そういった中でもう少し貯める量を増やしたいなと思ったものですから、フルで発電していますが、さらにダムの管理所でもゲートを開けて、もう少し多く水を流してダムの水位を下げるため、この赤色の線が予備放流としてさらに放流量を上げ下げしているものです。

それによってダムの水位はどんどん下がっていって洪水の時に貯められる量が多くなるという操作をし、実際の雨が降ってくるタイミングに合わせている状況です。

ここで本来ならもう少しダムから出しても良いのですが、このときは台風が足早に行くのが分かっていましたので、ほぼ台風の動きもどれだけ降るかも見切って、じゃあ全部貯めてしまおうということで貯めるような操作をしました。

こういうふうに、下流の水位が上がらないようにどうすれば可能かということを考えながらやっています。

特に北上川の場合は、奥羽山脈と北上山地の間の内陸部に降った雨が全部そこに集まってきますので、堤防を作れば安全度はあがります。当然堤防も作りますけれど、皆さんご存知のとおり５大ダムといって、北上川はダムで上流の雨を抑えて、あるいは遊水地も使って、貯めながら堤防で守るような治水のやり方をやってきた流域ですので、ダムを５つ持っているからこそ連携操作が可能で、例えば四十四田ダムでいっぱい降ることもある。しかし岩手全域にいっぱい降ることは珍しいことで、どこかで多くてどこかで少ないという濃淡があって、例えば四十四田ダムの方は貯めずに次の雨に備えながら、他のダムではいっぱい貯めるとか連携の操作をしながら安全性を高めるというやり方もしているということです。

当然まちを守るために貯めるのですが、貯めると流木も最近はすごいです。流木を全部抑えそのままにしておくと沈んでしまうので、台風が終わった後にすぐ全部引き揚げます。

こういったものが流れますと下流の橋に詰まってしまう､そういった予防効果もあるということです。

そういった操作を行っている現状で、今後どのように備えていくのかということですが、皆さんも既にご承知かもしれませんけれど、今、四十四田ダムと御所ダムではダム再生事業をやろうとしています。

四十四田ダムは今あるダムの嵩上げを最大２ｍくらいすると、先程言った洪水の時に水を貯める量が20%増くらい上げられますので、そういったハードの面でも頑張ります。

それからもう一点。

異常洪水時防災操作と言われても一般の方には何か良く分からないところもあるので、ちゃんとカメラ画像で見ていただいた方が良いんじゃないかということで「ダムに貯まる量がいっぱいになってしまったら大変なんだよ」とか、目で見て視覚的に分かるだろうということで、マスコミとも今相談して、こういう普段のダムの水位が「ここまであがると大変だ」という、さらにどんどんあがってきて危険に

なりそうなところをそのタイミングで見ていただこうと、このカメラ画像の提供を頑張っていこうということも取り組んでいます。

あるいは、先程あらかじめダムの水位を下げておくという話をしましたけれど実は予備放流というやり方です。予備放流とは、ダムの水位が高いのでその水位を下げるためにやるのですが、あくまでも当初よりダムで考えていた洪水調節の容量の中でやっているのです。

洪水のときに頑張るためには、ダムの水位を下げて洪水の時に貯められるように空き容量を増やすのですが、もう一歩進めようと、事前放流というのを今、利水者の発電だけではなく灌漑用水や工業用水とか水道用水などとも調整中です。例えば台風みたいなものであれば、あらかじめ来るのはわかるので、それに備えて利水分のダム水位も下げてしまおうということです。

一時的にダムの水位を下げることで、後で回復することも見込みますが、更に下げることで洪水をより貯められるようにしてもっと貢献しようといったところを今やっていこうと利水者と協議しています。

何が難しいかというと、今の天気予報は、雨が降るのは大体当たりますが、どれだけ降るかはその都度その都度で予測が難しいですし、どこまで事前にダムの水位を下げられるのか、また下げてしまってから雨が降らなかった時に、農業や水道の水が無くなって困ったりすることもありますので両方をうまく勘案してやっていく必要がありますから、しっかり利水者と協議しながらやっていく、更に国全体でいえば、国交省が持ってない例えば発電専用ダムだったり、農水省が灌漑だけに作っているダムも、事前に下げてもらって治水にも活用してもらうようにしようと、「何とか下流への影響を抑えたい」というそういう動きになっています。

当事務所では、60 年管理しているダムもありますけれど、異常洪水時防災操作を１度もやったことがありません。平成 25 年の時には計画規模よりも大きな雨が来たのですが短時間の雨でしたので結局ダムの容量内に収まったことから、大変な洪水でしたが下流の方に影響せずに済んで、結果的には異常洪水時防災操作までいっていないというところです。

ただいつ起きるか分からないので、そういったものをなるべく早く来年にも使えるように協議して、備えたいと思っているところです。

あと、その他資料を付けていますが、先程の発表の中でも地域活性化というかダムや水辺の話がありましたが、私が今一番思っていることは、ダムだけに人が来てもらっても何にもなりません。地元にお金を落としていただきたいし、ファンになっていただいて更に来ていただくために、やはりまちの観光施設だとか人々とつなげていくことが大事だと思っていて、いろんなことを工夫しながらやっていまして、来訪者が多くなっているところもあります。例えば道の駅で売り上げが上がっているとか結果として出ている所もあり、そのデータは資料に付いていますので後ほど見ていただければと思います。

私からは、ダムが洪水にどう対処しようかというところだけをご紹介して終わろうと思います。

令和元年度
北上川「流域圏」推進交流会議資料

北上川5大ダムの最近の話題

令和元年12月7日

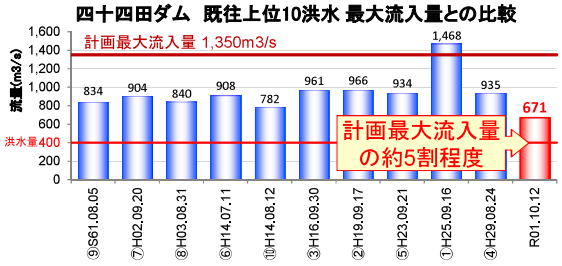
北上川ダム統合管理事務所

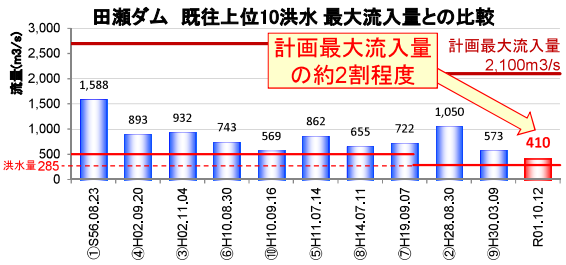
国土交通省

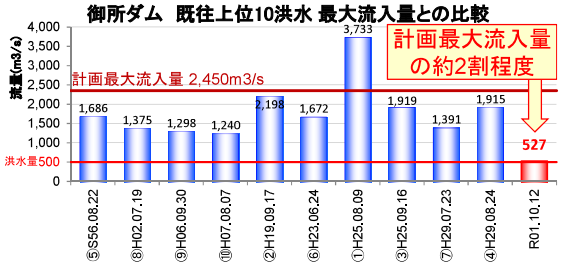
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

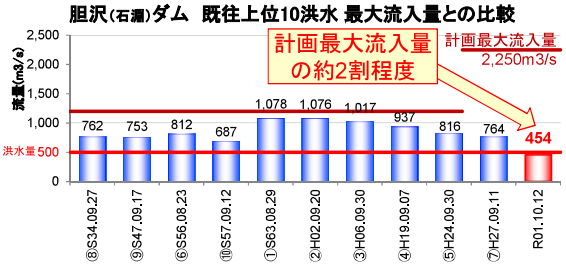
令和元年10月洪水（台風19号）におけるダムへの流入量

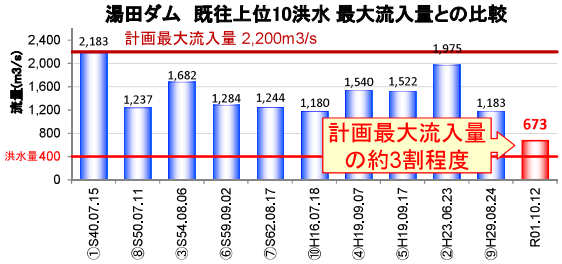
国土交通省 北上川ダム統合管理事務所











1

令和元年10月洪水（台風19号）におけるダムへの貯留量

国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

10月16日時点
速報値

【御所ダム】
流域面積：635km²
総雨量：95.9mm
最大流入量：527m³/s
放流量：467m³/s
貯めた水量：487万m³
（東京ドーム3.9個分）

【湯田ダム】
流域面積：583km²
総雨量：99.6mm
最大流入量：673m³/s
放流量：47m³/s
貯めた水量：2,797万m³
（東京ドーム22.6個分）

【胆沢ダム】
流域面積：185km²
総雨量：155mm
最大流入量：454m³/s
放流量：16m³/s
貯めた水量：1,769万m³
（東京ドーム14.3個分）

【四十四田ダム】
流域面積：1,196km²
総雨量：125.6mm
最大流入量：671m³/s
放流量：112m³/s
貯めた水量：1,807万m³
（東京ドーム14.6個分）

【田瀬ダム】
流域面積：740km²
総雨量：118mm
最大流入量：410m³/s
放流量：33m³/s
貯めた水量：1,897万m³
（東京ドーム15.3個分）

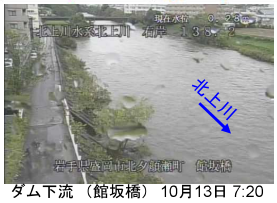
【5ダム合計】
貯留量：8,757万m³
（東京ドーム71個分）

北上川水系　四十四田ダムの効果（令和元年10月12・13日 台風19号）

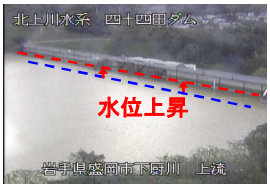
国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

○ 四十四田ダムでは、台風による洪水に備えて、発電事業者の協力による水位低下や予備放流を実施し、洪水期相当の洪水調節容量を確保することにより、ダムに流入する洪水をすべて貯め込むことができた（総量1,807万m3）。

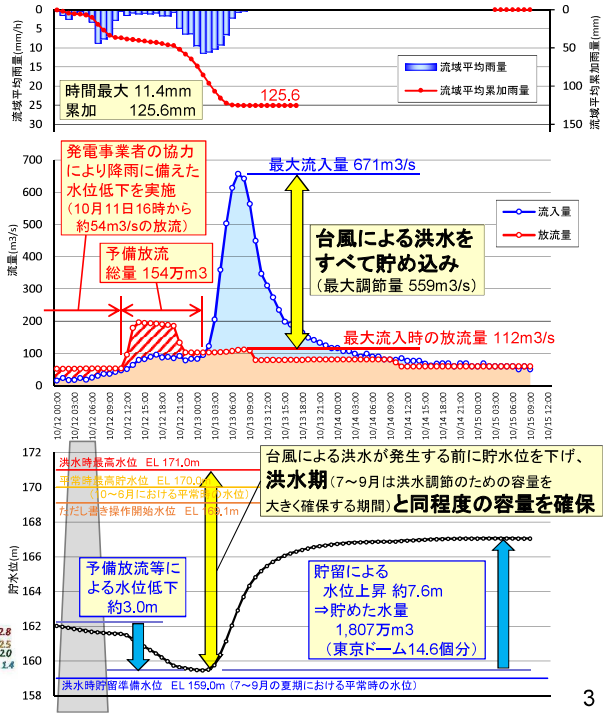
10月12日 16:30
（貯水位EL160.54）



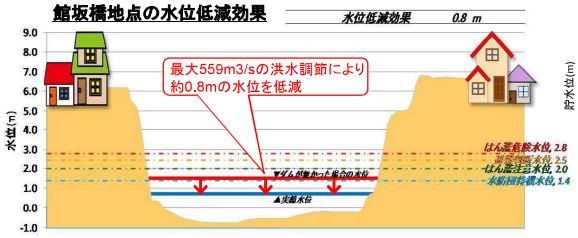
ダム下流（館坂橋） 10月13日 7:20



10月15日 8:30
（貯水位EL167.05）



館坂橋地点の水位低減効果



北上川水系　四十四田ダムの流木捕捉効果（令和元年10月12・13日 台風19号）

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○ 台風19号による出水により、四十四田ダムでは**約510m3**の流木を捕捉した。
○ ダムが無かった場合は、流木がそのまま下流河川へ流れ、橋に引っかかって流下を阻害したり、取水口を閉塞して取水の障害となったりするなどの被害が懸念される。

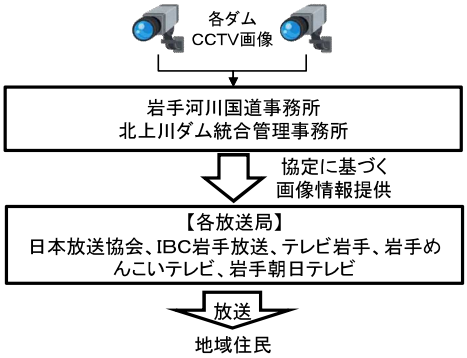
4

ダム貯水池状況の画像情報提供について

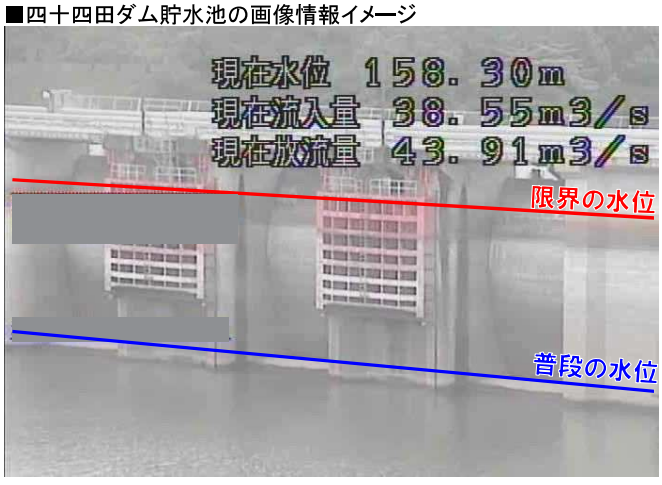
国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○ 国土交通省において管理施設の状況把握のために設置しているCCTVカメラについて、画像情報の提供及び放送に関する協定を各放送局と締結しているところ。
○ ダム下流の住民の迅速な避難のため、貯水池の画像を協定に追加し、各放送局において放送に活用できるように映像を配信中。
○ 7/9に岩手河国主催で「河川関係の画像情報提供に関する説明及び意見交換会」を実施。意見交換の中で、分かりやすい水位表示のあり方（専門用語を使用しない・色分けはシンプルに、など。）について議論を交わした。
○ 北上川上流減災協議会の下で、メディア連携部会を立ち上げ。9/5に第1回会合を開催。

7/9意見交換会の様子。岩手河国の災害対策室でCCTVカメラ映像を見ながら議論を実施。



■四十四田ダム貯水池の画像情報イメージ



（8月23日11時現在の水位158.30m）

5

（参考）予備放流と事前放流

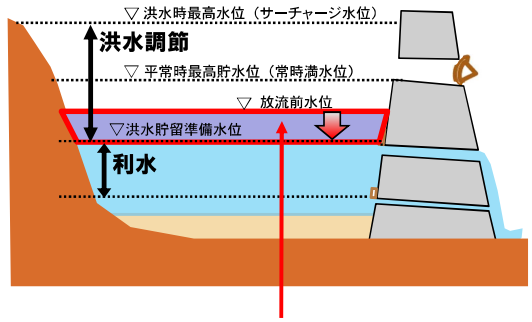
国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

○ 洪水が予測される場合、事前にダムの貯水を放流し、水位を下げる。

【予備放流】

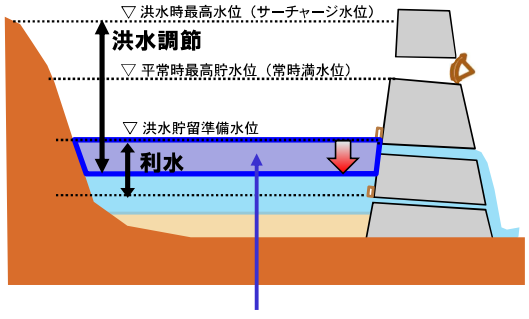
建設時の費用負担に基づき、通常時は利水用途に使い、洪水時は治水用途に義務的に使うこととしている容量から、洪水前に貯留水を放流して水位を低下。

※河川法に基づく操作規則に位置づけている。



【事前放流】

建設段階で河川管理者は費用を負担していないものの、利水者の協力（了解）がある場合に、利水容量の一部を治水用途に使わせてもらい、洪水前にその貯留水を放流して水位を低下。



（注）上図は概略図である

6

田瀬ダム『機械遺産』認定の広報の取り組み

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

① 現地での展示・HPに特設ページ開設

ものしり館でのパネル展

老朽化により交換した建設当時の米国製部品を活用し屋外展示

事務所HP

② 施設カードの作成・配布

2，267枚配布（11/27時点）

③ 地元自治体へ展示依頼

ダム堤体と放流設備の3D模型の展示を花巻市に依頼

花巻市役所で展示

④ 特別見学会を実施

10/24に花巻市民限定の見学会を実施
※一般向けの見学会も4月以降に予定

⑤ 受賞に関する情報提供

記者発表、SNSでの周知、花巻市広報への掲載、業界紙等(6紙)への寄稿

7

田瀬ダム『機械遺産』広報取り組みの効果

国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

① 新聞記事（延べ９回掲載）テレビ番組での紹介

7月26日
岩手日報

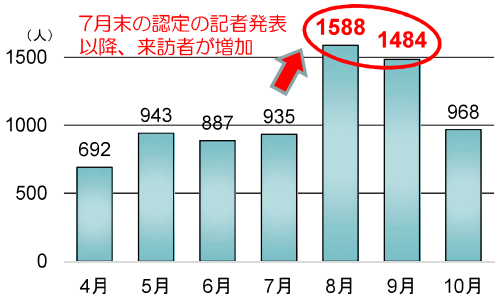
8月11日
岩手日日

11月24日
札幌テレビ

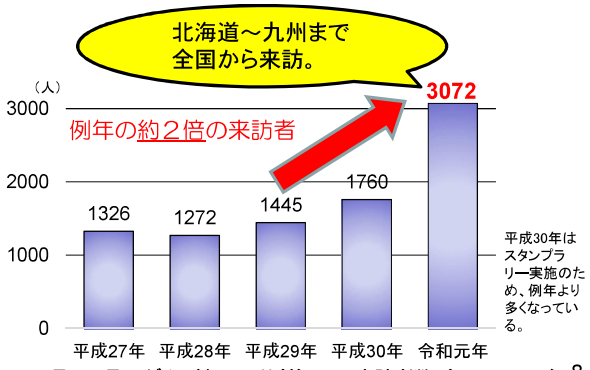
② 特別見学会に市民35名が参加

放流設備やダム堤体を２時間見学

③ ダムへの来訪者が増加



今年のダム（ものしり館）への来訪者数



8月～9月のダム（ものしり館）への来訪者数（H27～R元）

8

湯田ダムの地域活性化が「ジャパン・ツーリズム・アワード」入賞

国土交通省 北上川ダム統合管理事務所

○ 岩手県西和賀町での【湯田ダム（錦秋湖）を活用した地域活性化】の取り組みが、2019年度【ジャパン・ツーリズム・アワード】に入賞しました！

○ 令和元年10月24日には大阪市で表彰式が行われ、受賞者「湯田ダムビジョン推進協議会(会長：西和賀町長)」（西和賀町副町長、北上川ダム統管事務所長）が出席しました。

表彰式 （R元年10月24日）

西和賀町副町長　北統事務所長

湯田ダム（錦秋湖）を活用した取り組み事例

※ ダムカード提示で割引

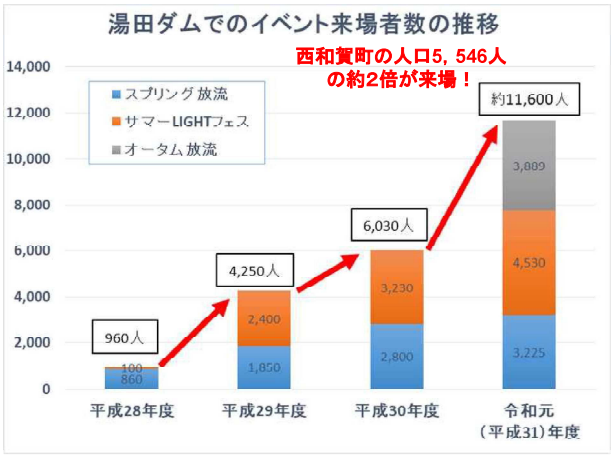
選考ポイント（パンフより）
過疎化と高齢化で人口減少地域にあるダムを観光資源として多面的に魅力化して地域活性化を目論むインフラツーリズム。町内連携施設の割引付きのダムカードの配布枚数は1万2千枚を超え、消費拡大に寄与している。

9

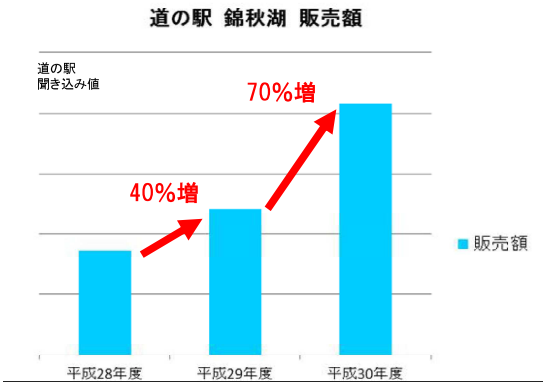
湯田ダム（錦秋湖）を活用した地域活性化の取り組みの効果

国土交通省
北上川ダム統合管理事務所

① ダム（西和賀町）への来訪者が増加



② 道の駅の売り上げが増加



＜宿泊者プラン　特別見学ステージ＞

＜多くの方々を魅了したサマーLIGHTフェス＞

＜西和賀町特産品の臨時販売コーナー＞

10

意 見 交 換

～ 発表・報告を受けて ～

表　彰　式

□ 奨 励 賞

□ 特 別 賞

意見交換
～ 発表・報告を受けて ～

【平山実行委員長】

それでは最後のプログラムです。今日は、北上川流域フォーラム実行副委員長の軍司さん、実行委員会の運営委員会副委員長の内田さんの３人でやりたいと思いますので、よろしくお願いします。

【平山実行委員長】

まず、本日の活動団体の発表ですが、これまでは川の環境や環境調査などが多かったのですが、今回は川の多様な活用の報告がありました。その中で、行政と民間が一緒に活動している姿が非常に目立ちました。確かに純粋なボランティアであのような大がかりな活動をするのは、経営的にも人的にも難しくなっている。どうしても行政の予算と民間の技術や現場の経験等をドッキングさせていかないと、川づくりはうまくいかないという面と、行政も市民と一緒にやるというスタンスが強まってきていると感じました。

一方、瀬川さんの話をお聞きしていると、30 年前、我々もあの様に純粋に市民による自律的な活動に取り組んでいたことを思い出します。新井さんは年を取っても変らないのですが昔は市民のボランティアは市民らしく自律的な活動を行うことを目指しておりました。印象的な２つの例を聞きまして、私たちも官民の連携は大切にしながらも初心を忘れずに頑張らないといけないなと思った次第です。

また、石巻の「街づくりまんぼう」の苅谷さんは震災が起きたときにちょうど東北大学の大学院２年生で、復興のお手伝いで石巻を訪れました。災害からの復興に取り組むうちに石巻の魅力に引き込まれ、地域づくりに専念しながら石巻で現在に至っている方です。瀬川さんは東京ですが、苅谷さんも名古屋の出身です。地元の人がなかなか気づかないものを他の地域の人が見つけてくれる。そういう力は地域にとって本当に大きいなと思います。　我々、地元自体のやる気がなければ、北上川流域の地域社会の発展はないわけですが、やはりいろんな方の連携が必要だとつくづく思ったわけです。

行政からは今年の台風の報告がありました。9 月に台風 15 号があって千葉で大停電があって、19 号、20 号と続きましたが、台風のサイズ、強さが従来に比べて非常に大型化してきたという印象があります。先程、斉藤事務所長の話しにもありましたが、ダムは 24 時間で計画雨量を考えていますが、台風のサイズが大きくて降雨期間も長いということになれば、根本的に外力の想定などを変えていかなければならないのかと思います。

我々国民や県民にとって、どのように対応、改善していければよいのか、そのあたりがなかなか分からない。そのあたりも国で検討されていると思いますので教えていただきたいと思った次第です。

また、岩手の佐近所長、斉藤所長からは、かわ街づくり、ダムの機能について分かりやすく教えていただきました。魅力あるかわを活用した街づくりは明るい話題で、どんどん事業をやっていただくのは大歓迎です。

また、盛岡のすぐ上流に四十四田ダムがありま

が、盛岡を洪水から守る唯一の施設です。これまでダムの機能を発揮して大きな水害もなく盛岡を守ってきたことは本当に素晴らしいことだと思いますが、盛岡の洪水に対する安全度はそれほど高くないことを我々は十分認識しながら、トータルに川と地域の関わりを見ていかなければならないと思っているところです。

それでは最初のご挨拶でご紹介した「川でつなぐ交流促進事業」について、今年の活動内容の報告をまず小山さんにやっていただきたいと思います。会場からもいろいろ意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【小山事務局長】

今年度、来年度と「川でつなぐ交流促進事業」を計画し、事前調査として、国交省のゴムボートをお借りして３艇で川下り調査を行いました。

それについて整理した内容についてご説明します。

日程は資料のとおり（１）から（４）の４回実施し、１回目は８月 24 日、盛岡の南大橋から花巻の花巻南大橋までの 46km の区間。２回目はその翌日、到着地点花巻から北上の展勝地までの 13km。３回目は９月 28 日、展勝地から平泉の高館橋までの 41km。４回目は、北上市立博物館主催事業に連携し、川崎から石巻の脇谷閘門の 43km です。

内容については、初日は、まず集合後に出発式を行い、それぞれ３艇に振り割って下り、昼食をとって夕方４時くらいに到着、夕方に意見交換会という流れです。

２日目は、花巻のフィールドライフクラブで散策をしてから出発。展勝地に着いて昼食を取りながら意見交換。３回目は、展勝地から高館橋下流の平泉船着場まで。この日も同じく出発式をして水沢水辺プラザ学習交流館で昼食、意見交換会を行っています。下って４時くらいに平泉船着き場に到着。夕方交流懇親会を行っています。４回目は、翌日に一関の川崎から石巻の脇谷閘門まで下っています。

これは名簿になりますが、３艇の割り振りと陸部隊で合わせて 20 名くらいの参加。ボートの定員は６人ですが、水位が低いこともあり５名ずつ乗っています。

意見交換会は３回行っています。内容についてはお配りしている資料にも記載していますが、来年度に向けた話、今回体験した感想や気づいたことについてお話をいただきました。

来年度の開催については、一般の方が乗れるように、川だけではなくて周辺の自然歴史や文化なども考えた方が良いなどいろいろあります。また、今回の調査はコースを確認するという意味で、結構長く乗っていましたので、途中の説明とかは乗った５人の中で知っている人が説明している感じになっており、感想として一般の方を乗せるときはガイドが必要ではないかともありました。

９月 10 日に事前調査をしていますが、その時から

雨が降っておらず、かなり水位が低く、途中降りて押した箇所もありました。

また、白鳥館遺跡や水制工など川の遺構があり、そういう箇所の説明もあったら良いとか、下流域はアクセスが難しい所があり、トイレの確保も必要ではないかなど。

川下りとは別ですが、河口清掃の交流は意義が深い、川から陸を見るのは新鮮、川下りは人づくりのプログラムになるなどの意見がありました。

以下､会場の皆さんと情報を共有したいこともあり、写真と動画でご紹介します。

これは朝日橋から９月１日に下見をした時で、３人で花巻まで下った時の状況です。

どこがどうなっているのか確認しました。国交省のボートをお借りしましたので、船の運搬はやっていただきました。この写真が使用したボートです。

懇親会、翌日のフィールドワーク、川下り、花巻に到着した時の様子です。

動画もお見せします。こんな感じで、所々一緒になって話を聞いたりしながら下ってきました。展勝地に入るところ、到着して翌日再度出発、陸部隊の方は写真、所々撮っています。

これはカワウで、鳥のフンで木の葉っぱが真っ白くなっている。カワウが飛んでいる状況です。真っ黒なかなりこういう群をなして飛んでおり、かなりの箇所でありました。一日に何匹も川魚を食べるわけで、かなり魚が少なくなったという話も聞いています。

これは水沢に到着した状況。展勝地での出発、懇親会の一関の様子。

最後に４日目は川崎のインクラインからです。当初は、ゆはず船を使って下る予定でしたが、水位が低いので急遽ゴムボートと和船で下ることになりました。これは、脇谷閘門で、閘門に入る手前の状況で、これが入ったところ。かなり古い施設で文化財になっています。水門の間に入った後上流の水門を閉めて、下流の水門を開けると水位が下がり、船が下流に行けるという構造で、ちょうど下流の水門が開いた状況。すぐ下流の桃生船着き場で下船です。

次に動画です。川は穏やかですが、所々激流っぽい所もあり、こういう所は非常に楽しめます。波に入っていきます。こういうような感じです。

また、このような滝のような所があり、白畑さんに説明していただきながら､所々紹介もありました。展勝地に到着するところです。動画は以上です。

最後に実施に向けた課題。今回の事前調査の目的で

もありました。

まず、今回の川下りを計画にあたって検討した内容を整理しました。

まず実施時期。いつ、河川の水位によってかなり内容も変わるということもあります。

内容、連続でやるのか、周遊みたいにするのか、あるいは地域ごとにするのか、川下りのその内容をどういうパターンにするのかが一番大きいかなと思います。

コース、対象者、体験の内容。川下りだけなのか周辺の地域も入れるのか。

船の種類やスタッフ。船によって免許が必要な場合とゴムボートみたいにスキルが必要な場合いろいろありますので、どういう船を使うか。

あとはガイドがやはり必要ではということもありました。陸とのアクセス。

地域との協力関係で、自治体あるいは活動や新メンバー。そして上下流の連携方法をどうするのか。今回は意見交換、懇親会も入れています。

そこで、来年はどうしたらよいのか、今回の良かった点も踏まえると、市町村を跨いだことによって、それぞれの首長さんや行政にも入って頂けました。懇親会や新しい方や若い方も入って、現場で共有できました。今回の事業名は、「川でつなぐ交流促進事業」ですので、川で地域をつなぐことから、来年も１市町村ではなく、市町村をまたぐ内容にできたらいいのかなと思います。

ただし、今回は下流まで下ることを目標にして挑戦したのですが、なかなかやっぱり長い。盛岡から河口まで 200km ありますので、これをまた来年度通してやるというのはかなりつらいというか厳しい。それについては地域の協力が得られるような場所を、何カ所か、１箇所なのか２箇所なのか、市町村を跨いだコースを設定してやったらどうかと思います。

今回は実行委員会がメーンで行いましたが、再年度については地域の団体が中心となって実行委員会は一緒に入って検討する形もありますし、バックアップを取るような形で、各地域で市町村をつなぐ内容ができたらよいのではないかと思います。

本当におおざっぱな提案ですが、以上です。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございました。本当にご苦労さまでした。

６人乗りボート３艇で出動させたのですが盛岡・石巻間の約 200km のうち 160km くらいを下った。残りの川下りが難しかったという状況です。今回の様なイベントをやるにしても、機材は我々全然持っていませんので、今回も岩手河川国道事務所のご協力をいただきまして、このボートの上げ下ろしの経費から全部含めて支援をいただきながらやっと進めてきたわけです。

各ボートには操縦者とセキュリティの人間を必ず乗せていますけれども、そういう人の人件費等はボランティア的なレベルで我慢していただきご協力をいただきました。気楽に楽しんでいるように見えますけど、なかなか見えない船下りの準備と安全の確保には大変な労力が必要です。

こういうような経験を踏まえて、来年を活動計画

について、先程、小山さんが紹介したことも一つの案だとおもいますが、内田さんは現場の操縦責任者としてで同行しましたので小山さんの言い足りないところや来年の企画についてご指導をよろしくお願いします。

【内田運営委員会副委員長】

はい、操縦責任というか、安全担当責任者をさせていただきました。まず、楽しかった。一緒に下った人は皆さん、ずっと参加して楽しいですよね、やはり川を下るって。ああいう形で行政の方達と下ったというのは、ひょっとしたら 20 年ぶりかと思います。

交流会、石巻どころか東京まで内水面を下ったりしましたが、そんな私としては 20 数年前でそんな経験が今の活動につながっているので、やはりこういうつなぐ活動は大事だと改めて感じました。

その中で、やはり私が一番気になったのは安全面。川の活動は楽しいですが、事故があると、陸上での事故とは比べものにならない大きなものになる。その部分を何とか起きないようにする。そのためには、瀬川瑛子さんも参加してくれましたけれども、川で活動できる人間をやっぱり新しく育てていく、増やしていく必要が地域ごとに必要だと思っています。

そういった動き、そういった意味でも何か自治体との連携、あと川の活動、川を使った産業を始めている中で川の達人とか、川で活動できる人間を育てていくということが、より必要だと思っています。

そういう意味で、対象者、参加者をどうするかとありましたが、今回懐かしみの旅で良かった、面白かったですが、次世代につながる人が参加するような動きが大事じゃないかなと思います。いきなり子供っていうのも、もちろん良いですが、大学生とか子育て中ファミリーということもあるかもしれない。

それをじゃあ、どういった参加の仕方、募集の仕方とか関わってくると思いますが、それぞれの流域の関わる自治体ごとに、そこでのプログラムを作ってやっていってつなぐ。それに対して私たちができることをちゃんとサポートしていく、そういうそれぞれの味を出した方がつなぐ意味が出てくるかなぁと、私が今回下ってみて思ったりしました。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございます。

どんなことを我々が考えているか、少しは理解を深めていただいたかと思いますが、今回参加した若い方がいますので、少し振ってみたいと思います。菊池さん、新井高広さん、どうですか。

【菊池拓巳さん】

岩手流域ネットワーキングの菊池です。僕も今回８月と９月の川下りに参加させていただきまして、もう 40 歳ぐらいになり、まだ若いという感じで見ていただいているんですけども。とりあえず流域連携交流会の昔の活動とかあまりよく知らなくて、最近活動に参加してきて、若い世代が少なくて、今回実際現場で川下りをすることになって、だんだん若い世代の人たちがフォーラムだけじゃなくて、現場で一緒に活動できたフィールドライフクラブとか、そこのつながりが若いときはあまりなかったので、やってみて凄いそれが大きかったかなと感じています。

たぶん昔、連携交流会やっていた方々も、現場で一緒にやって絆が生まれてきたと思いますが、今回やってみてそれが一番凄く感じました。

今回は船外機であっても僕も落っこちたりしまして、さっき内田さんも言ったように、川を下ってみて、もし他の方をお乗せするのであれば、やはり安全面は気をつけなければいけない。あとずっと下って、景色が変わらないとあまり面白みが感じられなかったので、そこもガイドの話の力にあると思いますし、一般の方を呼んで広げていくには、小山さんも言った内容のまとめてきた中にもありますが、そういうところも気にしていかなければいけないかなと思いました。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございます。

新井高広さん。

【新井高広さん】

石巻のひたかみ水の里の新井高広です。

自分の場合は小さい頃から北上川流域を見てきており、小さい頃は別に分かって川に来ているわけではなく、ご存じの方も多いと思いますが、父親に連れられてきて、結構そういうものでも小さい時の思い出として上下流の子供キャンプ、子供達が上流から下流から集めて行ったキャンプとか、結構面白かった思い出がある。今回の川下りは、自分も十数年ぶりで下りました。日程としては１番目の（１）の夜の懇親会からの参加と（２）から（４）まで、花巻から石巻まで下りました。自分が中学の時もカヌーで川下りを知ったので、１週間の川下りやって結構その思い出が出てきたりとか面白かったです。

皆様、年配の方、若い方、うちの父親がもう 79 歳になるので体力的には落ちてきていますが、やっぱり思いは皆さん同じところあると思います。自分もやっぱりこの上下流の流域連携もそうですし、水辺の賑わいの場を作るとかいろいろな人に知ってもらいたいし、仲間になってほしいなと思っています。

来年そういう風にやるのも、今回発表してもらいました瀬川さんとか苅谷さんとかね、県外からそこに住まわれてやったというかやってくれているところもあり、結構関東圏の方にも川下りがあるんですよーって言ったら、参加したい、是非誘ってくれと。自分よりも年上の方ですけれど若い方です。

こうした遠方で川の活動をやっている方が興味を示してくれる方がいるので、うまく引き込んでやるのもまた一つなのかなと思います。そういう方がある程度経験者とかある程度の予備知識があり、分かっているから参加しやすい、入りやすいのかなと思いました。

後は皆さん言っているように、来年度どういう風

にするかを今後話していただければと思います。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございます。

今日は会場からもご意見出していただいて、事務局で最終的な検討して方向を決めたいと思いますが、会場の皆さん何か、来年も川下り続けたいと思いますが、先程の提案のようなご意見ございませんでしょうか。

是非遠慮なく、言いっぱなしで結構ですので、どうぞご意見ございましたら話していただいたらと思います。

【新井偉夫さん】

発表の方に質問があるので。

【平山実行委員長】

それは後で､宜しいですか。 それでは佐近所長、お願いします。

【佐近所長】

私も何日か参加させていただきましたが、非常に久しぶりに舟に乗って楽しかったなと思います。なかなか一気通貫で下っていくのは非常に難しいですので、先程お話しいただいたようにうちの船を活用していただいたということで、かなりの苦労の部分を軽減できたのかなと思いました。

ただ、一方で今後実現化していくためにはある程度の実現の可能性をしっかり追い求めていく必要があるかなと思いますし、これだけ課題が沢山ある中で比較的簡単に解決できる問題もあれば、ちょっと簡単に解決できない問題もあると感じましたので、船に乗っている時にちょっとお話ししたのですが、まず、区間ごとに、地域ごとに可能性の高いところから順番にやっていくことが重要だと思います。

そういった人材がそろっているとか、比較的船の出し入れがしやすいとか、そういった可能性の高そうな所から確保していただいて、実験的にしっかりやっていただいて、今回のような一気通貫のものを何年かに１回くらいまたやっていただいて良いんじゃないかなという感じがします。

例えば､盛岡市ではゴムボート下り大会ですとか、一関の方ではＥボート大会とか様々なイベントをやっていますし、そういうノウハウがたくさんあるところもあれば比較的そういったイベントの少ない市町村もありますので、その辺りを考えながらできそうなところで是非ちょっと抽出していただいたらどうかなと思います。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございました。

来年やるとすれば、やはり地域地域の自治体というものが大きな役割になってしまうかと思いますが、今日は奥州市、北上市、盛岡市の方がお見えになっていますが、何かご意見ございませんか。

【奥州市 小山課長補佐】

奥州市ですが、先程来からのお話を聞いていて、私どものほうでもやはり北上川の部分でいいますと、私の記憶では 15，6 年位前かと思いますが、当時は川下りというイベントを盛んにやっておりました。

その際にはＥボート、ゴムボート等を準備して盛んにやっていたものが、最近めっきりなくなったな

と、いうところから、今回私がアップしていただいたダムの活用と合わせて川連携、ダム連携そういった部分を広く連携をしながら進めていければと感じているところです。

【平山実行委員長】

また来年もお世話になるかもしれませんが、その節はよろしくお願いします。他に何か、ちょっと時間もありませんが、もしなければ先程の新井さんの発言がありますので、そのとおりに回りたいと思います。

新井さんの発言が終わったら井山さんと北川さんに全般的な印象をお話いただいて軍司さんが締めて終わりにしたいと思います。時間が 10 分ぐらい増えるかと思いますが、よろしくお願いします。

それでは新井さんどうぞ。

【新井偉夫さん】

平山さん、さっきの発表の中でね、岩手県の方は船付き場を川沿いに造るとか、それから和船、木造の船も、どこの予算で作ったのか、作る気なのか、そういう状況が、実は宮城県の下流の方はそういう船付き場とか船とかというのをまだ話が出ていない。

だから岩手県は結構そういう話はあるんだけども、宮城はない。

それからもう一つはね、５大ダム。ダムの嵩上げが話の中で出たようだけれども川に貯まっている砂。それを取る話は５大ダムの説明の中にはなかった。ダムには砂は貯まってないのかどうか。堤防の嵩上げで同じようなことを考えて、川の浅瀬の浚渫のことは、一言も国や県から話はなかったなと。その辺、分かるのであればお聞かせ願いたい。

【平山実行委員長】

２年前、石巻でかわまちづくりのシンポジウムを行いました。石巻の河口部は今年すごいいろんな事業が入って、中洲の対岸も凄くよくやったなと私は思いました。

北上川の上流部もゆっくりですが進んでいると、私の印象はそうですけど。

和船のお話が出ましたので、阿部さんかどなたか、和船の建造についてお話し下さい。

【阿部 優さん】

北上川に船っこを運航する盛岡の会の阿部です。

和船、うちらの方で、一昨年作ることができましたが、それは市民の方などから寄付をいただきまして 200 万円くらい集まりまして、その中で陸前高田の船大工さんにお願いして作っています。

ただ、流すとなれば問題は先程お話にあったとおり、川に石や岩礁がいっぱいある。これは中々大変だなと思っています。いろいろ協力していただいています。

【平山実行委員長】

紫波でもごんべえ丸という和船を自分達で作って

います。

古舘さんいません？　帰った？

350 万円の寄付ですか。（会場から）

【平山実行委員長】

それでは、やはり今回の調査でも新井さんがご指摘なさったように水辺プラザに砂もたまったり、あるいは河床が低下して上陸できなかったりなど船着場の使い勝手が悪くなっている所が、所々ありましたけども､砂をいじるのは大変難しいと思いますが、舟運対応の航路の浚渫ということは難しいんでしょうか、調査船のゆはずの運航もできない区間があるようで河川管理上も何か手立てが必要なのかなと思ったところです。

【斉藤所長】

ダムの所長です。

やはり河川、ダムには、土砂がどうしても付き物で、たまるところもあれば削れるところもある。それをコントロールできるのかというと、なかなかやっぱり難しいです。

ただ、さっきの洪水安全みたいな話の部分では、ダムに当然たまれば機能が落ちてしまってその機能を維持するために掘削して他のところに持っていって対応することもやりますし、河川もいっぱいたまってしまったり、樹木がいっぱいなったりすると流れづらくなりますので、そういった所を掘削する、現在、緊急三ヵ年事業で進めていますが、それだけで終わっては大変なので目標をしっかり持って、それ以降もしっかり管理をして機能をさせていく。また皆さんご心配なところがあれば、ご相談いただいて我々も確認した上で、優先順位をつけながらやっていくことになると思います。

意見交換

それから船のところは、なかなか人間がすべてをコントロールしきれないというところもありますが、どのように上流から土砂の供給があって下流に行くか、流砂系の調査をしてみたり、そういうメカニズム的な検討などもしてはいますが、局所局所をどうしていくのかというのはなかなか難しいことがあると思います。

ただそこは、こういう風に船の利用とうまくマッチさせていくとか、当然われわれも大事な部分だと思っていますので、一緒に研究したり、相談させて頂ければと思います。

【佐近所長】

昨年、平成 30 年に西日本豪雨がございまして、その関係で緊急的な予算で三ヵ年分だけですが、今斎藤所長からいただいたように河道掘削の予算をいただきました。

当事務所も、現在昨年度の予算で頂き、実際は今年から工事をして、今回の川下りの中で河道掘削をしている現場を何箇所か見ることができました。

河道掘削や樹木伐採ですが、これは基本的には治水のためにやっていますので舟運のためではありません。そこはちょっとなかなか難しいところで、例えば今年、来年でも良いですが、舟運のための河道掘削をやることができるかもしれません。

ただ、舟運に絡むような船を通せるような河道の浚渫というのは、結構根気よくやらなければいけません。

実は河口の港で掘削をやっているところがたくさん見られます。それはほぼ毎年大量の土砂を取っています。

もし舟運のためにやるとすると、予算要求をしますがなかなか舟運のためとなりますと、ほぼお金がつかないのが実態で、今回のように治水のための予算ですと、ああいう風に全国的に大きな災害があれば特別な臨時の予算をつけていただくという状況になっていますので、例えばここは非常に舟運が盛ん

で、ここをやらないとどうしても観光業が成り立たないとなれば、もしかすれば維持管理費で少しつけてもらえるかもしれません。現時点で欲しいといっても東京の財務省ではなかなかつけてくれないのが実態です。

【平山実行委員長】

はい、大変ご丁寧な説明ありがとうございました。

それでは時間が過ぎてしまいましたので井山さん。短くお願い致します。その前に白畑さんから発言があります。

【白畑誠一さん】

できるだけ喋らないようにしていましたが、実は今日 NHK の報道でブラタモリ。あの河床下げているところがあるのですけれど、そこの映像と、豊沢川と北上川の映像。宮沢賢治に絡めて、今日放映される。酒飲んでる場合じゃない（笑）

あと、和船６人乗り、立派なやつですがもしほしい方があったらお譲りします。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございます。

それでは本当に慌ただしくて申し訳ありませんが、井山さん、一言お願いします。

【井山 聡さん】

元胆沢ダムの井山です。本当 20 数年前を思い出します。

舟運調査で川を下っていたのは本当に楽しくて、貞山運河くらいまで行かせてもらったことがあります。

あの頃はまさに活動の萌芽期から成長期なので、楽しいからやっている感じだったと思います。

あれから 20 数年たって、ひととおりやって流域にある程度の種まきがされ、先程最初にあった発表の中で新井さんの活動だとか、今発言された白畑さんのところの活動だとか、あるいは内田さんのところだとか、着実に持続性を持って地元に根付いてやっておられる一連の積み立てのできたような川の活動もありますし、そうじゃなくて立ち上がりで途絶えてしまっているものなど、この見えない部分も含めまして、この 20 数年の間一定の役割を流域連携交流会、今は流域圏と言っていますが、果たしてきた、その再編成や再構築、そういうものを目指されているかと思います。

だから「川でつなぐ交流促進事業」もあまり一気通貫で舟運みたいなものをイメージされるよりは、むしろ今日いくつか地域地域の発表がありましたので、地道な地元の力を活かした地元の特徴を前面に出して、それで少しずつ活動を持続させていくものをつないでいく、地域地域で担い手がおって、それをつないだ結果として上流から下流までが繋がっていくといった活動に持っていければいいと思うので、あまり最初から全体を抱え込んでやろうと思わないで、むしろ地域地域の活動の芽の出具合なり、今日沿川の方々とも交流された自治体の方ともやりとりがあったというお話がありましたが、そういう中で地域地域の活動の発掘、あるいは支援みたいなもの

につなげていって、それで結果として全体が繋がるような川下りが実現する流れに持っていけないかな

というイメージを今日の会議全体を通じて感じたところなので、引き続き皆さんと一緒に微力ながら私も加わりながらやっていきたいと思います。

【平山実行委員長】

はい、ありがとうございます。

北川さんお願いします。

【北川 明さん】

皆さんの熱心な報告を聞きまして、私も新たな気持ちになったと思います。

あのかわまちづくり、石巻、盛岡。あれだけ進んでおり、非常に心強く思っています。確かに盛岡の顔、石巻の顔だと思いますが、北上川の顔にもなりうる、と思っていますので、展勝地も含めて、展勝地は首都圏とか春になると三大東北桜名勝地と貼り出されます。角館と弘前と展勝地。そういう風に是非、石巻も盛岡もなって欲しいと思っています。

そのためにはどうしたらいいだろうか。たぶん展勝地が始まった頃は地域の人たち、やる気になって何かそういう盛り上がってかどうかは知りませが、気持ちが一体となったと思います。

是非、盛岡も石巻も首都圏なり、それからインバウンドを含めてどうやっていい体験ができるかを考えてもらって、是非新たな北上川の顔を作っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

それからいろいろ事業的な川下りとかの他に、たぶん知識だけの交流も非常に重要なのかなと思っています。

例えば、今日は新井さんからこの北上水門の資料をいただきましたが、たぶん南部藩だってものすごく北上水門の恩恵を被っているはず。ということは、岩手の子供たちも勉強しなければならない話。岩手のそういう北上川の他の地域を理解することによって、自分たちのところもわかる、それが多分自分たちの誇りにつながる、そういう知識の交流会というのは中々難しいかもしれませんが、是非これから必要になると思いました。

【平山実行委員長】

はい、激励、ありがとうございました。

それでは時間も過ぎていますので、意見交換はこれで終わることにします。

最後に軍司さんから。

【軍司実行副委員長】

私自身、積極的に川に入るということは、ほとんどありませんが、点と点をつなげていくことは確かに大事なことだと思います。

些細なことでもいいので、地元に帰って自分のできる範囲で楽しみながら活動することです。いろいろな活動が流域のなかで行われているかと思いますが、それらが何かのきっかけで、ネットワークでつながり、例えば地場産品とのコラボなどによって、さらに地域が活性化して行く。投げられた石は一つかもしれませんが、次々と輪が連鎖していくことで、気が付くと大きな輪が出来ているかもしれません。先ずは小さくてもいいので、石を投げて見て下さい。

【平山実行委員長】

皆さんご協力ありがとうございました。

これで終了します。

表　彰　式

流域活動発表をいただいた６団体の中から、選考委員４名（行政２名、実行委員２名）により、参加者からの推薦も参考に、奨励賞１団体、特別賞２団体を選考し、副賞として展勝地レストハウス提供の北上川流域の物産を進呈しました。

■　受賞団体

① 奨励賞

「私は如何にしてお金の心配をするのをやめて西和賀を愛するようになったか」

ネビラキ　瀬川 瑛子 氏

② 特別賞

「故郷の川を愛する子どもの育成をめざして～自然体験の中から学ぶこと」

石巻市立湊小学校

校長　坂本 忠厚 氏

③ 特別賞

「石巻市・旧北上川における『かわまちづくり』の展望」

(株)街づくりまんぼう

課長　苅谷 智大 氏

【中村 選考委員】

皆さん大変ご苦労さまでした。

表彰にあたりまして、選考結果を発表いたします。

まずは、発表されました６団体の皆様、大変お疲れさまでした。また、日頃からのご活動に感謝を申し上げたいと思います。

皆さん、発表をお聞きになってわかったかと思いますが、非常に多岐の分野に渡っておりまして、自然体験あるいは人材教育であったり、広域観光開発的な話題もありましたし、自分の人生経験から富の再配分といった形で、自然体験活動につなげている方もいらっしゃいましたし、かわまちづくりと地域計画との連携した活動報告もありました。

非常に多岐に渡っておりまして、選定にたいへん苦労しました。選定は優劣をつけるわけではなく、皆さんを応援できればという趣旨で選定させていただきました。

また、皆さんからもご意見や推薦投票をしていただきましたが、おもしろかったのは、丸を２つ付けて下さいと言ったのですが、全部に丸が付けている方もいらっしゃいまして、まさにそういうことだと思います。どれも落ちて良いのはなくて賞を皆さんに差し上げていただきたいというところでしたが、例年３賞ということになっていますので、あえて選考させていただきました。

なかなか時間も押していますので、講評は皆さんのお聞きになった中にあると思いますので結果を発表させていただきます。

今後のますますのご活躍と、今後の展開と期待を込めまして表彰を終わらせていただきます。

■　選考委員

東北地方整備局　河川環境課長	齋藤　茂則
岩手県県土整備部河川課 総括課長	幸野　聖一
実行委員会　運営委員長	中村　　巌
実行委員会　委員	柏　眞喜子

令和元年度 北上川『流域圏』推進交流会議　流域活動発表について

６つの団体に発表をいただきますので、発表団体の中から、流域圏活動の参考となるもの、一押しのところ、何かを感じたところなど、いいなと思う団体を２団体選んでいただきたいと思います。

この選考は優劣を決めるものでは全くありません。選考委員（国１名、県１名、実行委員２名の計４名）により奨励賞、特別賞を選考するための参考とするものです。

全国「いい川・いい川づくりワークショップ」では、川の「タカラモノ」に光を当て、「“いい川”“いい川づくり”とは何か」を全国から集まった団体のグランプリ選考の過程で議論していますが、その視点、評価のポイントを参考まで記載します。

○ **発想・着眼評価** → “いい川”をめざすための斬新な発想や着眼、的確な視点についての評価

○ **関わり評価** → 地域住民と川との豊かで良好な関わり合いについての評価

○ **プロセス評価** → “いい川”を育むための市民・住民参加や、さまざまな分野の人たちとの協働のプロセスについての評価

○ **計画・技術評価** → 川らしさの保全や“いい川”回復のために工夫された計画手法や施工技術等についての評価や“いい川”を実現した技術に対しての評価

限られた時間の中での発表となりますが、工夫を凝らし点、発表者の想いを感じ取っていただければと思います。

そして発表、意見交換、参加者との交流を通じて、新たな発見や取組へのエネルギーを感じていただければ幸いです。

No	発表テーマ　発表者	推 薦
①	「故郷の川を愛する子どもの育成を目指して～自然体験の中から学ぶこと」　石巻市立湊小学校　校長　坂本 忠厚 氏	
②	「胆沢ダムを活用した広域による体験型観光の推進」 奥州市商工観光部商業観光課　課長補佐　小山 和彦 氏	
③	「サマーチャレンジ奥州 2019　つぶ沼キャンプ場カヌー体験」 (公社)水沢青年会議所　副理事長　浅利 祐輔 氏	
④	「私は如何にしてお金の心配をするのをやめて西和賀を愛するようになったか」　ネビラキ　瀬川 瑛子 氏	
⑤	「石巻市・旧北上川における『かわまちづくり』の展望」 (株)街づくりまんぼう　課長　苅谷 智大 氏	
⑥	「木伏緑地整備と今後について」 盛岡市都市整備部公園みどり課　課長　森　勝利 氏	

参 考 資 料

□ 実行委員会規約

□ 実行委員会名簿

「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会規約

（名　称）

第１条　本会は、「北上川『流域圏』フォーラム」実行委員会（以下「実行委員会」）と称する。

（目　的）

第２条　実行委員会は「北上川『流域圏』フォーラム」を成功裡に実施し、その成果を実現するために流域圏マネジメント構想の試行を推進することを目的とする。

（事　業）

第３条　実行委員会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（１）基調講演、活動事例発表、パネルディスカッション、新たな形の提案、北上川宣言の企画運営

（２）流域交流調査の企画運営

（３）北上川視察船の企画実施

（４）北上川流域内の河川関係活動情報の収集・発信

（５）北上川「流域圏」推進交流会議（仮称）の開催

（６）その他「流域圏」推進に関わる取組の検討

（７）その他大会の企画運営に関わる事項

（委　員）

第４条　委員は関係河川管理者、地方公共団体、NPO 及び河川をフィールドとして活動し、当大会に参加する諸団体ならびに流域貢献をすすめる企業、関連団体等をもって組織する。

（１）実行委員長を置く。実行委員長は平山健一をあてる。

（２）副実行委員長を置く。副実行委員長は軽石昇、武山文衛及び軍司俊道をあてる。実行委員長に事故ある時は、副実行委員長がその職務を代行する。

（３）実行委員会に監事を置く。監事は実行委員長が指名する。

（４）実行委員会に運営委員を置く。運営委員長及び副運営委員長は実行委員長が指名する。

（５）実行委員会に事務局を置く。事務局長は実行委員長が指名する。

（監　事）

第５条　実行委員会に監事を置き、会計処理を監査する。

（委員会）

第６条　実行委員長は、実行委員会を招集し、その議長となる。

（１）実行委員会は次の事項を審議決定する。

①　事業計画や予算・決算に関すること。

②　その他重要な事項に関すること。

（２）実行委員会の議事は、出席者の過半数により決する。同数の時は議長がこれを決する。

（運営委員会）

第７条　運営委員会は下記の事項を協議・執行する。

（１）実行委員会に付議すべき事項。

（２）実行委員会の議決を要しない会務の執行に関する事項。

（３）実行委員会で決議した事項の執行に関する事項。

（４）その他実行委員会で必要と認めた事項。

（事務局）

第８条　実行委員会事務局は、「(株)展勝地内」に置く。

（会　計）

第９条　実行委員会の経費は次をもってあてる。

（１）参加費

（２）助成金

（３）寄付金、その他の収入

２．実行委員会の会計は、毎年４月１日～３月 31 日までを１会計年度とする。

（解　散）

第 10 条　実行委員会は、本会の目的を達成もしくは中止する事を決議した場合に解散する。

（雑　則）

第 11 条　この規約に定めるもののほか、実行委員会の運営に必要な事項は、委員長が実行委員会に諮って定める。

附　則

１．本規約は、平成 27 年７月１日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

２．本規約は、平成 28 年４月 27 日の第１回実行委員会の議決を持って施行する。

北上川「流域圏」フォーラム

令和元年度 実行委員会名簿

実行委員

	氏 名	団 体 名	役 職
委員長	平山 健一	北上川リバーカルチャーアソシエーション	会 長
副委員長	軽石 昇	ガイア展勝の会	会 長
副委員長	武山 文衛	NPO法人りあすの森	顧 問
副委員長	軍司 俊道	NPO法人北上川流域連携交流会	代表理事
委 員	白石 定利	水と緑の環境フォーラム・ものう	会 長
委 員	柏 眞喜子	をんな川会議	事務局長
委 員	白畑 誠一	北上川フィールドライフクラブ	代 表
委 員	内田 尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	代表理事
委 員	古舘 雅晴	川を知る会	事務局長
委 員	村井 軍一	北上川に舟っこを運航する盛岡の会	会 長
委 員	吉田 達男	NPO法人北上川サポート協会	理事長
委 員	新井 偉夫	NPO法人ひたかみ水の里	代 表
委 員	佐近 裕之	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所	所 長
委 員	佐藤 伸吾	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所	所 長
委 員	斉藤 喜浩	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所	所 長
委 員	幸野 聖一	岩手県県土整備部河川課	総括課長
委 員	大宮 敦	宮城県土木部河川課	課 長
監 査	若林 治男	宮城建設株式会社	取締役副社長

運営委員

	氏 名	団 体 名	役 職
委員長	中村 巖	NPO法人北上川流域連携交流会	
副委員長	内田 尚宏	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	代表理事
委 員	菅原 惠子	NPO法人奥州・いわてNPOネット	理事長
委 員	佐藤 富美子	特定非営利活動法人ゆう・もあ・ねっと	代 表
委 員	齋藤 一公	NPO法人北上川流域連携交流会	事務局長
委 員	塚原 俊也	くりこま高原自然学校	校 長
委 員	金野 和則	NPO法人北上川サポート協会	事務局長
委 員	石村 靖	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	課 長
委 員	八重樫 博男	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所工務第一課	建設専門官
委 員	佐々木 秀一	国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所調査第一課	専門調査員
委 員	齊藤 勝博	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査課	課 長
委 員	大越 育美	国土交通省東北地方整備局 北上川下流河川事務所調査課	専門員
委 員	大菅 貴広	国土交通省東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所調査課	課 長
委 員	野崎 弥	岩手県県土整備部河川課	河川海岸担当課長
委 員	長谷川 清人	宮城県土木部河川課	技術副参事兼 課長補佐（総括担当）
事務局長	小山 隆春	NPO法人北上川流域連携交流会	理 事
事務局	和賀 匡彦	ガイア展勝の会	
事務局	佐井 守	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	
事務局	菊池 拓巳	一般社団法人いわて流域ネットワーキング	

協 賛 企 業

株式会社 佐藤組

代表取締役　佐藤正昭

本　　社 ／ 〒024-0051 北上市相去町旧舘沢 20 番地 1
TEL(0197)67-5555　FAX(0197)67-5564(代)
気仙営業所 ／ 〒029-2203 陸前高田市竹駒町字相川 90 番 6
TEL(0192)47-3420　FAX(0192)47-3421

自然・環境・人にやさしく

ビル総合管理・警備保障

北上ビルメン株式会社

本　社／北上市幸町 2-5　TEL0197-64-3347（代）　FAX0197-63-6114
営業所／盛岡・花巻・一関・宮古・大船渡・仙台

美しい水を守る

浄化槽維持管理・浄化槽清掃・浄化槽設備工事

みちのく環境衛生 有限会社

北上市和賀町岩崎 26-24　TEL. 0197-73-5602　FAX. 0197-73-5899

odashimagumi

ぶれずに とことん 生涯、建設。

株式会社小田島組

代表取締役社長　小田島 直 樹

道の駅 平泉

自然にやさしい、人にやさしい

千田工業株式会社

【特定建設業・一級建築設計事務所・宅地建物取引業】

代表取締役社長　千田 和秋

本社：岩手県北上市九年橋一丁目10番29号
TEL：0197－63－3207
ホームページ：https://www.chidatec.com

毎日営業中！ホテルランチ食べ放題
LUNCHVIKING
ランチバイキング
11:30～14:00
¥1,200

ホテルシティプラザ北上

ご婚礼、各種ご宴会、ご会食 ご予約・お問い合わせ

☎0197(64)0001 代表
〒024-0032 岩手県北上市川岸 1-14-1
https://cityplaza.co.jp

DO!PLANNING

ホームページデザイン
ペーパーデザイン
グラフィックデザイン
ロゴデザイン

企画制作
運営管理
パンフレット チラシ
ポスター
メニュー
会社案内
各種販促
企画 デザイン

アイデアとデザインで、
あなたの思いを伝えます

株式会社 ドゥ・プランニング
〒024-0084 岩手県北上市 さくら通り3-18-2
Tel. 0197-62-7520 / Fax.0197-62-7522
詳しくは ▶ https://do-planning.jp/

Iwate Construction Industrial Corporation

ISO 9001 認証

代表取締役　八重樫　博　之

岩手建設工業株式会社

〒024-0012　岩手県北上市常盤台二丁目 9-4
TEL(0197)65-1616　FAX(0197)65-1617

感動を人に、潤いを地球に。

お客様が求める製品と地球環境保全。
川嶋印刷は先進の印刷技術で
常に両立を実践します。

川嶋印刷株式会社

本社工場　岩手県平泉町佐野原21 TEL 0191(46)4161 FAX(46)4165
営業所／盛岡 花北 北上 水沢 三陸 鹿角 仙台 東京

水と地盤のプロ集団

旭ボーリング株式会社

代表取締役　髙橋　和幸

本社　〒024-0056　岩手県北上市鬼柳町都鳥 186-1
TEL 0197-67-3121　FAX 0197-67-3143

旭ボ　検索

油圧ショベル・ホイールローダー・各種車両
整備・販売・レンタル

株式会社 キヤナギ重機

代表取締役　鬼柳賢也

〒024-0063　岩手県北上市鬼柳町宿151
TEL　0197－67－5233　FAX　0197－67－5216

KITAKAMI CITY KOKUEKI KENCHIKU

ありがとうございます。おかげさまで創業60周年

KOKUEKI

有限会社 国益建築

〒024-0043　北上市立花10-21　TEL0197-64-3396 FAX0197-64-3390
E-mail:kokueki@fancy.ocn.ne.jp

東北公営企業(株)

本社/〒020-0052 盛岡市中太田屋敷田103-3
tel(019)659-3088 fax(019)659-3047

ISO9001:2015 ISO14001:2015
JQA-QMA10812 JQA-EM7297
下水処理施設運転管理・維持の設計及び実施

アベヤス

●文具・事務用品・オフィス家具の販売
●ＯＡ機器・通信機器・ソフトウェアの販売、保守並びに消耗品の販売等
●システム構築、ＬＡＮ／ＷＡＮネットワーク構築及び施工等
●測量機器・製図機器の販売及び保守等

〒024-0094　岩手県北上市本通り３－３－９
TEL：０１９７－６３－５２０１　　FAX：０１９７－６３－５７７８
http://www.abeyasu.co.jp/

～里山にある古くて新しい工務店～
株式会社 小菅工務店

代表取締役 小菅 誠

〒０２４－００４４
岩手県北上市平沢１２－３４
ＴＥＬ:０１９７－６４－３７６９
ＦＡＸ:０１９７－６５－０６３０
http://kosuga.biz/index.html

夢いっぱいの住みよい未来を創造します

小田島建設株式会社

〒024-0032　岩手県北上市和賀町豎川目 8-119
電　話（0197）７２－２０１１
ＦＡＸ（0197）７２－２１９７
e-mail:eigyou@odaken.co.jp

それは 未来へ残す ものづくり

特定建設業　ISO9001 認証企業

株式会社 小原建設

代表取締役　小原志朗

本　　社／北上市村崎野15地割312番地8
☎0197(66)3125・FAX(66)5438
西和賀営業所／和賀郡西和賀町清水ケ野18-3-7
☎0197(84)2142

壊すけど創る

株式会社スパット北上

一緒に元気に創ろう住みよい街

まるっとセンターむらさきの（本社）・まるっとセンターいなせ・まるっとセンターごとうの

スパット北上　検索

株式会社 北日本環境保全

○産業廃棄物処理
○計量証明事業
○廃棄物リサイクル事業

岩手県北上市常盤台四丁目 11 番 116 号
TEL 0197-65-3166　FAX　64-5533
info@kitakan.jp

私達は
北上川流域の活動を
応援します

みちのく民俗村指定管理者

みちのく民俗村
MICHINOKU FOLKLORE VILLAGE

展勝地レストハウス

岩手県北上市立花14-21-1
TEL0197(64)2110　FAX0197(64)2210
営業時間AM10:00～PM5:00　定休日/月曜日

令和元年度

北上川『流域圏』推進交流会議　報告書

北上川「流域圏」フォーラム実行委員会（構成機関）

北上川リバーカルチャーアソシエーション、NPO 法人北上川流域連携交流会、ガイア展勝の会、
㈠社)いわて流域ネットワーキング、をんな川会議、川を知る会、北上川に舟っこを運航する盛岡の会、
北上川フィールドライフクラブ、NPO 法人奥州・いわてNPO ネット、NPO 法人北上川サポート協会、
水と緑の環境フォーラム・ものう、くりこま高原自然学校、NPO 法人りあすの森、NPO 法人ひたかみ水の里、
国土交通省東北地方整備局 岩手河川国道事務所・北上川下流河川事務所・北上川ダム統合管理事務所、
岩手県、宮城県

事務局：㈱展勝地　みちのく民俗村管理運営事業部

〒024-0043 岩手県北上市立花14-62-3　　TEL 0197-72-5067／FAX 0197-72-5074

E-mail:　info.river@kitakamigawa.or.jp